



社会医療法人・社会福祉法人
栄光会

2022 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



目 次

理事長挨拶	1
-------------	---

I 社会医療法人 社会福祉法人 栄光会 概要

・ 栄光会創立の精神・理念、基本方針 ..	4
・ 社会医療法人栄光会の概要	5
・ 社会医療法人栄光会の沿革	9
・ 社会医療法人栄光会の歴史	10
・ 栄光会グループ 組織図	13
・ 栄光会グループ 職員状況	14
・ 外来診療予定表	15

II 社会福祉法人 栄光会の現況

・ 特別養護老人ホーム ころろ	18
-----------------------	----

III 社会医療法人 栄光会の現況

1 地域連携室

・ ライフサポートセンター	24
---------------------	----

2 医療事業本部

1) 栄光病院

・ 総合診療科	28
・ 呼吸器内科	29
・ 糖尿病・内分泌内科	30
・ 消化器内科	32
・ 外科・消化器科	34
・ 脳神経内科	35
・ リハビリテーション科	36
・ ホスピス	38
・ 在宅医療センター栄光	40

(1) 診療技術部

・ 薬剤課	44
・ 放射線室	46
・ 臨床検査室	47
・ リハビリテーション課	48
・ 栄養管理課	49
・ 医療機器安全管理室	50

(2) 看護部

・ 看護部長挨拶	52
・ 2022年度看護部目標	53
・ 看護管理室	54

・ 外来/内視鏡/中材	57
・ 3 A病棟（ホスピス）	60
・ 3 B病棟（ホスピス）	62
・ 2 C病棟（ホスピス）	64
・ 4 A病棟	66
・ 4 B病棟	68
・ 5 A病棟	70

(3) 感染防止対策室・医療安全管理室

・ 感染防止対策室	74
・ 医療安全管理室	76

(4) 医療事務

・ 医事課	80
・ 診療情報管理室	81

2) 栄光会ファミリークリニック

3) 栄光会訪問看護ステーション

3 介護事業本部

・ 栄光会ケアプランサービス	96
・ 介護付き有料老人ホームかめやま ..	97
・ 栄光会通所リハビリテーション	99
・ 栄光会ヘルパーステーション	100
・ 介護事業本部栄養管理課	101

4 伝道部

5 地域協働部

6 ボランティア統括部

7 本部事務局

・ 財務・経理課	117
----------------	-----

IV 研修状況

1 院内・院外研修状況

・ 新入職員研修実施状況	122
・ 第14回TQM研究発表会	123
・ 院内研修会 実施状況	124
・ 看護部院内研修	125
・ 院外研修・院外発表の状況	126

2 対外研修の状況

・ 栄光杯セミナーこれまでの歩み	134
・ 2022年度院外からの研修	140

新たな栄光会を目指して

社会医療法人 栄光会 理事長

井上 裕

栄光会は 2021年9月に創始者の一人である名誉会長・下稲葉康之先生を失ったばかりですが、更に2023年3月26日もう一人、総院長・折田泰彦先生を天国にお見送りすることとなりました。本当に長い間、栄光会のために頑張られ、基盤づくりからその発展に尽くされ感謝の言葉もございませんが、安らかにお眠りくださることを祈念するものです。私（井上）は2021年7月から院長を併任する形で理事長職に就任いたしましたが、栄光会40年の歴史を継続すること、下稲葉、折田先生の意志を引き継ぐこと、更には4年目に入ったコロナ感染症蔓延における法人運営というまことに大きな課題に直面しております。今年のスローガンの一つに「コロナとともに生きる」を掲げております。職員一人ひとりの協力をお願いし、全力でこなしていく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

昨年から過去の40年の間に出来上がった栄光会の様々なシステムを広く見直し、今後の栄光会にふさわしいシステムに作りかえる作業を行ってまいりました。ここ数年で多くの部署で創生期からの先達が引退され、第2世代ともいべき若い方々がトップに立っていますので、良いタイミングだったと思います。2022年度はまず看護部の再編として「看護管理室」の創設を行い、更には「患者サポートセンター」と「ホスピス地域連携室」の統合という大きな組織改革を行いました。2023年度もいくつかの部署の再生を予定しております

コロナ感染症では栄光会も大きな打撃を受けました。2022年度は病院内クラスター感染や介護施設におけるクラスターを経験しました。多くの職員の素晴らしい働きにより、乗り越えることができましたが、コロナの経験をつむにつれ、栄光会では職員の意識も向上し、組織内での自発的対応が可能な極めて優秀な組織体に成長しているように感じます。経営的には、極めて困難な二年間となりましたが、with CORONAを自覚し地域で必要とされる医療を淡々と前向きにおこなっていく所存です。

以上新しい栄光会はすでにスタートしています。職員一同、一致団結し今後の栄光会発展のためによりしくご協力をお願いします。

社会医療法人 栄光会

社会福祉法人 栄光会

概要

栄光会創立の精神・理念・基本方針

栄光会創立の精神

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし(キリスト)にしてくれた
ことなのである。 ～ 聖書 ～

栄光会理念・基本方針

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の
医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の
権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

【栄光病院】

外来

24 時間、いつでもみなさんが最善の診療が受けられるような診療体制を整え、院内の各科や地域の医療関係機関との連携を図って、一人ひとりの患者さんを総合的に診療しています。また、同時に地域医療の充実と向上に努めています。

- 総合診療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 外科
- 脳神経内科
- 糖尿病内科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 肛門科
- ホスピス外来（相談）

在宅医療・訪問看護・在宅ホスピスケア〈在宅医療センター栄光／栄光会訪問看護ステーション〉

高齢化社会の到来や新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、在宅医療・訪問看護の必要性は高まるばかりです。当法人ではいち早く専従・専任のドクター・看護師チームを組んで24時間・365日いつでも訪問できる体制をとりました。具体的には'90年代後半には訪問看護ステーションを開設し、'06年4月には栄光会傘下の「亀山クリニック」について『在宅療養支援診療所』の認可を得るとともに、'10年4月には「栄光病院」が『在宅療養支援病院』としての認可を得、病院及び両クリニックとの連携強化を行いました。そして、'13年4月には「在宅医療センター栄光」をオープンし、より一層充実した在宅医療を推進しています。'18年6月には、「栄光会訪問看護ステーション」を栄光病院敷地内に移転し、病院との連携をさらに強化しております。'20年5月、亀山クリニックとこどもクリニックを統合し開設した「栄光会ファミリークリニック」(『在宅療養支援診療所』)においても、在宅医療にさらに積極的に取り組んでおります。

健康診断・ドック 〈健診センター：'12年7月稼働開始〉

日頃の健康管理によって病気を未然に防ぎ、病気を早期発見するため、高血圧・ガン・心臓病などの成人病予防の各種成人病検診、人間ドック、内視鏡検査、健康・予防意識の向上を図る働きに力を入れて取り組んでいます。

リハビリテーション

体力回復や術後の機能回復について、パワーリハビリ機器を完備したリハビリテーションルームの運用に加え、病棟・ベッドサイドでの訓練も行っています。専門のスタッフが一人ひとりの患者さんに合ったプログラムでバックアップします。

救急医療

栄光病院は二次救急告示病院として、地域住民のみなさま方の急な発熱・痛みや苦しみ、突発的な事故などにも対応できる設備やスタッフで24時間・365日体制の医療を行っています。またその実績が認められ、2009年12月、社会医療法人として認可されています。

オープンシステム（開放型病院）

地域医療の向上・充実のため、医師会との協力のもとに、開放型病院として取り組んでいます。今後はさらに機能を充実させ地域医療を担う病院として、地域の皆様の期待に応えていく所存です。

【栄光会ファミリークリニック】

診療科目：内科・小児科・呼吸器内科・アレルギー科

栄光会ファミリークリニックは、'20年5月に、「亀山クリニック」「栄光会こどもクリニック」を統合し、運営を開始しました。

『全世代型のクリニック』として、これまで以上に患者さんに信頼される身近なかかりつけ医として、地域に根ざした医療を実践するとともに、栄光病院における専門医療・検査・入院などとの連携を密にしています。また在宅療養支援診療所として患者さんやご家族の要望に応えるため在宅医療を強力に推進しています。

【介護保険事業】

介護は医療・看護と一体でなければならないという理念のもとに、栄光会ファミリークリニックに併設する「医療介護施設かめやま」を中心として、次の通り関連事業に着手しています。

【関連事業】

- 栄光会ケアプランサービス（居宅介護支援事業所）
- 栄光会訪問看護ステーション（訪問看護、訪問リハビリテーション）
- 栄光会ファミリークリニック 栄光会通所リハビリテーション（デイケア）
- 介護付き有料老人ホーム「かめやま」
- 栄光会ヘルパーステーション（訪問介護）

【栄光病院の施設概要】

- 許可病床数 178 床
- 看護単位 外来 ・ 6 病棟
 - 【内訳】 緩和ケア病棟 3 病棟（71 床）
看護配置 7 : 1
 - 地域包括ケア病棟（45 床）
看護配置 13 : 1
 - 障害者施設等入院基本料病棟（28 床）
看護配置 10 : 1
 - 回復期リハビリテーション病棟（34 床）
看護配置 13 : 1
- 救急指定病院 24 時間受診可
- 健診センター
- 重症患者管理施設
 - 心拍、呼吸、血圧監視装置
 - 人工呼吸器、除細動器
 - 心臓ペースメーカー（体外式）
- 消化器内視鏡室
- 気管支鏡検査

●リハビリテーション施設

各種リハビリテーション施設

各種理学療法機器

パワーリハビリ機器

●中央材料室

●MR I

●80 列マルチ・スキャンCT

●X線透視撮影装置

●マンモグラフィー

●迅速血液ガス・電解質測定装置

●心臓超音波装置

●腹部超音波診断装置、その他

社会医療法人栄光会の沿革

昭和の初頭	亀山病院(炭鉱付属病院)としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院(キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転)
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
平成 2年 9月	緩和ケア病棟認可(西日本初 全国で5番目)
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可 在宅医療・訪問看護及びデイケア(通所リハビリテーション)スタート
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 栄光病院 認可(福岡県では初、全国で3番目)
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
平成12年 7月	開放型病院認可
平成13年12月	病院機能評価 V. 3 受審(平成14年2月 認定)
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会「聖ヨゼフの園」(北九州市八幡西区)譲受
平成15年 8月	診療所 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院竣工、移転 及び 亀山クリニック開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入所者生活介護「かめやま」開設
平成19年 2月	病院機能評価 V. 5 更新・受審(平成19年3月 認定)
平成20年 1月	下稲葉 康之 理事長、藤江会長 就任(藤江会長は平成25年12月末で退任)
平成20年 3月	病院機能評価 付加機能 緩和ケア受審
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認定(福岡県では4番目)
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 1月	病院機能評価 V. 6 更新・受審(平成24年4月 認定)
平成24年 4月	栄光病院新館 竣工(ホスピス病棟、健診センター 他)
平成24年 5月	ホスピス新病棟稼働、病棟再編成
平成24年 7月	健診センター稼働
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設(栄光会クリニック博多の森を小児科に)
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 発足
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ(経営理念)』上梓
平成27年 8月	特別養護老人ホーム「こころ」開業
平成29年 1月	病院機能評価 3rdG Ver:1.1 更新・受審(平成29年4月 認定)
平成29年 7月	社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉康之、理事長 青戸雄司 就任 社会医療法人 栄光会 栄光病院 院長 井上裕 就任
平成30年 5月	ケアプランサービス・訪問看護ステーション 移転(栄光病院敷地内へ)
平成30年 9月	介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
平成30年12月	住宅型有料老人ホーム「安息」 休止(令和4年7月 閉鎖)
令和 2年 5月	栄光会ファミリークリニック 開設(亀山クリニック・栄光会こどもクリニック統合)
7月	社会医療法人 栄光会 名誉会長 下稲葉康之 就任
令和 3年 7月	社会医療法人 栄光会 理事長 井上 裕 就任 社会福祉法人 栄光会 理事長 青戸雄司 就任

『私たちは「心」も「からだ」もともに癒され
幸せに生きる医療・看護・介護”を目指しています』

社会医療法人 栄光会 はキリスト教の精神に基づいて、健康管理、日常診療、救急医療、在宅医療、終末期医療(ホスピスケア)などの医療とともに、介護事業も強力に推進し、人間の全生涯にわたり、地域に開かれた医療・看護・介護を目指して取り組んでいます。悩みや痛み、苦しみを共にし、「心」も「からだ」も癒される医療・介護の充実と、同時に患者さん・ご利用者・ご家族など一人ひとりの幸せと生きがいに応えることを目指しています。

炭鉱病院からキリスト教病院に

社会医療法人 栄光会 栄光病院は昭和の初め、志免町亀山に炭鉱付属の亀山病院としてスタートしました。時代は移り変わり、エネルギー革命によって石炭が石油へと転換されると、炭鉱は閉山。亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。'70年代～'80年代の亀山病院は、老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中'86年4月、旧病院を 現・医療介護施設かめやま の地に新築移転しました。当時、院長であった藤江良郎医師(元・会長)は、下稲葉康之医師(元・名誉会長、名誉ホスピス長)、折田泰彦医師(元・総院長、副理事長)らと共に、キリスト教病院として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発させたのです。

それは、これまでの診療に加え、まだ「ホスピス」という言葉になじみのない頃に、終末期医療に真正面から取り組む全国的にも珍しい存在の病院でした。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表 4～5 人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか?」。地域の方からの素朴な質問です。栄光病院の藤江元・会長、下稲葉元・名誉会長(・名誉ホスピス長)、折田元・総院長(・副理事長)の3人をはじめ、スタッフの10%程はクリスチャンで、栄光病院の医療精神はキリストの癒しを礎としています。一方、地域には仏教徒や無宗教の方もたくさんおられます。栄光病院は、宗派や信仰の有無に関係なく、24時間診療や訪問看護にあたっています。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように、栄光病院を中心とする栄光会各施設は創立の時から、このような地域の方々の理解と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

人と人のふれあいを通して

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科などで、病床数 150 床からスタートしました。また、開院当初'82 年から終末期医療に取り組んできました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に 178 床に増床し、その内、24 床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、'90 年 3 月、念願のホスピス病棟が完成し、'98 年 5 月には 36 床に増床、'05 年 11 月、病院の移転を機に 50 床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、'12 年 6 月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、ホスピス病棟 71 床という全国で最大の病床規模を有する病院になりました。当院は、患者さん・ご家族に温かいおもてなし（ホスピス）の心で仕え、穏やかな生活を送って頂くことを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式やお葬式も執り行っています。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さんの人生をトータルに考えると、医療の中で「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

そして、未来へ

栄光病院は'99 年 9 月、「特別医療法人」として、医療の安定性及び持続性を確保するため新設された法人として、福岡県では 1 番目、全国で 4 番目の認可を得ました。

同じ'99 年には開放型病院の認可を受け、地域の開業医の先生 110 名ほどが賛同登録するなど病診連携が順調に進んでいます。数年前より紹介率は 20%を超える状況となっています。

'01 年には、病院の質的レベルの評価を受けるために、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(V.3)の審査を受け、'02 年 2 月に認定を得ました。その後'07 年には「病院機能評価」の初めての更新を受け(V.5)、翌年 緩和ケア病棟 50 床について「病院機能評価付加機能」として評価をいただきました。更に'12 年 1 月には 2 度目の更新(V.6)、'17 年 1 月には 3 度目の更新(3rd G Ver: 1.1)を無事執り行うことができました。2023 年度には 4 度目の更新審査の受審予定です。

'03 年には、旧病院から同じ志免町内ではあるものの約 0.7km 西方の地に、新病院建築を計画し、'05 年 11 月竣工、移転しました。また旧病院は増改築工事を経て('06 年 4 月竣工)、1F は亀山クリニック（現・栄光会ファミリークリニック）、その上階には介護老人保健施設「グロリア」や介護付き有料老人ホーム「かめやま」などを併設、運用するようにしました（この施設を総称して法人内では「医療介護施設 かめやま」と称しています）。

以上により、医療、看護、介護を 3 本柱とする、より地域に密着した病院及びその関連施設を完成させたことになりました。その後、'11 年には新たに住宅型有料老人ホーム「安息」の稼働とリハビリテーション機能の強化を目的とした「通所リハビリテーション」の拡充も行っています。

（'18 年 9 月 介護老人保健施設「グロリア」閉鎖、

同年 12 月 住宅型有料老人ホーム「安息」休止、'22 年 7 月閉鎖）

一方、'09年12月には「社会医療法人」としてより一層公益性の高い法人格の認可も受けました。これは24時間365日の救急医療の実績が認められたことによるものです。

その後、病院においては'11年度より新病棟の建築に入り('12年4月竣工)、同年6月より病棟再編による新体制、同年7月より新「健診センター」がスタートするなど大きな変化の年となりました。また、'13年4月には、「在宅医療センター栄光」がオープンし、在宅医療に一層注力しています。また、「栄光会クリニック博多の森」が小児医療に特化する事となり同年9月より「栄光会こどもクリニック」としての運営が始まりました。更には福岡県による'14年事業としての特別養護老人ホーム申請(80床、内ショートステイ10床)が認められ、その名も特別養護老人ホーム「こころ」としました。その後も着々と計画は進み、'14年5月には社会福祉法人 栄光会が発足し、その理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉名誉会長が兼務で就任しました。その後'14年9月には特別養護老人ホーム「こころ」が着工し、予定通り'15年7月には竣工、同年8月より開業の運びとなりました。また、'20年5月には、亀山クリニックと栄光会こどもクリニックを統合し、全世代対応・地域密着のクリニックとして「栄光会ファミリークリニック」の運営を開始しました。コロナ禍にあって、ワクチン接種業務、発熱外来、また在宅医療にも積極的に取り組んでいます。

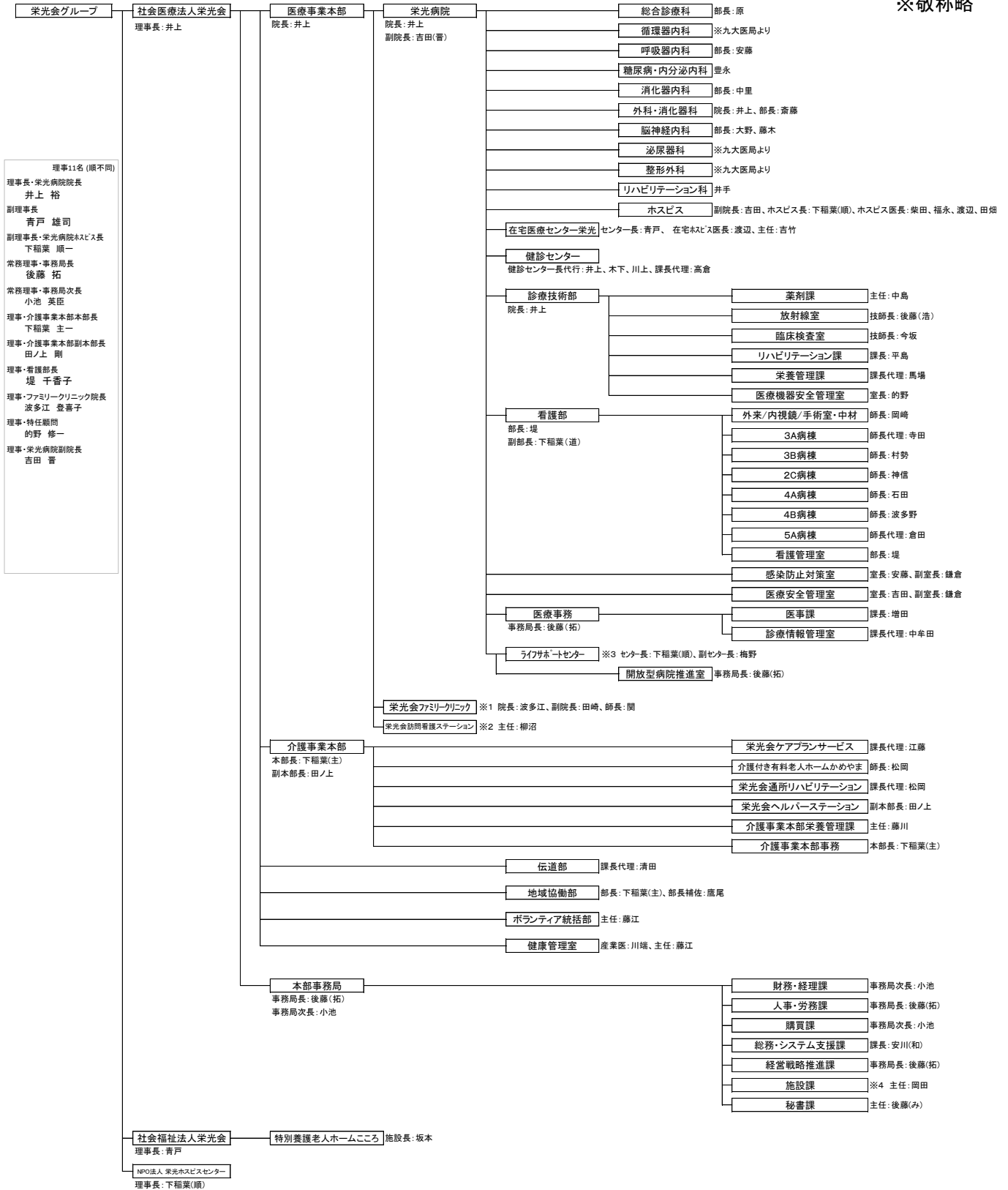
'23年3月26日、法人創立者の一人である総院長・折田泰彦が逝去し、当法人の創立者である3人の医師を見送ったこととなります。大きな柱を失った私たちではありますが、志を同じくする栄光会スタッフとともにこの難局を乗り越えていくべく、日々邁進しております。

現在、社会医療法人・社会福祉法人合せると職員数450名を超える大所帯となりました。栄光会グループとしては、産婦人科を除く全ての人生ステージに対応する医療・看護・介護の体制を有しています。今後、地域医療を担う医療機関としての機能を一層向上させ、市中の大規模病院や地域の診療所との連携をさらに密にすることによって、地域住民のみなさまが安心して暮らせる地域医療圏完結型の医療体制を構築し、在宅医療と介護・福祉を統合した患者さん・利用者の方々・ご家族のトータルな支援ができる体制を築き上げたいと思っています。

これからも、建院の理念であるキリスト教精神、栄光会創立の理念を今一度心に刻み、患者さん・ご利用者・ご家族の幸せと生きがいのために、スタッフ一同心と力を合わせて、なお一層励んで参ります。

栄光会グループ組織図(2023. 04. 01. 現在)

※敬称略



※1 : 栄光会ファミリークリニックは、看護師の人事教育責任は看護部が、事務職員の人事教育責任は医療事務が有するものとします。
 ※2 : 栄光会訪問看護ステーションは、看護師の人事教育責任は看護部が有するものとします。
 ※3 : ライフサポートセンターは、看護師の人事教育責任は看護部が有するものとします。
 ※4 : 介護事業本部における施設課職員は、本部事務局の「施設課」に所属するものとします。

■ 栄光会グループ 職員状況 (2023. 04. 01. 現在)

理事長 兼 院長(病院)	1	理学療法士	1 9
副理事長	2	作業療法士	1 5
院長(クリニック)	1	言語聴覚士	6
副院長(病院/クリニック)	2	音楽療法士	1
医師・常勤	1 5	相談員	6
医師・非常勤	1	ケアマネージャー	1 0
看護師	1 8 3	ケアワーカー	7 6
准看護師	5	歯科衛生士	1
保健師	1	臨床工学技士	2
薬剤師	3	診療情報管理士	3
放射線技師	5	事務職	6 1
臨床検査技師	4	チャプレン	1
管理栄養士	5	その他	2 7
合 計			4 5 6

[事業所別内訳]	栄光病院	3 3 6
	医療介護施設かめやま	6 6
	特別養護老人ホームころ	5 4

外来診療予定表【栄光病院】(2023. 04. 01. 現在)

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
総 合	①	原	藤 木	布 巻	原	青 戸	安 藤	原/安藤	豊 永	豊 永	青 戸	原/安藤	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		斎 藤		鶴 田		手 越	
外 科		井 上		井 上		井上/斎藤		斎 藤		斎 藤		井上/斎藤	井上/ 斎藤 (初診のみ) 受付16:30迄
専 門・ 予 約 外 来	循 環 器					畑 島	折田義也	折田加奈子	吉田賢明				
	呼 吸 器				安 藤					安 藤		大後 (第1土曜) 中村 (第3土曜)	
	糖 尿 病		豊 永			豊 永			福 永 (再診のみ/15時迄)				
	脳神経内科	鶴 田		大 野		藤 木		大 野		藤 木			
	整 形 外 科		山 口	本 村				原雄人 (am10:00~)					
泌 尿 器 科												九 大	

※注) 表中の表示について「/」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前 9 時～午後 5 時 00 分（昼休み 12 時 30 分～13 時 30 分）となっています。

○午前中の受付は 12:00 までとなっておりますのでご注意ください。

○午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。

○急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後(13:30-17:00)にお願いいたします。

(緊急はその限りではありません)

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください。

■ 外来診療予定表【栄光会ファミリークリニック】(2023. 04. 01. 現在)

内科・呼吸器内科・アレルギー科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
波多江	—	波多江	—	手越	—	波多江	—	波多江	—	波多江	—

小児科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—

社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 坂本 久美子

こころ方針

おもてなしの心で 皆さまの幸せと

生きがいのある生活をサポートします

構成人員

施設長 坂本久美子

介護支援専門員	2名	相談員	1名	機能訓練指導員	1名
看護師	4名	管理栄養士	1名	管理事務員	1名
介護士	35名	食器洗浄員	3名	夜間管理当直員	4名

概要

皆様方のご支援、ご協力のもと8年目を迎えております。

入居70名＋（短期入所）ショート10名の定員80床

要介護3から要介護5までの方が入居対象です。平均要介護度4.1です

全室個室型のユニットケアを提供しております

日本の高齢者介護におけるケアの考え方、どのようにすれば安心して過ごし、生きていてよかったと
思っていただけなのか、自分自身に問いかけながら施設づくりをおこなっております。

2023年度 目標

感染を防ぎ、安定した経営を実行する

1) 業務改善を行い、介護事業のしっかりした運営に努める

2025年度に全国で32万人不足するといわれる人材確保の対応

介護保険制度事業存続の為、事業の質の良し悪しは当然収入にも差がでます。

人材育成方法、リモート化していた研修の緩和など、コロナ禍の3年間で出来なかった外部研修にも感
染予防に努めながら行っていきたいと考えます。

昨年度は、クラスター発生により稼働を増進することが出来ない月がありました。感染拡大を防ぐため
には、初動対応が重要であり、感染BCP・感染マニュアルの見直しなど栄光病院の感染対策室と連携
をとっていき一人一人のレベルアップを図ります。

2) 人材教育・経営的視点に力を入れ次世代の介護職員を育てる

介護職員は、退職者ゼロにはいきませんが、各職員のモチベーションアップを図るために、今年度は、それぞれが業務改善や無駄を省くこと、オムツの適切な当て方など自分たちで考えられる経営的視点などに注目してもらい、話し合い研修などを増やしていきたいと考えています。

開設時からこれまで255名の入居がありました。そのうち191名の退居(137名の看取り)です。
2022年度の看取りは30名でした。(2023年3月31日現在)

看取り教育・育成としては、コミュニケーション・リモート研修なども含め継続していきます

施設内での活動や、ご家族の面会を少しずつ再開しております。

今年度は、夏、秋祭りやクリスマス会も行う予定です。

学習委員会

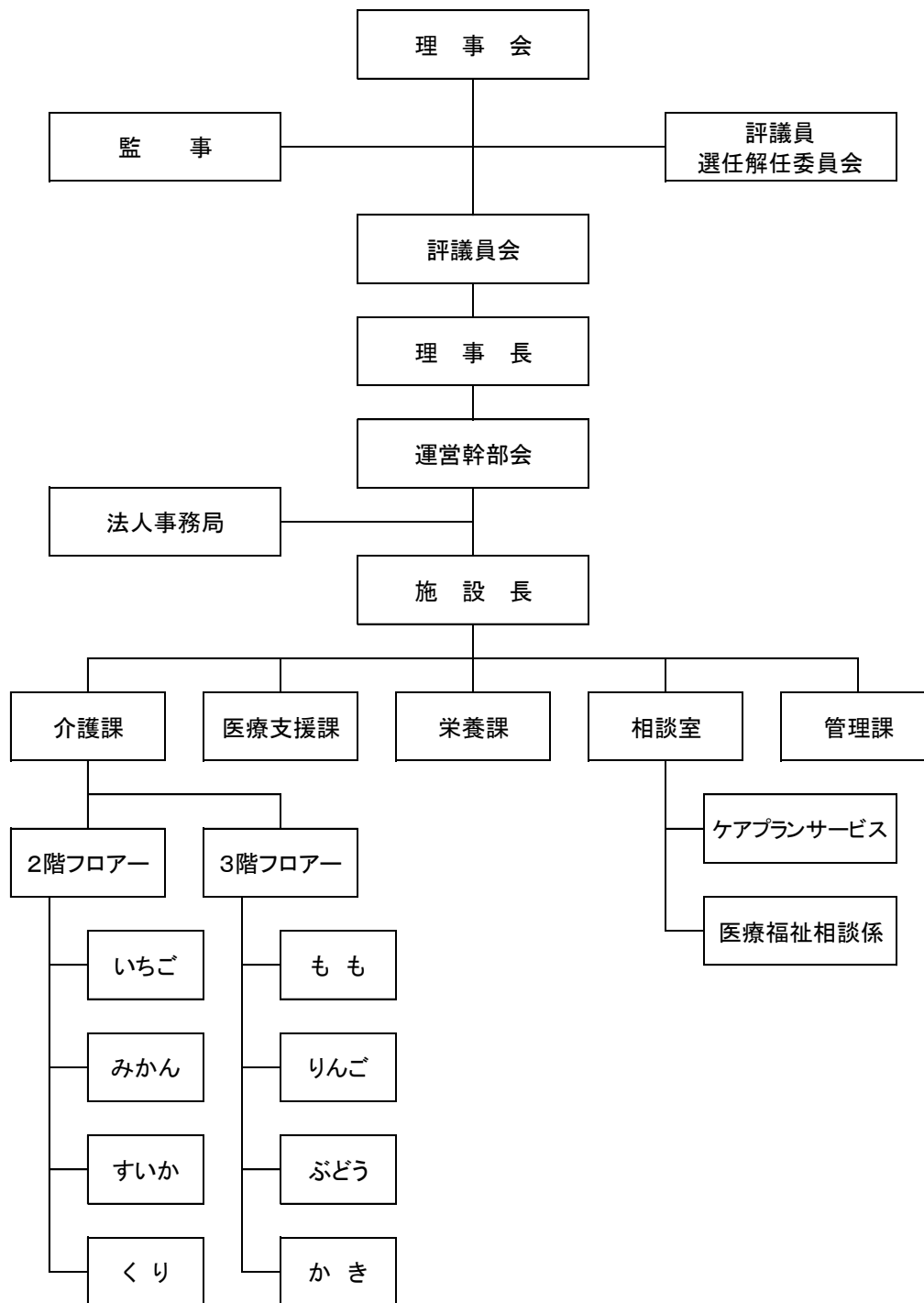
令和4年度 年間計画

日付	曜日	議題	講師
4月4日・11日	(月)	排泄ケア	ユニ・チャーム
5月2日	(月)	入居までの流れ	生活相談員
6月6日	(月)	食中毒予防	栄養士
6月20日	(月)	食中毒予防	栄養士
7月4日	(月)	身体拘束・虐待	祝・ケアマネジャー
8月1日・15日	(月)	ポジショニング・移乗	田本機能訓練士
9月5日	(月)	看取り研修	坂本・看護師
10月3日	(月)	事例研修	ユニットスタッフ
11月7日	(月)	看取り研修	坂本・看護師
12月5日	(月)	感染症対策 (新型コロナウイルス・ノロウイルス)	看護師
1月16日	(月)	感染症対策 (新型コロナウイルス・ノロウイルス)	看護師
2月6日	(月)	身体拘束・虐待	祝・ケアマネジャー
2月20日	(月)	防犯対策	祝・ケアマネジャー

施設は入居者の感染対策に協力し今まで通りマスク手洗い、全スタッフの2回／週の抗原検査を行っております。

今後とも皆様のご協力ご支援よろしく願いいたします。

社会福祉法人 栄光会 組織図



社会医療法人 栄光会 現況

地域連携室

■ ライフサポートセンター（地域連携室）

センター長 下稲葉 順一
副センター長 梅野 理加

職場紹介

1. 職員構成

○前方支援 副センター長：看護師長 西尾 雅代（～2023年3月）
 副センター長：看護師長 梅野 理加（2023年2月～）
 看護師 古賀 悦子
 看護師 山田 佳代

○後方支援 主任： 看護師 和田 真知子
 副主任： MSW 齊藤 直子
 MSW 矢羽田 有希子
 MSW 柴田 昌子
 看護師 末永 理絵子

2. 業務内容

- ・入院調整 ・退院支援 ・医療福祉相談（患者相談）
- ・ホスピス相談調整
- ・地域医療連携（病病連携・地域連携パス） ・広報活動 その他

3. 2022年度目標

- 1) 全人的ケアの提供
- 2) 円滑な連携
- 3) 入退院支援に関する知識の向上

2022年度を振り返って

2022年7月より患者サポートセンターとホスピス地域連携室が統合し、栄光病院の地域連携の窓口が一本化された。以前のように疾患により窓口が分かれ、外部からの調整を戸惑わせることは無く相談依頼を頂く体制を整えた。しかし、当院にはホスピスがあるからこそ、当院転院後に調整が可能と思われるような癌の末期であってもホスピスへの紹介ではなく、担当医師より予後の説明が不十分で元気になって家に帰りたい、リハビリをしっかりとしてほしいという願いが強い病状理解に乏しい紹介も多いと感じる。そのため、地域包括病棟、回復期病棟の入院期間に制限がある中では退院調整が難しいケースが多い現状がある。

さらに、入退院支援加算1の取得を目的として、要件となる後方支援体制を整えるため看護師2名を退院支援業務（前方支援から後方支援）に変更し業務を遂行している。

また、ホスピス相談を前方スタッフが同時に行うこととなった。入院情報記載内容を減少し業務改善に努めたが、面会制限中のため、事前情報収集は、電話聴き取りであるため電話対応の占める時間が

今まで以上に多くなった。

さらに、コロナ感染拡大に伴い、クラスター発生し、転院延期となるケースも多くあり、確認事項に細心の注意を払った。また、人員不足となっている病棟スタッフの体制を考慮しながらの調整は、情報受け病棟と医師の選択が副看護部長・理事長・院長に判断を仰ぐことで入院判定の責任を軽減できたものの、業務改善がまだまだ十分ではない。しかし、病院稼働率に良い反映が得られるように熱意と高いホスピスマインドを持ち日々業務に励んでいる。

(前副センター長 西尾雅代)

2023年度に向けて

2022年度の7月よりライフサポートセンター（地域連携室）として活動が開始となった。ホスピス地域連携室の役割と一般病棟との役割と協同することにより、より地域に寄り添い相談窓口を強化できると考える。

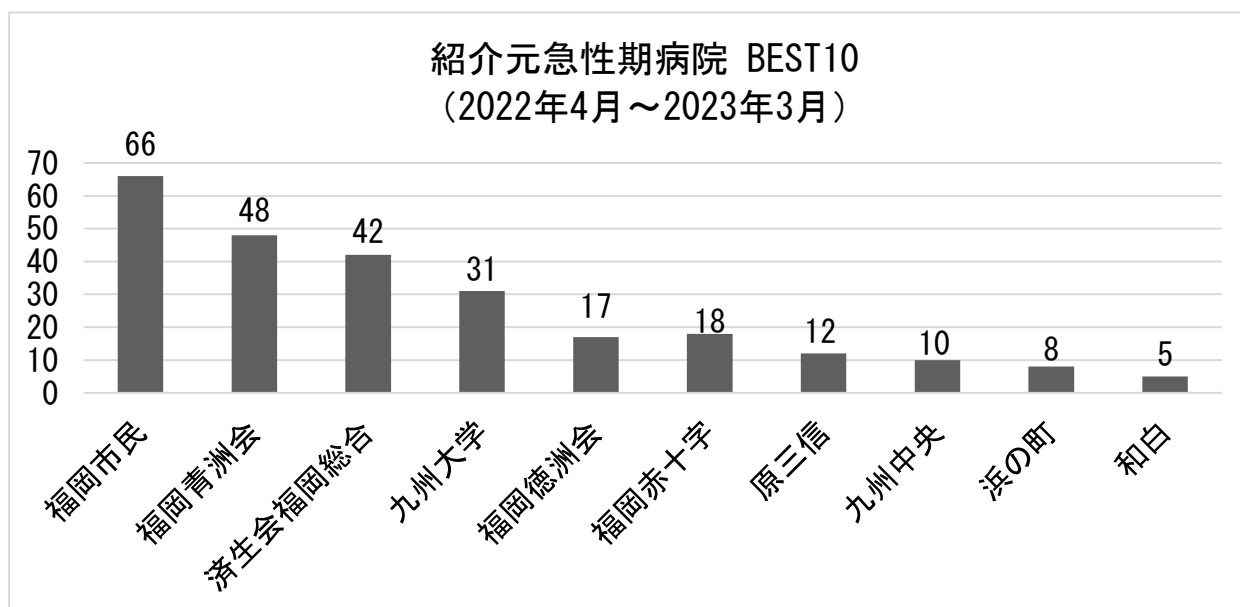
しかし、システムの構築が追いつかず相談内容や対応が多く今後はより細やかに行えるよう院内のシステムを構築できるよう努める。

また、地域の方々にいつでも相談できる窓口が整えられるようにしていく。

2023年度目標

1. 栄光会の窓口として患者、家族、医療機関へ安心、信頼して相談できる部署を目指す
2. 稼働率や数字を意識した動きが取れる業務の効率化

2022年度統計



医療事業本部

職場紹介

1. 職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医
老年科専門医

青戸 雄司 : 総合内科専門医

安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医

豊永 雅恵

布巻 直美

鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医

手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2022年度を振り返って

昨年度同様、SARS／COV2感染に対策として発熱外来を継続し、玄関先での検温や発熱者受診時のゾーニング、防護具の着用、手洗いの徹底、院内にてCOVID19迅速抗原キット・核酸検査を導入し院内感染対策を行った。

また、オミクロン株による第7波・第8波では感染者数も多く、休日・時間外に多くの発熱者が受診された。

2023年度に向けて

SARS／COV2感染症が感染症新法5類に変更されるが、本年度も院内感染対策を継続しつつ、各種疾患のプライマリケアへの対応を充実させる。

年間統計

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	187	215	219	608	382	128	198	218	314	262	206	158	3,095
再診	1,434	1,274	1,307	1,677	1,623	1,329	1,403	1,389	1,532	1,190	1,105	1,184	16,447
計	1,621	1,489	1,526	2,285	2,005	1,457	1,601	1,607	1,846	1,452	1,311	1,342	19,542

職場紹介

1. 職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4 A病棟医長）

2022年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。

非常勤医師は九州大学より月2回の土曜日の午前の診療で、健診での胸部レントゲン異常の精査も行っています。

当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、2022年度は0件で、肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となり、気管支鏡検査が必要な症例は他院に紹介しています。

入院診療は4 A病棟で行いました。本年度の入院総数は103例で、2019年度（136例）より33例減少、2020年度（97例）より6例増加、2021年度（93例）より10例増加し、コロナ禍における病院の稼働率の低下がやや緩和されてきていると考えます。疾患別では肺炎（細菌性、誤嚥性）が15例と最も多く、全体の15%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が5例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っており、前年度に比べて新規症例は増加しています。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が5例、気管支喘息発作での入院はなく、吸入ステロイドを主体とした外来治療が定着したためと考えています。呼吸器疾患以外では心不全が10例、COVID-19治療後が10例、その他の疾患が39例で、特に脳梗塞後、脳出血後のリハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟への移行も含めて）が多く（12例）、呼吸器疾患以外の一般内科診療も全体の68%と多岐に渡って行いました。

2023年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指します。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者様のQOLを重視した治療を御家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の治療目的での入院は2022年度は行っていませんが、感染症法上の分類変更に伴い、今後は治療目的での入院受け入れに向けて準備する予定です。

地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門・病棟部門： 医師 豊永 雅恵

2. 診療内容

看護師（糖尿病療養指導士）・管理栄養士とチームを構成し、糖尿病専門外来を行っています。医師による診察の他、看護師による保健指導、外来教育、フットケア指導・胼胝処置、栄養士による食事指導など多職種が専門性に特化した指導を行い、更に連携することにより、専門外来として厚みのある診療を行っています。

また、予防医学として合併症の定期検査も重要であり、眼底検査・ABI・頸動脈エコー・心エコー・負荷心電図検査等を組み、また癌の合併も多く、腹部エコー・CT・消化管内視鏡検査等も必要に応じ組みます。検査により、専門施設でのPCI治療・CABG手術を行ったケースや癌の手術に繋がったケースもあります。

近年、透析導入患者の増加が医療経済上問題視されており、年間医療費が1兆7000億円と総医療費の4%を占め、少子高齢化が進む中で社会保障の運営が厳しくなる懸念があります（糟屋地区の透析導入率は他地域より高い）。中でも、糖尿病性腎症が原疾患として第1位となっており、腎臓専門医に紹介する手前の早期の段階での、血糖の厳格管理を含めた進行予防が重要と考え、当院においても、専門チームによる透析予防指導を行っています。

毎年、HbA1c・血圧・eGFRの維持・改善者の割合を厚生局に報告しており、尿中アルブミン量も含め、改善を認めています。

食習慣・生活習慣の変化や高齢化などにより糖尿病患者は年々増加しており、全ての患者が糖尿病専門施設にかかることは現実的に困難です。しかしながら、患者自身は上記のような合併症の定期検査や重症化防止に専門施設での診療を望んでおり、それを実現化するため、全国的に“糖尿病地域連携パス”の取り組みが進められています。普段は、かかりつけ医で診療を受けながら、半年～年に1回は専門施設で治療の見直しや合併症検査、生活指導を受けるというものです。当院でも、この“地域連携パス”に取り組んでおり、現在、登録医の先生方よりご紹介頂き、連携パスを運用中です。

病棟では、主に糖尿病教育入院・血糖コントロール入院（術前血糖コントロールを含む）を行っており、教育入院については、2週間コースの他、軽症者・働き盛りの患者向けの1週間コースも行っています。病状や患者の理解度等によりますが、最短で2泊3日コースもあります。看護師・栄養士・薬剤師・運動療法士とチームを構成し、当院では集団教室ではなく、患者への“個人指導”を特徴としており、患者様の都合により、入院日を調整できます。

2022年度を振り返って

- ・現在、院内のCDE取得者は7名で、次年度も受験予定者がおります。
- ・2022年4月より、『粕屋地区CKD・糖尿病対策連携システム』の糖尿病専門医療機関として登録しています。

2023年度に向けて

糖尿病地域連携診療、糖尿病教育入院、外来透析予防指導を充実させ、継続していきます。

2022年4月より始まった『粕屋地区CKD・糖尿病対策連携システム』の糖尿病専門医療機関としても、地域貢献していきたいと思います。

院内においては、勉強会（・学会）・資格取得などでレベルアップをはかっていきます。

職場紹介

1. 職員構成

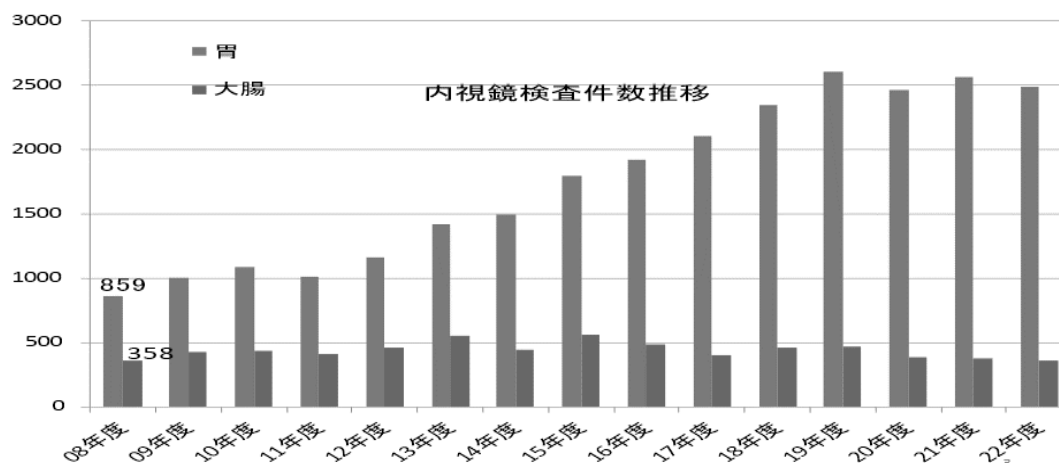
消化器内科部長兼内視鏡センター長： 中里 貴浩

消化器内視鏡センター： 外来看護師（うち認定内視鏡技師4名（専従1名））

2. 消化器内科と消化器内視鏡センターの診療内容

検査室2室を運営し、内視鏡検査と治療、胃瘻造設／交換、PTEGなどを行っています。

2022年度を振り返って



- ・上図の如くコロナ以降検査数は伸び悩んでおります。
- ・2022年度も関連部署のクラスター発生のため、度々検査枠が制限されましたが、それでも上部／下部／ERCP合わせて2856件の検査を行うことができ、2008年の内視鏡センター開所以来、検査総数は3万2千件を超えました。開放型登録医の先生方始め関係者各位に大変感謝いたします。

2023年度に向けて

	病変数(発見率)	内視鏡切除件数(切除率)
食道癌	45 (1/576)	15 (33%)
胃癌	208 (1/126)	76 (37%)
大腸癌	293 (1/22)	139 (47%)

栄光病院で発見された消化管癌（2008年4月～2023年3月31日）

総検査数 上部26143件 下部6529件

- ・上表の如く、2008年のセンター開所以来、多数の癌を発見し、内視鏡治療につなげることができました。
- ・今年3月に、オリンパス社の最新内視鏡システム（EVIS X-1）を導入しましたので、さらに診断精度を上げ、ピロリ菌除菌後胃癌、大腸内視鏡検査後発見大腸癌などの難しい課題にチーム一丸となって益々意欲的に取り組んでいきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

院長： 井上 裕 部長： 斎藤 純

2022年度を振り返って

本年度の外科スタッフは常勤医2名体制であり、病棟入院患者は4 A地域包括ケア病棟が主体で15名程度が外科常勤医の受け持ち患者であった。栄光病院外科は2017年3月をもって手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止した。その後6年が経過し消化器系疾患（急性期疾患および術後リハビリ）および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。新型コロナウイルス感染症が勃発して3年となったが、長らく続いた稼働率の低下は2022年後半に回復傾向を示している。2023年度は「コロナ感染症とともに生きる」をスローガンに外来・病棟業務に邁進していくが、特に2023年5月には感染症分類2類→5類への変更があることから、激動の1年が予想される。

外科診療を充実させるため2022年度に工夫したこと

- 1) 消化器内視鏡センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。
- 2) 従来糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティング（年二回）を開催してきた。ここ2年コロナ禍にて密な関連を保つことができなかったが、2022年は年一回ではあるが復活させている。
- 3) 患者サポートセンターが2022年7月にライフ・サポートセンターとして再稼働することで入退院が一元化でき従来よりもスムーズな診療を行えるようになった。
- 4) 2022年1月より5 A病棟リハビリ専従医として井手医師が赴任した。5 Aの回復期患者は脳血管とともに整形外科も井手医師が担当することとなった。これにより外科系の患者は主として4 A病棟において斎藤医師が適切数を主治医担当している。

今後の展望

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 乳癌検診についてはデジタル・マンモグラフィーが導入されより精密な診断が可能となった。健診センターの充実とともに被検者数の拡大に努めていきたい。
- 3) 整形外科専門医の週3回外来診療と密に連携を取りながら診療を一層充実させていくつもりである。
- 4) コロナ感染症が常態化する中で、感染対策を一層充実させることでなるべく多くの患者の入退院をすみやかに行う努力を続けたいと考える。
- 5) コロナ感染症が一日も早く収束することを願いつつ、2023年度の外科診療を続けていきたいと考える。

職場紹介

1. 職員構成

常勤医：大野雅治、藤木亮輔

非常勤医：鶴田裕子（外来のみ）

2. 診療内容/業務内容

神経疾患（脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など）を中心とした診療、病院の需要に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図神経伝導検査施行、訪問診療（大野医師）

担当病棟：神経難病センター、地域包括ケア病棟

2022年度を振り返って

4B病棟（神経難病センター）の稼働率は昨年度に比べ低下した。COVID-19の院内発症の影響があると考えられた。レスパイト入院の件数も前年度より減少した。訪問診療の件数は横ばいであった。

検査件数は前年度より減少、神経伝導検査・筋電図検査数もやや減少した。

2023年度にむけて

診療の質の向上

4B病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査（特にMRI）や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2022年 年間統計

脳神経内科外来患者数：2122

訪問診療：11件（多系統萎縮症 3、パーキンソン病 2、筋萎縮性側索硬化症 2、ミオパチー 2、脊髄小脳変性症 1、脊髄炎 1）

検査件数：CT 200、MRI 57、エコー102、脳波13、神経伝導検査・筋電図23

レスパイト入院：6名、17件

4B病棟稼働率（月別平均、%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
89	89	91	87	83	71	84	79	76	78	86	82	83

リハビリテーション科

回復期リハビリテーション病棟医長 井手 昇

職場紹介

1. 職員構成

回復期リハビリテーション病棟医長 井手 昇

2022年度を振り返って

1) 病棟診療実績（過去3年間の年度別推移：各平均値）

	入院患者数 (人/月)	新規入院数 (人/月)	稼働率 (%/月)	在院日数 (日)	在宅復帰率 (%)
2020 年度	30.0	13.1	88	70.4	82.1
		脳血管 (%) 55.2			
		運動器 (%) 44.8			
		廃用 (%) 0			
2021 年度	30.3	11.7	89	79.4	83.3
		脳血管 (%) 56.5			
		運動器 (%) 42.3			
		廃用 (%) 1.2			
2022 年度	27.2	9.3	80	88.2	79.0
		脳血管 (%) 58.6			
		運動器 (%) 40.7			
		廃用 (%) 0.7			

2) リハビリ実績（過去3年間の年度別推移）

	リハビリ総件数	リハビリ総単位数	総診療報酬点数
2020 年度	23589	53171	12519270
2021 年度	24997	55974	13220097
2022 年度	21758	47543	11089703

3) 2022年度の活動状況

- 栄光病院ホームページ内の回復期リハビリテーション部門の内容（実績、業績）を最新の情報に修正し、その診療内容につき広報を行っている。
- 福岡市民病院との定期的な病病連携を継続している。
コロナ禍のためウェブカンファレンスを実施（2022. 5. 9）。
- 自立支援体制の一環としての自動車運転再開可否判定アルゴリズムを必要な患者に対して活用している。

d) 勉強会、学会を介しての対外活動により、当院回復期リハビリテーション診療の透明性を高めている。

第10回福岡県安全運転医療連絡協議会（ZoomによるWEB開催）への参加

2022. 4. 16 井手 昇、長 景子

第11回福岡県安全運転医療連絡協議会（ZoomによるWEB開催）への参加

2022. 10. 22 井手 昇、大平裕子

第46回地域医療連携ワークショップにて発表「左後大脳動脈閉塞による純粋失読を呈した脳梗塞の1例」井手 昇、中田 歩（2022. 12. 6）

福岡脳神経疾患研究会にて発表「脳卒中の麻痺に対するリハビリテーション療法の最近のアプローチー脳卒中ガイドライン2021を中心にー」井手 昇（2022. 12. 9）

4) 2022年度の総括

2022年度は、8月と1月にコロナ感染拡大を認めた。当院でも8月にはクラスターが発生した。そのため、入院患者受け入れを制限したり、紹介先から入院延期の申し入れがあったりして、稼働率の低下を認めた。

2023年度にむけて

1) 健全な病棟運営の継続

下記、回復期リハビリテーション病棟入院料2の施設基準の維持

- a) 新規入院患者のうち4割以上が重症の患者であること。
- b) 重症の患者の3割以上が退院時に日常生活機能が改善していること。
- c) 当該病棟において、退院患者のうち他の保険医療機関へ転院した者などを除く者の割合が7割以上であること。

2) 病棟稼働率の維持

病院経営上、必要とされた病棟稼働率の堅守に努める。

3) 医療の質の向上

各種研究会、勉強会、学会などへの参加を推奨し、他医療施設へのアピールを行うと共に診療の場に知識・技術のフィードバックを行うよう努力する。

4) リハビリ診療の再構築

診療報酬改定内容に確認、リハビリ診療動向の観察を行いながら、今後、有益なリハビリ診療を継続していくために診療体制の再構築について検討を行う。

職場紹介

1. 職員構成

副院長・ホスピス主監：	吉田 晋	ホスピス医：	福永頼子
ホスピス長：	下稲葉順一	(同)	田畑 香
ホスピス医長：	柴田冬樹		
在宅ホスピス医長：	渡辺啓太郎		

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3 A病棟 24床、3 B病棟 24床、2 C病棟 23床 計：71床
入院目的：全人的ケアの提供
疼痛などの身体症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピトラ発行、グリーンフカウンセリングなど
コロナ禍のため現在、栄光ホスピスセミナー（年2回：医療者・一般の方対象）、
栄光ターミナル口腔ケア研修会などについては中止中です。
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生（医学部クラス）などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
コロナ禍のため受け入れを中止していましたが、2022年度より徐々に再開しました。
 - 4) 学会活動など
日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会

2022年度を振り返って

昨年度（2022年度）はコロナ禍となった2020年度、2021年度と比較し最もその影響を受けた年度でした。そのため例年との比較は難しく思いますが、生存退院患者数・予定外入院数の増加、平均在院日数短縮の傾向は続いています。病棟業務の多様化・多忙化に加え、感染症対策も同時に行わなくてはならず、多忙を極めました。これまで以上に多くのスタッフが新型コロナウイルスに罹患、もしくは濃厚接触者となり出勤ができずに深刻なマンパワー不足も発生しました。また大規模なクラスターに至らずに済んだものの、ホスピス病棟でも新型コロナウイルスに罹患する患者さんが発生するなど感染症対応・対策に非常に苦慮し、苦悩の日々を送った一年でした。なによりもこれまで当たり前に行ってきたケアが提供出来ないことが、コロナ禍3年目を迎えた昨年度も私たちスタッフの一番の苦悩だったと思います。

このような中で、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』をこめてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

2023年度にむけて

2021年12月に入職した川上医師が退職となり、今年度は再びホスピス病棟担当医師が一名欠員でのスタートとなりました。それに加え在宅ホスピスの需要に応えるために、田畑医師が在宅部門を兼務しており、スタッフがより少ない中での病棟運用となります。このような状況ではありますが、今後とも患者さん・ご家族また地域のニーズに応じていけるように、『こころ』を込めて励んでいく所存です。

今年度はコロナ禍4年目を迎え、2023年5月より新型コロナウイルスも5類に移行します。コロナ前と全く同じようなケア提供の体制に戻すことは難しいかもしれませんが、『コロナと共に生きる』覚悟を持ち、新しいケア提供の体制構築に努めていく年度になると思っています。

コロナを経験し得た学び、つまり提供する『ケアの形』は変わっても、ケアを提供する『こころ』、『想い』は変わらない。そしてその『こころ』、『想い』は必ず伝わるということを胸に刻み、今年度も栄光ホスピスの『こころ』を念頭に、『感染対策』と『質の高いホスピスケアの提供』、『健全な病棟運営』という課題に対峙していきたいと思っています。

2018～2022年度統計

年度	入院 患者 数	退院 患者数	死亡 退院 患者数	生存 退院 患者数	予約外 入院数	日数別の 退院患者数			平均 病床 利用 率	平均 在院 日数	ホス ピス 相談
						0-30 日	31-60 日	61日 以上			
2018 年度	587 名	585 名	478 名 〈82%〉	107 名 〈18%〉	160 名 〈27%〉	364 名 〈62%〉	124 名 〈21%〉	97 名 〈17%〉	83.6%	37.0 日	667 名
2019 年度	645 名	653 名	481 名 〈74%〉	172 名 〈26%〉	189 名 〈29%〉	405 名 〈62%〉	135 名 〈21%〉	113 名 〈17%〉	89.9%	36.0 日	658 名
2020 年度	622 名	636 名	439 名 〈70%〉	197 名 〈30%〉	216 名 〈35%〉	430 名 〈68%〉	120 名 〈19%〉	86 名 〈13%〉	77.2%	31.8 日	683 名
2021 年度	565 名	554 名	422 名 〈76%〉	132 名 〈24%〉	169 名 〈30%〉	388 名 〈70%〉	87 名 〈16%〉	79 名 〈14%〉	74.3%	34.4 日	693 名
2022 年度	538 名	538 名	409 名 〈76%〉	129 名 〈24%〉	155 名 〈29%〉	359 名 〈67%〉	103 名 〈19%〉	76 名 〈14%〉	80.6%	38.8 日	631 名

2022年度の当院のがん患者の在宅療養支援について

職場紹介

1. 職員構成

医師 3～4名（内科 1名、脳神経内科 1名、緩和ケア 1～2名）

看護師 3名（主任 1名 常勤 2名）

2. 診療内容

当科はホスピス病棟もある在宅医療部門であり、がんの症状や精神的苦痛緩和を病院受診せずとも自宅で提供できるようにしている。

また、在宅療養中に入院が必要な体調、精神的苦痛や介護困難になった場合は栄光病院のホスピスも使用できるようにしている。

2022年度ではwithコロナの考えも浸透し、病院側の面会制限も若干緩和されているところもあり、入院を選択する患者・家族が増えてきている。

療養場所の制限がないことは患者・家族にとって重要なことであり、できるだけ地域で暮らすことのできる環境や安心感を提供することに努めている。

2022年度を振り返って

栄光病院の在宅医療センターは、1. 地域のがん治療病院や、当院や他院の退院支援、2. がん治療病院の症状緩和や療養について院外に出向いての面談、3. 施設療養の支援を軸に置いた在宅療養を行っている。

2022年度の新規患者数は166件、往診を含めた自宅訪問数は2039件／年であった（図1）。自宅看取りは94件（図2）であった。

2022年度は前年度に比し、新規依頼や訪問件数が増加、看取り数は減少していた。在宅医療のみが正解ではなく、残された時間が短くても入院することが本人や家族にとって安心できる対応であれば入院も勧めている。

2023年度にむけて

今後もできるだけ依頼を断らず、また迅速に在宅に駆けつけることを心がけてゆく。

医師の対応が困難な場合は当科の別の医師を派遣し、利用者の安心を得るようにしている。

地域での医療の広がりのためには、訪問看護ステーションや施設との協働も必要で、医師だけでなく当科の看護師も訪問看護師、薬剤師やケアマネージャーと切れ間ない関係性強化を図っている。

図1：訪問件数

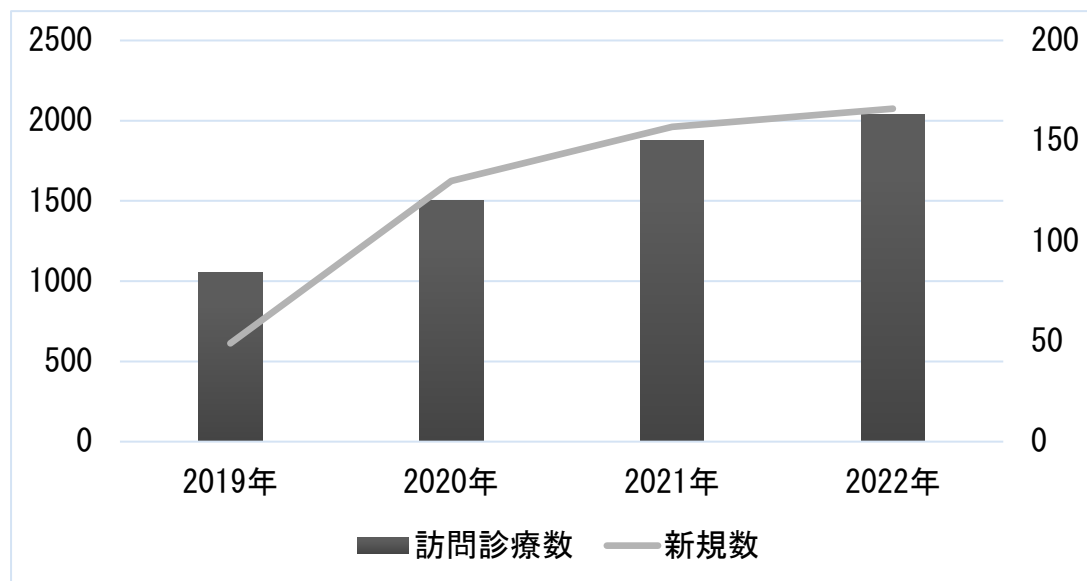
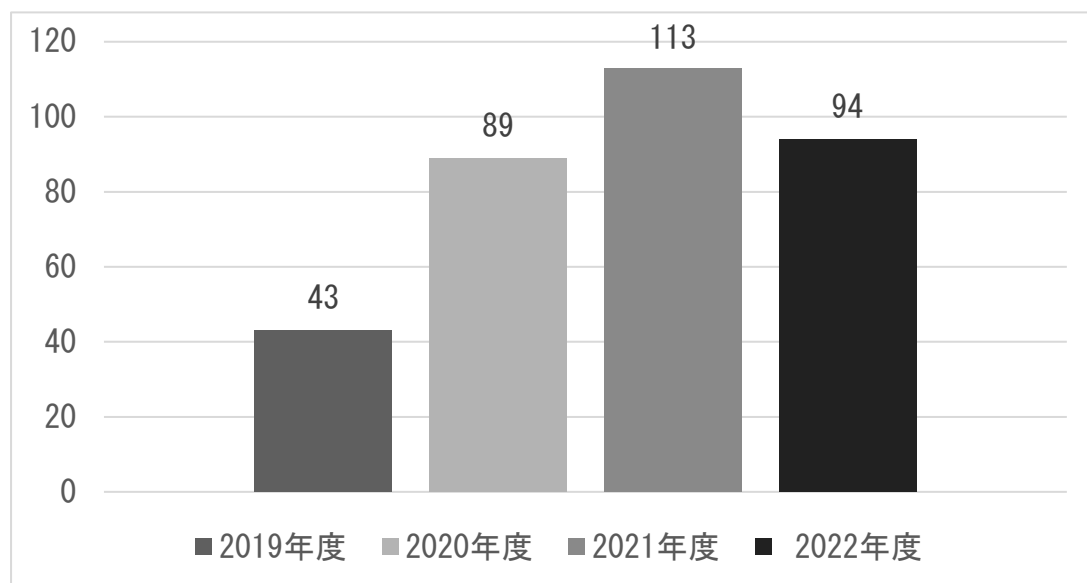


図2：自宅看取り数





診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 3名

調剤助手 2名

2. 業務内容

入院患者の持参薬鑑別

入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する薬剤管理指導

一部外来患者の注射剤の混注

医薬品の適正管理

各種委員会等への参画

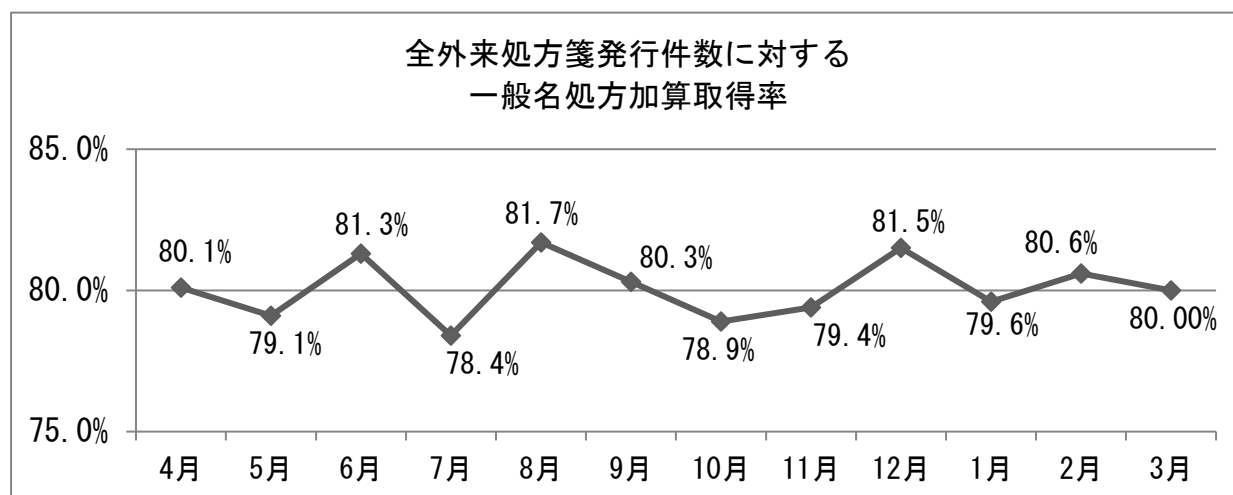
新型コロナワクチンの管理と調整

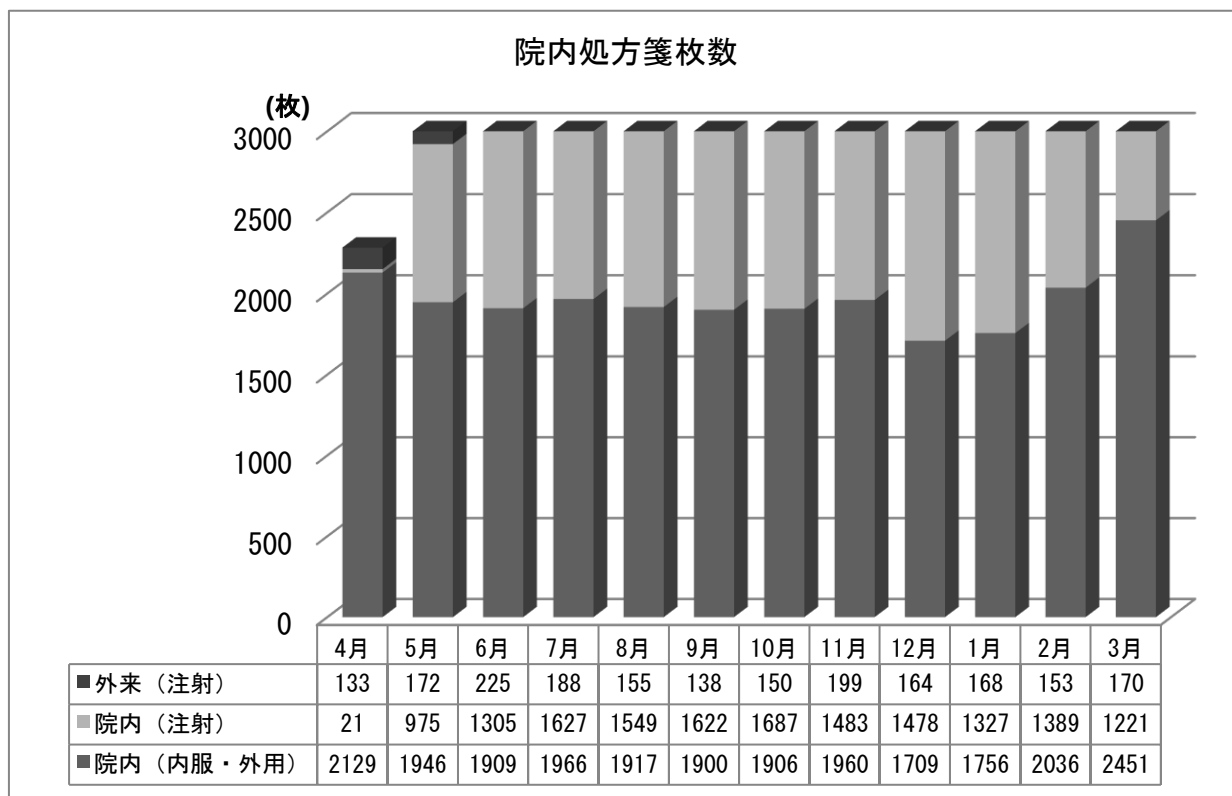
2022年度を振り返って

2020年末から続く医薬品の供給不足は、現在も尚続いており拡大しているとも言える。当院でも処方制限をかけざるを得ない状態となり、医療提供に支障を来すこととなった。代替薬（同効薬）の確保においても医薬品卸との交渉に時間を要する現状が続いている。

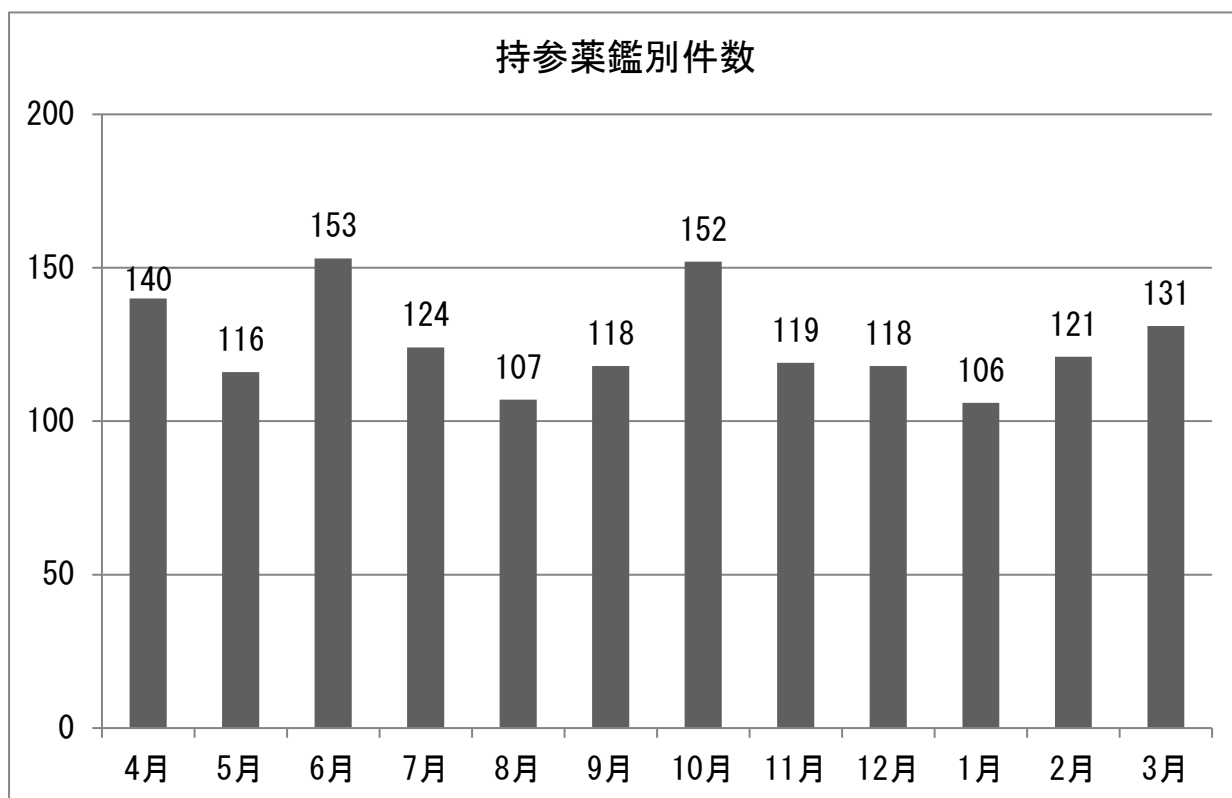
2022年度の診療報酬改定に伴い、入院基本料に係わる褥瘡対策の内容が見直され、褥瘡対策に関する診療計画に薬剤師が多職種と連携し、薬学的管理を実施することとなった。全身管理として褥瘡が起因とする感染のコントロール、輸液や経腸栄養を用いた栄養管理、局所管理として薬効・基剤を考慮した薬剤選択、薬剤滞留の問題を考慮した薬剤の適正使用など、知識・経験不足から十分な関わりを持つことができなかった。次年度は薬剤課全体の知識の底上げに努めていきたい。

2022年 年間統計





* 2022年4月下旬に注射管理システム変更のため、上旬から中旬のデータ集計出来ず



放射線室

技師長 後藤 浩次郎

職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2022年度を振り返って

2022年度は、前年度より新型コロナウイルスが落ち着いてきた感じのする年であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症者が多く出る月はやはり検査件数は減少した。新型コロナウイルス流行以降、放射線室関連の検査数は減少傾向にあるが、2023年度は検査件数の減少に歯止めをかけ、検査件数が増加に転じるようにしたい。

2021～2022年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	552	575	667	653	713	631	714	687	679	584	607	644	7706
2022年度	538	550	729	617	635	542	684	667	646	542	509	624	7283

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	309	271	299	309	305	319	324	278	271	237	212	315	3449
2022年度	280	246	306	247	198	241	292	275	198	196	252	271	3002

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	89	73	101	92	80	83	80	79	91	72	73	83	996
2022年度	86	90	103	66	56	50	69	63	62	72	51	74	842

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	13	12	23	12	14	9	16	20	17	17	23	20	196
2022年度	7	8	12	12	19	18	15	18	24	17	26	15	191

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021年度	24	12	30	33	28	27	41	38	49	27	25	23	357
2022年度	6	18	33	19	23	33	26	37	37	21	15	26	294

臨床検査室

技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成

臨床検査技師 4名 検査助手 1名（パート）

2. 業務内容

1) 検体検査

血液、尿、糞便等の分析

2) 生理検査

心電図、超音波、呼吸機能、脳波、トレッドミル、眼底カメラ、脈波

3. 検査機器

血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、心電計

24時間ホルター心電計、トレッドミル、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計、無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2022年度を振り返って

コロナ3年目となる2022年でしたが、収まる気配を見せず、部署によってはクラスターも発生しました。当然コロナ関係の検査も増え、多くの検査や検体処理に追われる日々もありました。2023年度は少しずつ平常を取り戻すよう期待します。

その他として、5月から検査システムの更新を行い、より確実な検体受付処理や統計処理及び検査報告書の改善を図ることが出来ました。

2018～2022年度 統計

(件)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
血液検査	3,976	4,208	3,655	3,544	3,357
尿、便検査	7,987	8,876	8,497	9,010	8,688
生化学・免疫（院内）	7,057	7,317	5,682	6,489	7,330
血液・生化学・免疫（外注）	11,403	12,130	11,400	12,648	13,904
細菌検査	315	257	182	189	239
病理・細胞診	447	372	279	368	333
心電図（負荷含む）	3,981	4,706	4,609	4,721	4,409
ホルター心電図	38	59	60	51	44
肺機能	315	324	52	28	41
腹部エコー	1,337	1366	1187	1,252	1,066
表在エコー	570	537	530	542	472
心エコー	386	420	340	279	307
脳波	20	37	18	17	17
眼底カメラ	256	297	314	330	338
血圧脈波	142	177	159	167	189
その他	23	14	22	16	18

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也

主任 理学療法士 長谷川裕介

他 理学療法士 12名 作業療法士 9名 言語聴覚士 6名 音楽療法士 1名 リハビリ助手 1名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 義肢・装具業者との業務調整
- 4) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施
- 5) 介護予防事業（うきうきルーム）の運営

2022年度を振り返って

新型コロナに対する感染対策を取りながらの業務運営も3年目となり、リハビリテーション課の体制を適宜変更しながら、徐々に中止していた業務を再開することができました。

町からの委託事業である「うきうきルーム」も下期から再開となり、リハビリテーション課として介護予防事業の取り組みに関する再検討を開始しました。

しかし、病院部門の実績は近年の中で最も厳しい結果となりました。

2023年度は、制限・中止している業務の再開を含め、ウィズコロナでのリハビリテーション課のあり方を検討しながら、より良いリハビリテーションを提供したいと考えています。

2022年度 年間統計

(単位数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	3,563	4,068	3,821	3,955	2,553	2,615
	外来	312	267	323	311	264	240
OT	入院	2,633	2,796	2,781	2,216	1,917	2,158
	外来	26	28	26	22	28	20
ST	入院	1,841	1,891	1,908	1,706	1,397	1,353
	外来	0	0	6	15	24	27

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	3,500	3,598	3,312	3,585	3,748	4,078
	外来	281	296	263	212	234	229
OT	入院	2,744	2,497	2,404	2,423	2,548	2,958
	外来	28	27	25	14	22	21
ST	入院	1,721	1,634	1,716	1,720	1,700	1,921
	外来	22	0	0	11	17	18

■ 栄養管理課

課長代理 馬場 ひとみ

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名

委託側：（日清医療食品株式会社）チーフ 秋山 妃代

管理栄養士 1名 栄養士 3名 調理師 3名 調理員 3名 食器洗浄パート 6名

1日実働人数 8～9名

2. 業務内容

1) 給食管理：入院患者、付添食、職員食

2) 栄養管理：入院患者

3) 栄養指導：入院患者（糖尿病教育入院を含む）、外来患者、特定健診

2022年度を振り返って

- ・令和4年度診療報酬改定の中で、褥瘡対策の見直しが掲げられ、当院でも専任看護師を中心に多職種連携の在り方を見直し、褥瘡対策に関する診療計画書を管理栄養士も必要に応じて作成することになった。また、褥瘡管理と栄養管理は密接な関係があることから、NST委員会との連携をより強固なものにするために、創傷委員の管理栄養士もNST委員会に参加することにした。
- ・経年劣化した食器類を11月に一新し、料理を引き立てることができたと感じている。患者様からもそのようなお言葉をいただいた。また、より入院患者様のニーズに則した食事形態へ整える必要を感じ、STにも意見をもらいながら、当院の食事形態（嚥下調整食）一覧表を改訂した。
- ・栄養指導件数は年々増加しており、業績目標値45件／月に対して平均62件／月を達成した。その分、マンパワーを栄養指導に集中させなければならないので、他の必要業務とのバランスも考えながら、より効率の良い栄養指導時間割を作成した。

2022年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	9,976	9,669	9,271	10,278	10,226	9,580	9,556	9,315	9,065	8,392	8,987	9,729
特別食	2,234	2,647	2,250	1,996	1,503	1,039	1,529	1,672	1,859	2,427	2,011	1,819
合計	12,210	12,316	11,521	12,274	11,729	10,619	11,085	10,987	10,924	10,819	10,998	11,548

栄養指導件数（単位：件）

※入院にはケア病棟の栄養相談を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	53	35	33	39	26	35	42	29	42	29	47	40
糖尿病透析予防指導	5	6	5	3	4	4	6	7	6	4	5	9
入院	8	23	35	20	9	12	19	16	20	20	17	32
合計	66	64	73	62	39	51	67	52	68	53	69	81
保健指導	3	3	0	0	1	0	1	1	0	3	0	1
総合計	69	67	73	62	40	51	68	53	68	56	69	82

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者が安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

室長：的野 修一（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2022年度を振り返って

2022年度は例年通り年度初めに作成した年間計画に沿って業務を進める中、新型コロナの影響もあり機器の貸し出し等に際し、引き続き清掃、消毒を徹底して行った。また2022年度は輸液ポンプをはじめとするポンプ類のバッテリー交換の年であったため飯田技士により計画的にバッテリーの購入、交換を行い、すべての交換を修了することが出来た。また、在宅におけるポータブルエコーの導入、患者の状況に応じた小型シリンジポンプの機種変更等、医療体制の変化に合わせた機器の変更、新機種導入等も行ったが、今後さらに検討が必要と思われた。

2023年度にむけて

2023年度は耐用年数を超えた機器の不具合、故障等が頻発する中、老朽化に伴う各機種の更新等、今後状況を見ながら検討していく必要がある。また病院機能評価への対応も今年度の課題の一つであるが、今まで通り機器が安全にタイムリーに供給できるよう日頃の業務に励んでいきたいと思う。

看護部

的野前看護部長より、バトンを受け2022年度看護部長として着任いたしました。コロナ禍3年目が経過しましたが、いまだに収束の見通しは立たず、これまで以上に看護の現場においても、感染を警戒しなければならない状況が継続する1年でした。当院におきまして、2022年度は幾度に及ぶ大小のクラスターを経験し、全職員が一体となり新型コロナウイルスと闘うこととなりました。部署をまたいでの応援業務や、職種を超えての連携により、助け合う気持ちを養うことができ、最終的には栄光会の理念「癒し癒される」を体得して乗り越えることができたのではないかと自負しております。

2022年度は看護管理室と医療安全管理室、ライフサポートセンター（ホスピス連携室と患者サポートセンターの統合）と新しい部門と部署が設置されました。新所属長の着任で、新たにスタートをする部署が複数ありましたが、それぞれの役割に対し使命感を持ち、前進する栄光会看護部の皆さんに心より敬意と感謝を申し上げます。

最後に、2022年度末に栄光会創始者のお一人でいらっしゃる、総院長である折田 泰彦先生が天国へ旅立たれました。私がこの栄光病院に入職した昭和63年より、折田先生からは多くの事を学ばせていただきました。常に患者さん想いでおられ、昼夜問わず診療される姿と優しい笑顔は、私たち職員と多くの患者さんに『こころ』も『からだ』もともに癒され、幸せに生きる医療の提供とは何かを示し続けてくださいました。折田先生が、私たち教えてくださった「栄光会スタッフが大切にしていくこと」を、しっかりと継承していけるように努力をして参ります。

栄光会看護部 理念

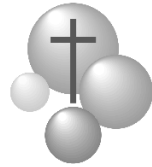
優

～やさしさ～

人の憂いを背負える優しい看護師であれ

人が憂いを背負うと書いて 優 と読む

私たちは、患者さんの 憂 （悩み・悲しみ・痛み・苦しみ）を覚悟
を持って共に背負い、常に寄り添う看護師でありたいと思います



看護部目標

【あるべき姿】

『栄光会理念（フィロソフィ）を理解し、実践できる看護部となる』

【目標】

1. 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる
2. 成長し続ける教育体制の再構築をおこない、看護実践能力の向上を図る
3. 在宅医療推進に向けた地域連携を強化

2022年4月1日

看護部

業務内容

1. 看護部の運営方針
2. 看護部の人員配置・人事：人材活用
3. 看護師の採用計画や就業活動
4. 教育活動：人材育成
5. 病院運営への参画
6. 開かれた気軽に立ち寄れる看護管理室

2022年度 看護部目標の行動計画と実践

1. 栄光会フィロソフィ、経営に関する関心・意識を高く持つことができる看護部の組織風土を育てる
 - ① 各部署フィロソフィの唱和
⇒師長会で唱和实施の検討会を実施
 - ② フィロソフィ学習会の開催
⇒清田チャプレンより師長・主任対象で8回／年実施
 - ③ 異動・ジョブローテーションの促進（部署内の応援体制や意識改革）
⇒人員確保が進まず、計画的なジョブローテーションは実施不可能
⇒クラスター等々による応援体制への意識向上
 - ④ 各部署・看護管理室との目標管理面談（3ヵ月毎に実施）
⇒初めての取り組み 2回／年実施
各部署の目指すべき方向性の確認と支援
 - ⑤ 業績目標（KPI）
 - 1) 職員満足度調査（理念理解）⇒1%減（83%→82%）
 - 2) 離職率⇒看護職員14.7%（看護要員16.3%＜看護補助者29.2%＞）
 - 3) 収支の黒字化⇒未達
 - 4) 病棟稼働率89%⇒未達
 - 5) 外来受診者数⇒前年度増
 - 6) 時間外初診率⇒24%へ回復
2. 成長し続ける教育体制の再構築をおこない、看護実践能力の向上を図る
 - ① クリニカルラダー再編チームの設置
⇒人事制度リスタートプロジェクトが開始となり、格付け再設定、目標管理導入後にクリニカルラダー導入の是非を再評価
 - ② 業績目標（KPI）
 - 1) 院内研修参加率⇒96%（栄光これから研修会）：前年度以上

- 2) eラーニング受講率⇒総アクセス数89.4%
- 3) 患者満足度調査（看護師説明）⇒29%⇒60%悪化

3. 在宅医療推進に向けた地域連携を強化し、質の高い看護を提供する

- ① 医療介護に関する診療報酬勉強会
⇒5月に各部署責任者を対象に医事課より勉強会を実施
⇒自部署のみではなく、他の部署の診療報酬に関する把握も必要
- ② 連携室機能強化
⇒7月に患者サポートセンターとホスピス地域連携室統合
入退院支援加算1の取得
回復期リハビリ病棟体制強化加算取得に向けた取り組み
- ③ 在宅関連部門におけるミーティング開催 1回/月開始
⇒第4木曜日 8部署で実施

2022年度 看護要員推移

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
看護要員数 (月初値)	210 (4/1入職 11)	209	211	207	209	208	204
入職者数 (2日～翌月1日)	1	4	2	6	2	1	
法人内異動数 (2日～翌月1日)	+1						
退職者数	3	2	6	4	3	5	3

	11月	12月	1月	2月	3月	3月末日の 看護要員数	計
看護要員数 (月初値)	201	204	205	206	206	205 (注2)	
入職者数 (2日～翌月1日)	3	2	1	2	0 (注1)		24
法人内異動数 (2日～翌月1日)							+1
退職者数		1		2	6 (内3/31付 5)		35

(注1) 2023年 4月1日の入職者は含まれない

(注2) 2023年3月31日の退職者は含まれない

2023年度に向けて

あるべき姿

『栄光会理念（フィロソフィ）を理解し、実践できる看護部となる』

目標

1. 栄光会フィロソフィ、経営に関する関心・意識を高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる
2. ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質向上を図る
3. 各部署の専門性を追求し、使命感・情熱を持って業務に従事することで、離職防止につなげる

職場紹介

1. 職員構成

看護師 21 名・ケアワーカー 1 名・クラーク 1 名

(消化器内視鏡技師 4 名・福岡糖尿病療養指導士 1 名・日本糖尿病療養指導士 1 名)

師長： 岡崎 祥子

主任： 小林 千恵・桐島 あす香

副主任：中村 直子・山下 香・鈴木 裕美子

2. 診療内容／業務内容

総合診療科・発熱外来・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・脳神経内科・糖尿病内科

ホスピス外来(相談)・外科・肛門科・整形外科・泌尿器科・消化器内視鏡センター

健診センター・中材

2022年度を振り返って

2022年度外来目標

『栄光会フィロソフィーを基軸に個々の能力を活かした質の高い看護を提供し

【選ばれる外来】となる』

1. 栄光会フィロソフィーの理解を深める
2. 認め合い、成長し合える風土づくり
3. 地域連携を図り、在宅医療への架け橋となる
4. 待ち時間の短縮
5. 初診を含む受診率の増加

2021年度までは、コロナ禍による受診の控えやインフルエンザの罹患減少が大きく影響し、時間外初診率の低下や外来受診患者数の低下が大きな問題点となっていた。2022年度は、【選ばれる外来】をスローガンに、当院の外来でできることはできる限り対応していく決意をし、時間内・時間外共に受診率の増加を目指した。

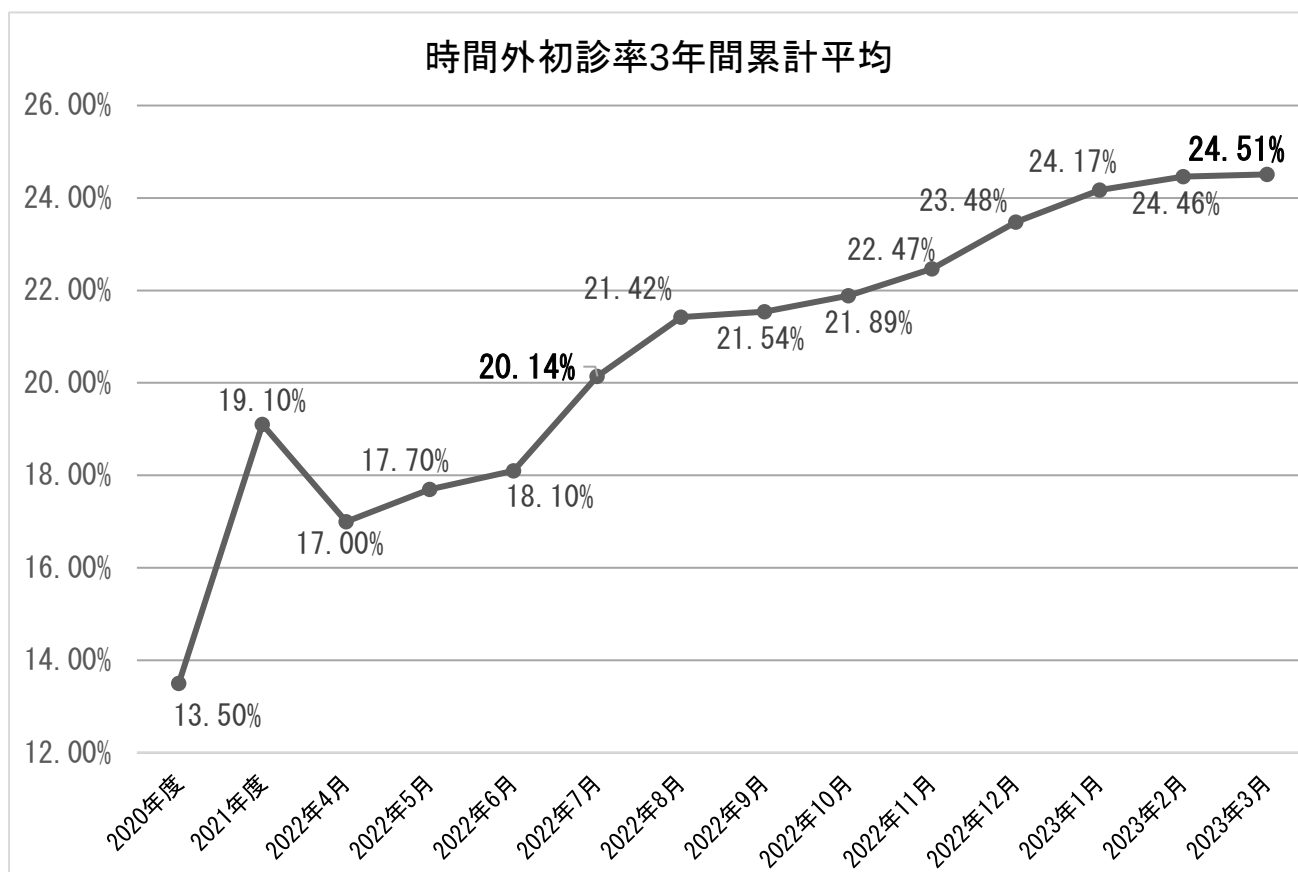
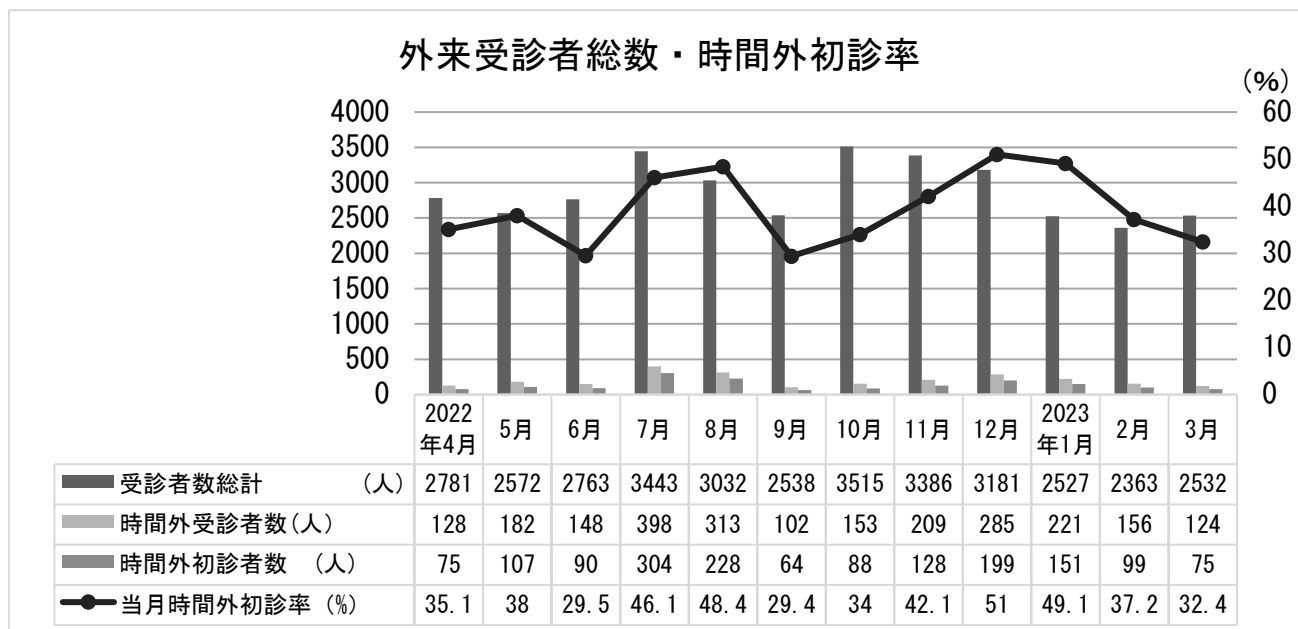
目標を明確にしていく事と、目標を達成するために「具体的に何をどう行動するか」スタッフ1人ひとりが考え、アクションを起こした結果が功を奏し、受診率が徐々に回復してきた。7月～9月にかけて、これまでの波を上回る規模で新型コロナウイルス感染が拡大した。この波（第7波・第8波）が大きく影響したとも言えるが、私自身感じる事は、スタッフ自身が心身ともに健康で、スタッフ同士のコミュニケーションを大事にでき、協力し合える空気を作っていたこと、何より「1つでもできる事をしていこう」という意識改革が結果を生んだと思っている。医師・看護師・その他コメディカルが同じ目標に向かって一致団結できた年でもあった。

待ち時間の短縮に関しては、年2回の待ち時間調査を実施。大きな成果が出せておらず、今後業務の振り分けや、コメディカルとの協力体制の再構築・電子カルテの導入等がカギとなる。接遇面にも配

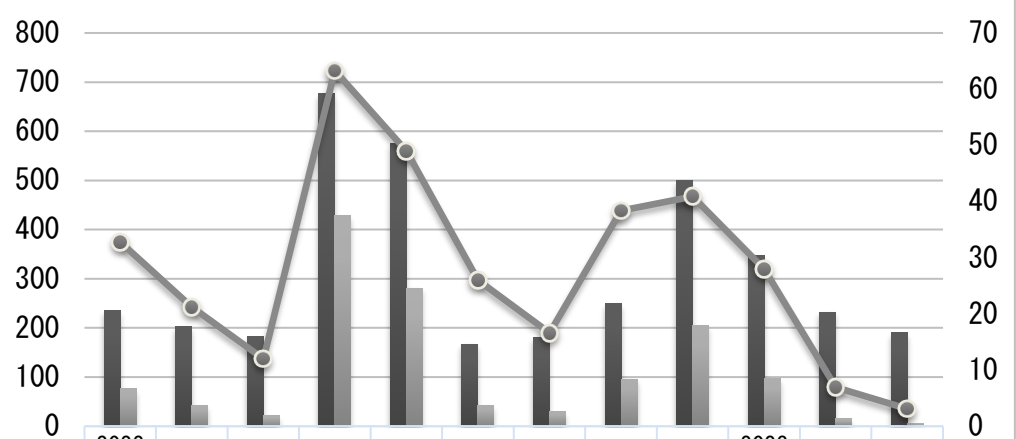
慮し、「ひとこと添える」という気持ちで、細やかな対応も心掛けようと思う。

外来は、栄光病院の「玄関」であり「顔」。誇りと責任をもち、2023年度も選ばれる病院を意識し、日々の患者への関りを大切にしていこうと思う。

年間統計



COVID-19検査延べ数



	2022 年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023 年1月	2月	3月
COVID-19検査件数(件)	235	202	182	676	576	167	181	250	499	347	232	191
陽性者数(人)	77	43	22	428	281	43	30	96	204	97	16	6
陽性率(%)	32.8	21.2	12	63.3	49	26	16.6	38.4	40.9	28	6.9	3.1

職場紹介

1. 職員構成

師長代理：寺田 泰子 主任：福地 祐子

看護師 22名（うち緩和ケア認定看護師1名、がん性疼痛認定看護師2名）

看護助手 2名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

主として悪性腫瘍の患者、又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者が入院の対象者となる。患者とその家族に対し、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、いのちの質の向上をめざす全人的ケアを提供する。

2022年度を振り返って

1. 臨床倫理に関する理解を深めることで、日頃からの倫理面に関する感性を高めることができる

- ①倫理アンケートを集計した結果、倫理的ジレンマを感じた際に相談しないという結果が、1→0となっていた。また、倫理に関するイメージにおける回答でも、全体的に改善が認められた。一年間取り組んだことで倫理面への関心、感性を一定程度高めることはできた。来年度以降も継続して取り組む。

2. フィロソフィーの促進

- ①これまでは、捉えにくいものであったフィロソフィーを病棟目標に絡めることで、より身近に感じることができ、普段の業務の中での各自の意識や行動もフィロソフィーに基づいたものになっていることに気づけた。
- ②この意識づけを継続し、今後はチャプレンのアドバイスや介入を受けながらフィロソフィーの理解をより深めていく。

3. 5S活動

- ①汚物室・休憩室・書類棚の整理整頓ができた。汚物室の清掃リストを使用したことにより5Sの手順を示すことができ、業務改善や働きやすさにつながるとスタッフに感じてもらえることができた。
- ②防災に関しては考えるきっかけになったが、実際に動けるようにはできなかった。

4. 自分たちが心身共に健康で働ける

- ①腰痛体操が習慣化し、仕事の終始のスイッチになっている。セルフケアが出来ている。腰痛もあったが、欠勤にまでは至っていない。

- ②グループトークングにより、コミュニケーションを改めて考えることになり、皆の意識付けの1つになった。

5. 患者の療養生活を充実させる

- ①ガーデニング、メダカの飼育を通し、患者・スタッフ間のコミュニケーションのツールやそれぞれの癒しになったため、来年度も継続していく。
- ②業務内での気になった部分を都度解決していくことができた。

2023年度に向けて

あるべき姿：ホスピスマインドを持ち、心を込めたケアが実践できる

～あきらめず・投げ出さず・関わり続ける忍耐力が希望を生み出す～

病棟目標

1. 栄光会フィロソフィーに基づいた、安心・安全で癒し癒されるケアを提供する
 2. コミュニケーション力を深め、働きやすい職場作りに個々が貢献する
 3. 積極的な経営参画
- 21床 88% 稼働率を目標に入退院支援を行う

職場紹介

1. 職員構成

看護師：22名 看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2022年度を振り返って

【3 B 病棟のあるべき姿】

1. ホスピス病棟の基本理念に沿ったケア提供が継続できる
2. 個々が経営参画の意識をもちつつ質の高いホスピスケアを提供できる
3. これまで培われた組織力を次世代に継承できる
4. 個々がプロフェッショナルとしてビジョンを持ち互いに切磋琢磨できる

【3 B 病棟目標】

1. 質の高い専門的ケアを通して、安心・安全・信頼できる看護を提供する
2. 働きやすい職場風土の維持・促進
3. 積極的な経営参画

上記目標を掲げスタートしたが、2022年度1年間で約半数のスタッフが退職や異動で入れ替わった。また、新型コロナウイルスの感染や感染疑い、濃厚接触者などで休みとなることで、深刻な人員不足の状況が続いた。大切にしているケアのひとつであるリフト浴を週1回に減らし、日祝日の勤務者を通常の6人から5人へ減らし、各食前の配茶を1日1回ペットボトルのお茶を配ることで、何とか乗り越えた。この状況は、患者・家族へ提供するケアとしてどうだったのか推測の域を超えないが、少なくとも看護スタッフにとっては十分なホスピスケアを提供できていないという不全感に繋がったと考える。

2023年度に向けて

本年度は、ホスピス3病棟が協働し、3病棟共通のあるべき姿を決定した。

これは、ホスピス3病棟が目指すべき方向性を明確にすることで、病棟間の連携を深め、緊急入院にも対応しつつ、ホスピスの量質ともに向上させていく狙いがある。

【ホスピス病棟のあるべき姿】

「ホスピスマインドをもち、心を込めたケアが実践できる」

～あきらめず、投げ出さず、関わり続ける忍耐力が希望を生み出す～

【3B病棟目標】

1. 栄光会フィロソフィを基盤とした、安全・安心・信頼できるホスピスケアを提供する
2. チームを構成するスタッフが協働し、楽しくやりがいを持って働ける職場風土を醸成することができる。
3. 積極的な経営参画 21床88%稼働率を目標に入退院支援を行う

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、人員不足に悩まされた1年であった。新型コロナウイルスの影響は2023年度もあると思うが、感染症との向き合い方も少しずつ方法を変えながら、元の通りとはならないまでも、新しいかたちのホスピスケアを充実させていける1年としていきたい。

職場紹介

1. 職員構成

看護師：22名（うち緩和ケア認定看護師1名、がん性疼痛認定看護師1名）

看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2022年度を振り返って

1) がん性疼痛を有する患者の基準マニュアルに添った疼痛マネジメントで、個別性のあるケアとなる（診療報酬算定要件をクリアする）

①医療者の客観的評価と患者の主観的評価を併用し、薬剤や看護ケアの評価を行いながら疼痛マネジメントした。評価について痛みが緩和する・しないとなる傾向があった。例えば日常生活の場面で痛みのため日常生活の行動を制限されていることが、痛みの緩和で日常生活がスムーズにできるようになったなどの細やかな評価ができるとわかりやすいことを共有していくことを今後の課題とする

②身体面の痛みのみでの評価に偏っているため、全人的な痛みという視点をもつことが疼痛アセスメントであることを今後も伝えていく

③診療報酬算定要件はクリアしていた。疼痛評価実施率100%だった

2) チームメンバーとしてお互いを尊重し「わかろう」とし、共に悩み考えを出し合いながら実行するというプロセスを楽しむチームとなる

①年度末のチーム活動評価として達成感・満足感・頑張り度について5点満点で3チームの自己評価は4.1だった。お互いの協力や労いの声掛けはしているようだが、まだまだ、ご機嫌なチーム作りとはなっていない。他者の考えも受け入れる柔軟性や否定的な考えから相手を非難しないことを共有していくことが課題である

3) 101番目の病院の役割を果たす栄光病院ホスピス病棟として、入院や在宅移行について臨機応変に対応していく

①稼働率76.7%、1日平均患者数17.6名ということで目標達成できなかった。コロナ関連で入院制限や行動制限、看取りも多く稼働の維持は難しかった。しかし、外来患者や在宅診療を受けている患者の緊急入院はタイムリーに受け入れできていた。今後は新型コロナが5類となるため、行動制限緩和となれば稼働も上がると考える。

2023年度に向けて

ホスピス病棟の人事異動があり新体制となったため、3病棟師長が協力し栄光病院ホスピス病棟の看護スタッフの目指すべき方向性を決定した。ホスピス病棟の看護スタッフが共有することで、協力し研鑽し合ってホスピスケアの質向上につなげていく。

ホスピス病棟のあるべき姿は「ホスピスマインドをもち、心を込めたケアが実践できる」
～あきらめず、投げ出さず、関わり続ける忍耐力が希望を生み出す～とした。

2C病棟目標

1. 全人的ケア、ホスピスマインドに基づいた個別性を大切にするケアについて深め、患者満足度が前年度より上がる
2. スタッフ個々に対して肯定的・協力的態度を示し、チーム力の向上に貢献する
3. 積極的な経営参画の実践で、稼働率89%、20～21床、入院患者数16名以上／月とし入退院支援を行う

4 A 病棟

師長 石田 美千代

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定
看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師：外科医師 2名（病院長・外科部長） 外科・整形外科他担当
内科医師 3名（内科部長・総合診療科部長・糖尿病内科医）呼吸器・消化器内科

他

看護師：23名

師長：石田 美千代

主任：古賀 直子・岡村 真澄

副主任：増山 明子

（皮膚排泄ケア認定看護師1名、糖尿病療法指導士2名、

医療的ケア教員2名、看護実習指導者1名）

看護補助者：5名

副主任：佐藤 久美

病棟クーク：1. 5名

2. 業務内容（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟（病床）には、3つの役割があるとされています。

1. ポストアキュート：急性期治療を経過し病状が安定した患者
2. サブアキュート：自宅や介護施設等において急性増悪した患者
3. 在宅復帰支援：在宅療養に不安のある患者

この3つの役割を果たすために、院内・地域内多職種協働による退院支援を実践することで切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2022年度を振り返って

【病棟目標】

1. 看護職の負担軽減に向けた取り組み

7月からクークの人員確保により、常時1～1.5人の配置で看護師のクーク代行業務がなくなりました。

2. 加算に向けた取り組み

入退院支援加算1を9月に取得

看護職員夜間配置加算（1日につき70点）を4月から取得

3. 職員が定着する職場環境の構築

リフレッシュ休暇希望者31名中15名全員取得

時間外勤務については、前年度より、稼働率の低下等で減少しているが個人差や入院患者の重症度等により影響している。

* 2022年度は、4A病棟内で、コロナによるクラスターが発生し、他部署や介護事業部から約2週間の応援体制で危機を乗り越えました。改めて、栄光会で働く人の優しさ・結束力の強さを実感した2週間でした。

2023年度にむけて

【病棟目標】

1. 自部署の経営数値目標達成と経営意識の向上を図る。
2. 法人内外の連携強化を図り、スムーズな入退院調整と患者・家族のニーズに対応できる。
3. 安心・安全な医療・看護の提供とスタッフのケアにチーム全体で取り組む。
4. 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る。

職場紹介

1. 職員構成

看護師 17 名 看護補助者 6 名 クラーク 1 名

2. 診療内容／業務内容

<病棟基本方針>

- ①地域の神経難病患者を主に受け入れていきます
- ②入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<4 B 病棟の目指すべき医療・看護>

多職種専門職によるチーム医療を基本として、神経難病及び障害を持つ患者の療養生活におけるQOLの向上を目指します

<入院患者状況>

神経難病を主に対象とする病棟。

主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、①病状評価のための検査 ②身体機能維持・向上を目指したりハビリ ③症状マネジメント ④合併症治療 ⑤呼吸器装着、胃ろう造設・交換 ⑥レスパイトのための短期入院 ⑦在宅療養指導 ⑧医療依存度の高い患者の長期療養～看取りケアなどへの対応を行っている

<病床数> 28 床

2022 年度を振り返って

【病棟目標】

1. 患者家族の思いに沿った入退院支援・療養支援を行う

- ① 内科カンファレンスを全患者について実施、カンファレンスシートの活用促進
- ② 患者の立場に立ち、QOL向上のために出来るケアを考え実践する

<評価>

内科カンファレンスにカンファレンスシートを用い、全患者に実施することで、情報共有は容易になった。解決に向けたマネジメントはプライマリー看護師で個人差があり、チームで協働する体制が必要。さらに多職種連携につないでいく。

2. 5Sを促進し、気持ちの良い働きやすい職場環境を作る

- ① マニュアル・データ類・記録物・ファイルの整理
- ② 部署の業務手順、決まりごとの見直し・検討

<評価>

各自で役割分担しマニュアル更新を行った。各京セラチーム活動で、それぞれの課題・業務改善策を挙げ、チームに投げかけながら業務改善に取り組んだ。

3. 経営参画とスタッフケアのバランスを考えて部署運営

- ① 稼働率89%維持に取り組む
- ② 入退院支援加算1取得の実践

<評価>

2022年度平均稼働率82.8%、目標未達成。

入退院支援加算1取得に向けた取り組みは実践しているが、加算のしくみの周知や理解が十分できていない。さらに意識を高め取り組んでいく。

2023年度にむけて

【病棟目標】

- 1) 倫理的視点に立ったケアを実践し、患者満足度を上げる
 - ① 「看護倫理」についての理解を深める
 - ② 倫理カンファレンスの開催
- 2) コミュニケーション力を高めお互いを認め合い、協力し合える組織風土をつくる
 - ① 多職種連携の課題を検討しカンファレンスの充実を図る
 - ② チームリーダー会・副主任会を通して業務協力
- 3) 積極的な経営参画
 - ① 25名／89%目標稼働率の維持

職場紹介

1. 職員構成

看護師長代理：倉田 正子 主 任：平山 好恵 副主任：江島 佑果
看護師 17 名（上記含む） ケアワーカー 7 名 クラーク 1 名

2. 診療内容／業務内容

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折術後など急性期治療を終えた患者さんに、リハビリテーションを集中的に行う病棟です。

在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供します。

2022年度を振り返って

2022年度は入職6名、退職5名、看護師1名の部署異動があり、入退職が多く慌ただしい1年でした。

コロナ罹患、濃厚接触、発熱による欠員で、マンパワー不足が常態化し現在も人員が中々充足せず悩ましい状況は続いています。コロナ禍により、制限がある中で十分に行えない退院支援への葛藤を感じながらケアせざるを得ず、スタッフにとって辛い一年だったと思います。入院中の患者さんにとっても前年同様、面会制限や外出外泊禁止等の制限を続行せざるを得ず、大変なストレス下での入院生活となり、ご家族も入院中の患者さんの状況が分らず不安な日々を過ごしておられたと思います。

その様な中でも、入院患者さんからは一人の陽性者を出すこともなく、今年度を乗り切ることができたことに対し、スタッフ一人一人の頑張りとお患者さんやご家族のご協力に、とても感謝しています。

【2022年度の病棟目標】

1. 退院支援を病棟全体で取り組み、看護の質向上を目指す
2. 残業時間削減のため、業務を見直し業務負担軽減をおこなう
3. 認知症への知識を高め、対応力強化を図る

これらの目標を立て退院支援チームを新設し、4つのチームで目標達成に向け取り組みました。

退院支援については、プライマリー看護師の負担減と、必要な支援の提供、多職種との連携を含め、一から様々な取り組みを行いました。試行錯誤をしながら土台作りの1年でしたが、コロナ禍による色々な制限がある中で、プライマリー看護師と協力し家族指導を行うことができました。残業時間削減については、入院担当者の残業時間削減へ向け、改善策を講じ継続しました。しか

しマンパワー不足に起因するものが多く、一定の負担軽減には繋がりましたが、まだまだ残業削減には至っていません。次年度への課題です。

認知症に関しては、伝達講習や学習会を全員が参加できるように、検討改善を重ね実施できました。また日々のケアに活かそうと様々な取り組みを行うことができました。次年度は認知症ケア専門士が中心となって活動します。更なる対応力強化を目指します。

2023年度にむけて

◇5A病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々にあった看護・支援をおこなう
2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効率的なりハビリを提供する

◇病棟目標

1. 退院支援を病棟全体で取り組み、看護の質向上を目指す。
2. 残業時間削減のため、業務を見直し業務負担軽減をおこなう。
3. 認知症への知識を高め、対応力強化を図る。

年間統計

	稼働率	在宅復帰率	重症者	重症者4点 (FIM16点)以上 改善
基準値	9割以上	7割以上	3割以上	3割以上
2022年度 実績	80.3%	78%	45%	39.56%

感染防止対策室

医療安全管理室

■ 感染防止対策室

室 長 安藤 俊二
副室長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成 室 長：安藤 俊二
 副 室 長：鎌倉 富雄
 専任看護師：野田 理恵

2. 業務内容

- ・ コロナ感染に関連した対応
 - ① 職員が感染した場合の接触患者の洗い出しと検査対応、自宅待機期間の管理（一覧表管理）、各種相談対応。
 - ② LINEWORKS等を活用し、職員、所属長等と情報提供、共有。
 - ③ 感染の流行時期や発生状況に合わせた行動制限等の確認と検討、提示。
- ・ 院内感染の管理とICTラウンドでの抗菌薬の適正評価の実施
- ・ 新型コロナ会議、院内感染防止委員会、その他臨時の感染防止対策会議の実施
- ・ 職員への年2回の院内感染防止対策の研修の実施
- ④ 外部の施設（福岡市民病院）等との連携と感染症サーベイランス など

2022年度を振り返って

2022年7月に「感染防止対策室」が部署として新設され、室長を安藤内科部長、副室長を鎌倉と専任で野田看護師（週二日：月・金）の体制で始動となった。以下のような部署のあるべき姿を掲げ、新部署の構築に努めた。

【あるべき姿（目的）】

安全な医療・看護・介護を提供し、医療関連感染の低減を目指す
提供する医療、看護、介護の質の向上に努める

コロナ禍の中、新部署として設置された。まずは情報の集約に努め、法人内の感染状況を把握し、LINEWORKS等のツールを用いて情報共有することから始めた。コロナの流行期が拡大する中で、法人内でも2022年8月と2023年1月に病棟と特養ところで大きなクラスターが発生、他にも複数部署でコロナ感染者が次々と発生するなどし、感染防止対策室としての知識や技術が追いつかないまま、その場その場の対応に追われる状況であった。電話での相談対応も多く、その場での的確な判断が求められ、責任が問われる状況下で、決められたルールを遵守しぶれないこと、スタッフへの理解や協力、コミュニケーションの重要性を考えさせられた。

今回のクラスターの経験を通して、感染防止対策の知識や技術をさらに向上させ、日頃からの標準予防策の徹底とその習慣を身につけることが最大の感染予防対策だと考える。

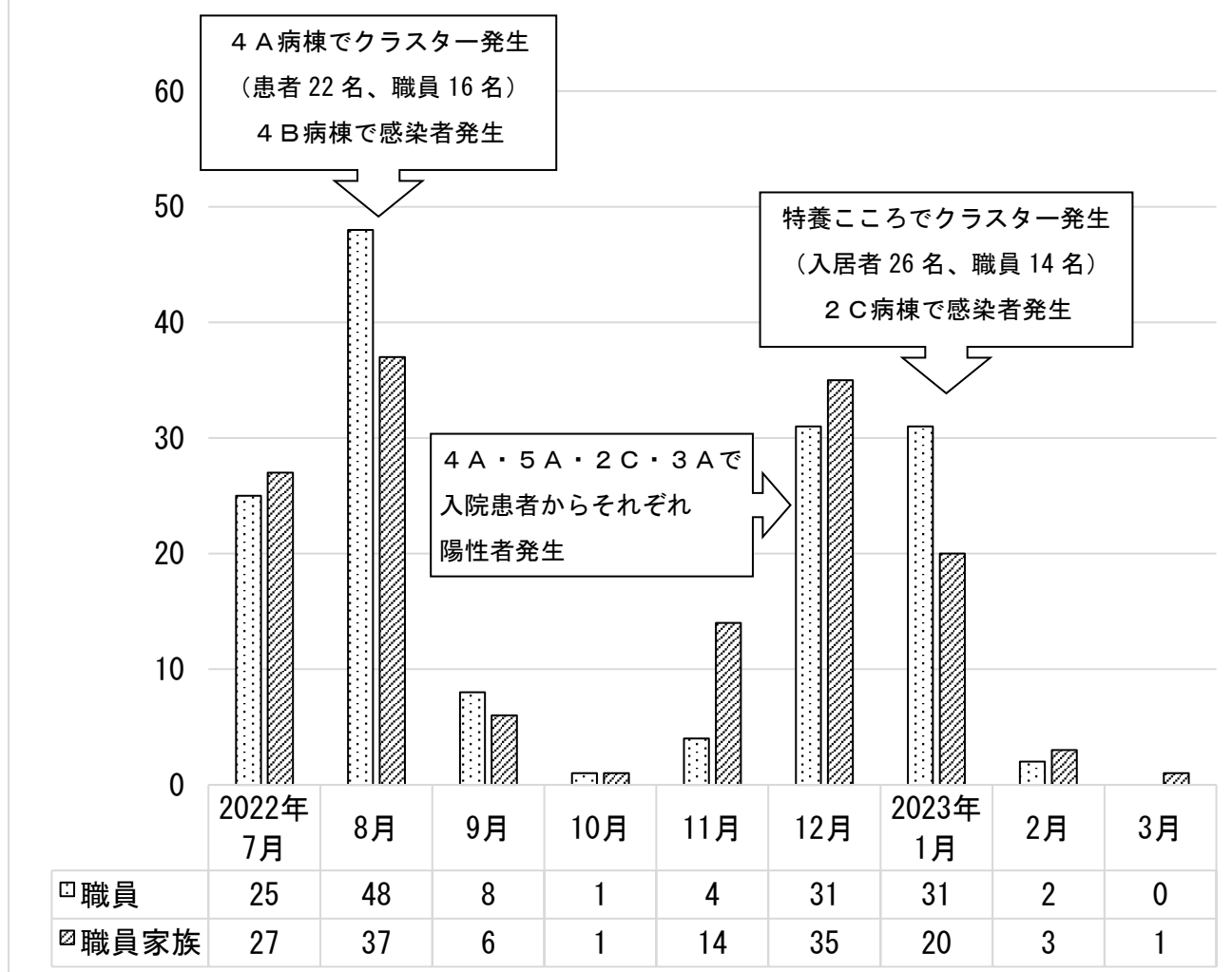
2023年度にむけて

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類から5類に変更することに伴い、行動制限等の緩和や感染発生時の新たな対応方法など、感染状況や行政の指針などを踏まえ、検討し変更していく必要がある。新型コロナの感染の特性やリスクがなくなるわけではないため、意識改革もしつつ、法人の今年の目標である「コロナとともに生きる」を念頭に、丁寧に向き合っていけるように努めていく。

室長より

感染防止対策とは、院内における不測の感染症を未然に防ぐことであり、早期に発見することであり、さらに適切に治療し、院内に拡げないよう対策を立てることです。また、院外において問題となっている感染症（例えばCOVID-19など）についての知識を共有し、対策を立てることも重要です。そのために感染防止対策室では、鎌倉看護師長を中心に感染症に関する情報収集、院内講演会・実地指導による啓発活動、サーベイランスなどを行っております。

法人職員と職員家族のコロナ陽性者数推移
(2022年7月～2023年3月)



職場紹介

1. 職員構成 室 長：吉田 晋 副室長：鎌倉 富雄

2. 業務内容

- ・ インシデント報告の内容把握と対策の確認、検討、全体の集計と分析
- ・ 事故レベル3－b以上の現場検証と再発防止策の立案と報告書の作成
- ・ 医療安全ラウンドの実施（毎週火曜日、1回2部署ずつ、全15部署）
- ・ 「医療安全だより」の発行による情報提供、注意喚起（不定期）
- ・ 業務改善の取り組みと報告書の作成
- ・ 院内研修の実施（2回／年）、安全管理委員会の開催（1回／月） など

2022年度を振り返って

2022年7月に「医療安全管理室」が新設され、室長を吉田副院長、副室長を鎌倉看護師長の体制で始動となった。以下のようなあるべき姿を掲げ、新部署の構築に努めた。

【あるべき姿（目的）】

- ・ 医療安全の質の向上に努め、患者さん、ご家族、そして職員が安全で安心できる病院環境を提供できる
- ・ 医療安全管理室の役割を明確にし、主体的、先導的に医療安全活動を行い、医療、看護、介護の質の向上に努める

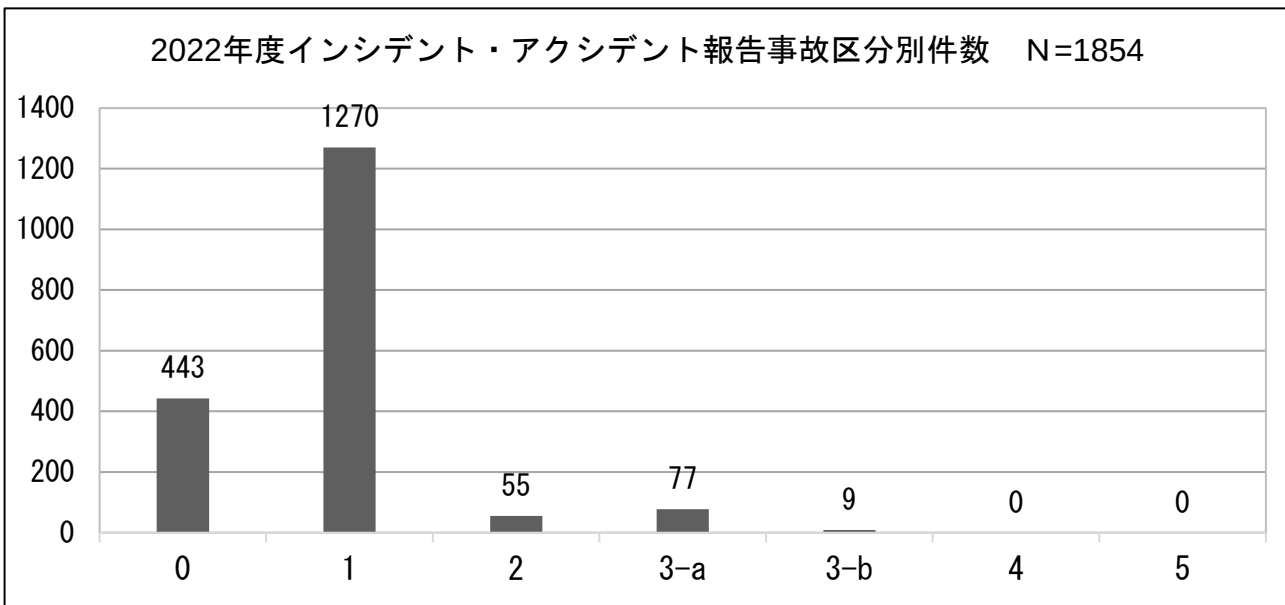
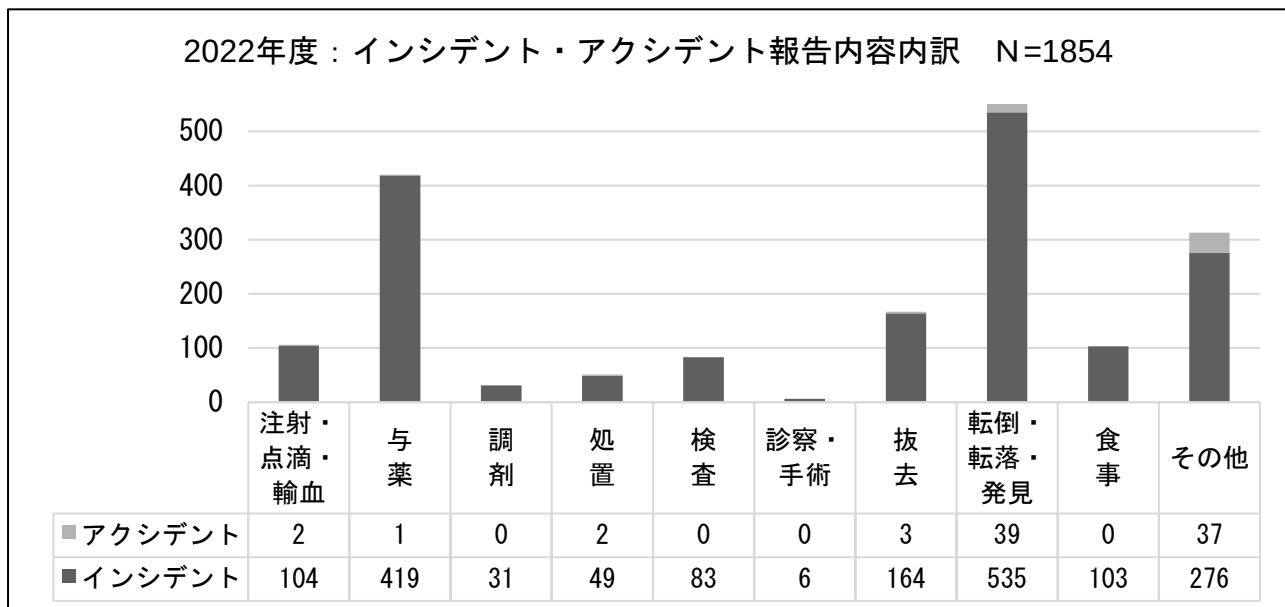
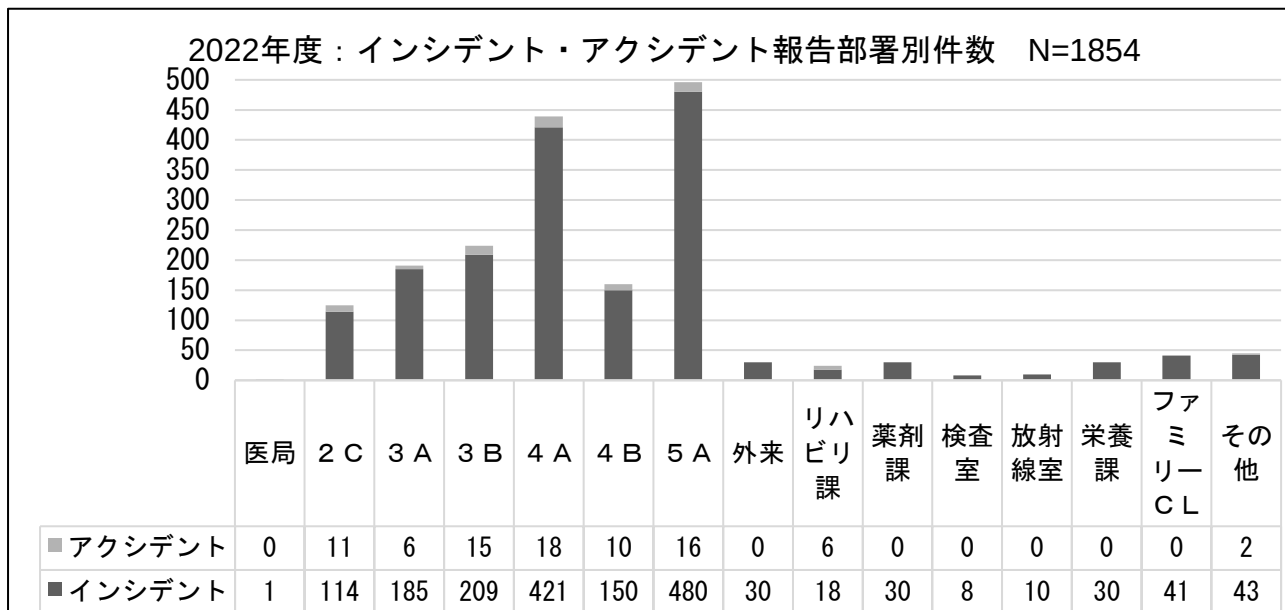
手探りからのスタートではあったが、まずはインシデント報告の現状把握に努め、業務の洗い出しを行い、部署としての役割の明確化を図った。看護部にとどまらず、コメディカルに医療安全ラウンドや委員会を通して連携を図り、医療安全の意識と質の向上へのきっかけにも繋がった。

2023年度にむけて

2023年5月より、医療安全対策加算2及び医療安全対策地域連携2を取得するのに伴い、加算1を取得している福岡市民病院との連携が必須条件となり、医療安全の改善項目の確認と院内ラウンドが年に一度実施されるため、それに基づいた業務改善と質の向上が求められる。対外的な第三者機関が入ることで、より医療安全の質の向上に繋がると思われるため、連携を取りつつ段階的に取り組んでいく。

室長より

院内で起きている医療安全におけるインシデント報告に対して、より速やかな原因究明、改善策を立案し、当部署と連携し再発予防、かつ医療安全管理委員会を通して院内各部署へ情報提供を行い、病院全体での医療安全の意識を高めるために新設されました。重大な医療事故を予防できるように鎌倉看護師長を中心に活動しております。



医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長	増田	こずえ				
主任	上條	憲一	豊福	稔		
副主任	森岡	直美				
入院担当	山田	留実	久芳	志穂		
外来担当	城戸	綾乃	深野	良太	定村 千香子	
	藤本	悟史	澤井	紋也	山田 淳子	計 12 名

2. 業務内容

- ・ 窓口受付
- ・ 会計業務
- ・ 診療報酬請求（レセプト作成・点検・総括・請求）
 - 外来（在宅医療含む）：月平均 2100 件
 - 入院：月平均 250 件
- ・ 各種文書受付
- ・ 未収金管理
- ・ 他院からの問い合わせの対応等

2022 年度を振り返って

- 新型コロナウイルス感染症予防に努めた 1 年であった。
- 保険点数では「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時・特例措置」に基づく新点数や加算点数が次々と始まる一方で、特例措置期間を終了するもの、延長されるもの、点数の変更など、目まぐるしく変更があり最新情報の収集に努めた。
- 診療報酬請求に対する査定では、月別の集計を継続して行い医師やコメディカルへの報告を行った。
また部署内でのミーティングや、勉強会を通して内容の把握と査定対策に努めた。
(査定点数率は、令和 2 年度全国平均：支払基金 0.255% 国保連合 0.250% を下回ることができた)
- 未収金は「新規発生」や「回収状況」について委員会資料を毎月作成し、関連部署と共有を行った。

2023 年度にむけて

- 病院を訪れる患者さんやご家族の方に話しかけられやすい雰囲気づくりを大切にしていきたいとします。

◎診療情報の精度向上に努め、スタッフ間における情報共有の支援者として
業務の円滑な遂行を図る。

職場紹介

1. 職員構成

課長代理 中牟田 美千代

副主任 中畑 順子

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2022年度を振り返って

1. 診療記録の点検・管理

記録の見直しや点検を行い、診療記録の質向上に努めた。

2. 退院時サマリーの管理

退院14日以内サマリー作成率は、医師協力のもと毎月90%以上を維持している。

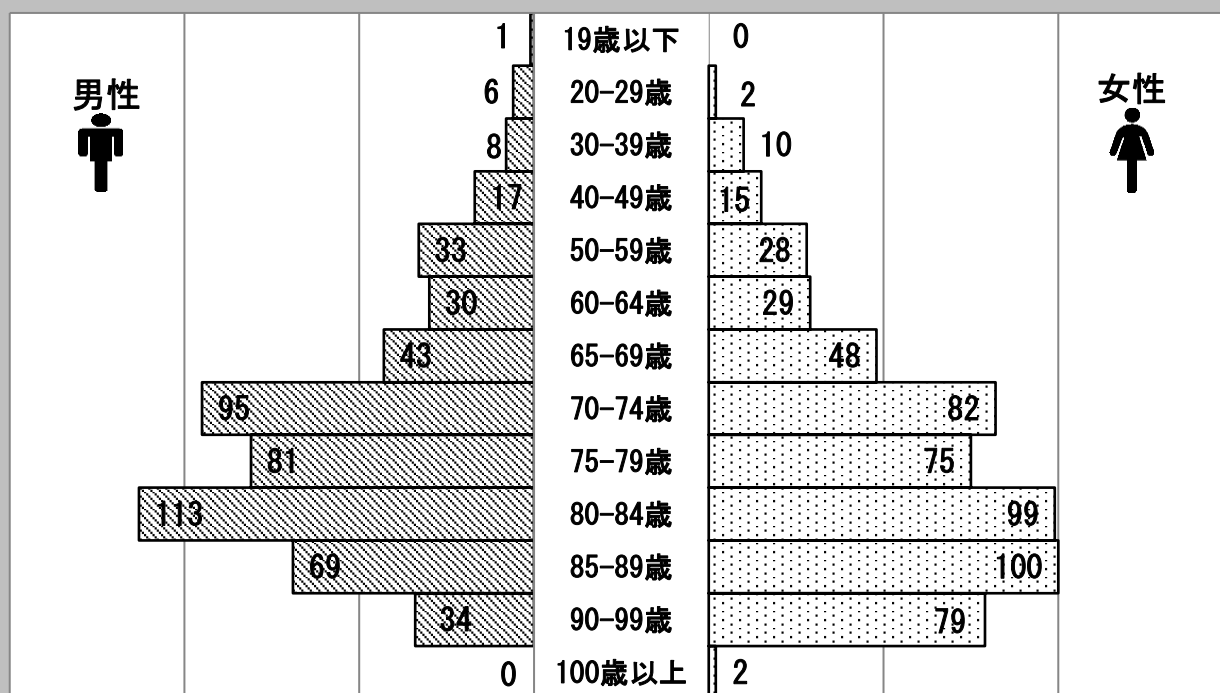
3. DPC退院患者調査（厚労省に提出）

様式1作成件数：1,097件

4. 全国がん登録（2016年1月より法制化）

届出件数（2021年症例）：551件

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数：1,099件)



地域包括ケア病棟 疾病中分類別・上位疾病別・病名数

番号	順位	分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	糖尿病	35	9.2	491	14.0	62.1
2	2	筋障害	25	6.5	1,142	45.7	85.4
3	3	腸のその他の疾患	24	6.3	275	11.5	66.3
4	4	脳血管疾患	19	5.0	841	44.3	79.2
5	5	その他の型の心疾患	15	3.9	492	32.8	89.0
6	6	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	13	3.4	626	48.2	87.5
7	7	代謝障害	12	3.1	363	30.3	81.1
8	7	外的因子による肺疾患	12	3.1	604	50.3	85.3
9	7	消化器系のその他の疾患	12	3.1	195	16.3	75.0
10	10	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	11	2.9	135	12.3	73.8
11	10	肝疾患	11	2.9	235	21.4	80.2
12	12	インフルエンザ及び肺炎	10	2.6	340	34.0	85.1

対象期間の総退院件数：382件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	計	21	28.8
	男	4	12.1
	女	17	42.5
② G20 パーキンソン＜Parkinson＞病	計	13	17.8
	男	7	21.2
	女	6	15.0
③ G61 炎症性多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー	計	6	8.2
	男	2	6.1
	女	4	10.0
③ G90 自律神経系の障害	計	6	8.2
	男	4	12.1
	女	2	5.0
⑤ G31 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	計	5	6.8
	男	1	3.0
	女	4	10.0

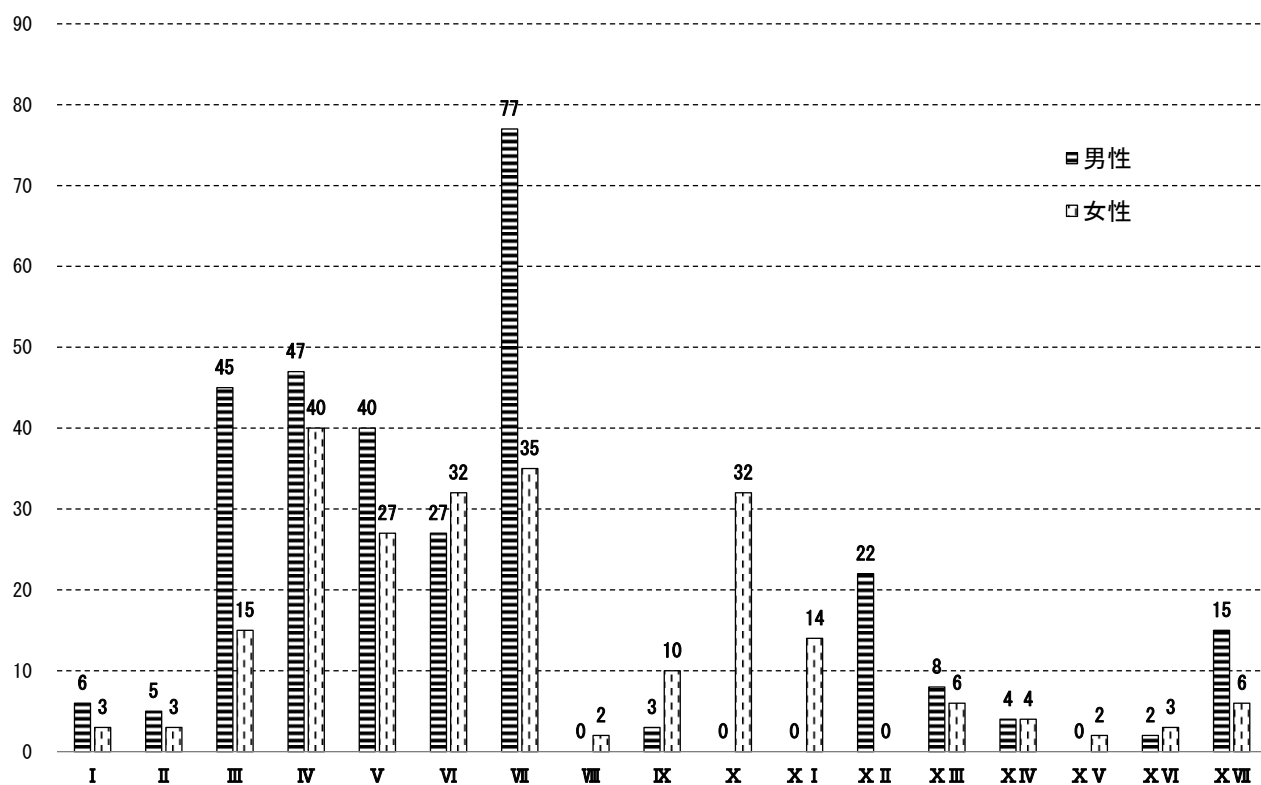
総退院件数	計	73	100.0
	男	33	45.2
	女	40	54.8

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

		総数	構成比(%)
① I63 脳梗塞	計	31	29.0
	男	17	42.5
	女	14	20.9
② I61 脳内出血	計	19	17.8
	男	8	20.0
	女	11	16.4
③ S72 大腿骨骨折	計	25	23.4
	男	3	7.5
	女	22	32.8
④ S32 腰椎及び骨盤の骨折	計	5	4.7
	男	2	5.0
	女	3	4.5
⑤ S06 頭蓋内損傷	計	4	3.7
	男	1	2.5
	女	3	4.5

総退院件数	計	107	100.0
	男	40	37.4
	女	67	62.6

緩和ケア病棟 男女別・悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	舌・歯肉・口蓋及び口腔	6	3
II	中咽頭・梨状陥凹(洞)及び下咽頭	5	3
III	食道・胃	45	15
IV	小腸・結腸・直腸・肛門及び肛門管	47	40
V	肝・肝内胆管・胆嚢及び胆道	40	27
VI	膵	27	32
VII	呼吸器及び胸腔内臓器	77	35
VIII	皮膚	0	2
IX	中皮・後腹膜・腹膜及び軟部組織	3	10
X	乳房	0	32
X I	女性生殖器	0	14
X II	陰茎・前立腺	22	0
X III	腎盂・腎・尿管及び膀胱	8	6
X IV	髄膜・脳	4	4
X V	甲状腺	0	2
X VI	リンパ組織・造血組織及び関連組織	2	3
X VII	部位不明	15	6
計		301	234

【診療圏別・男女別・退院患者件数】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	530	138	62	24	53	--	--	30	23	83	4	5	9
女	569	156	82	14	38	2	2	34	22	102	8	17	1
計	1,099	294	144	38	91	2	2	64	45	185	12	22	10
構成比(%)	100.0	26.8	13.1	3.5	8.3	0.2	0.2	5.8	4.1	16.8	1.1	2.0	0.9

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	前原市・糸島市	那珂川市	久留米市
男	6	1	24	11	2	2	3	9	15	1	4	1
女	4	5	20	15	1	1	2	12	11	1	5	--
計	10	6	44	26	3	3	5	21	26	2	9	1
構成比(%)	0.9	0.5	4.0	2.4	0.3	0.3	0.5	1.9	2.4	0.2	0.8	0.1

診療圏	大牟田市	小郡市	うきは市	朝倉市・朝倉郡	北九州市	飯塚市	（行橋市・豊前市・ 京都郡・築上郡） 京築	その他（九州内）	その他（九州外）
男	--	5	--	2	--	--	2	11	--
女	1	--	1	--	4	1	--	4	3
計	1	5	1	2	4	1	2	15	3
構成比(%)	0.1	0.5	0.1	0.2	0.4	0.1	0.2	1.5	0.3

栄光会ファミリークリニック 栄光会訪問看護ステーション

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江登喜子

副院長 田崎英範

医師 青戸雄司（在宅診療）、手越静子（水曜日外来）

看護師 関恵美子、小林千恵（12月まで）、田羽田裕子（1月から）

久保山佳子、石井咲紀、正木由美、田中節子（5月まで）、池松千沙（7月まで）

西村祐美（10月まで）、古川幸子（4月から）、平井嘉代子（9月から）

医事課 安河内晶子、深江美幸、土生（旧姓下田）律子、南里郁子（12月まで）

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科、在宅診療（在宅療養支援診療所）

小児科

2022年度を振り返って <内科>

この年度もCOVID-19感染症に対する対応が続きました。第7波の流行時は発熱外来と一般外来の併診に苦労しました。ファミリークリニックはスペースが広いため小児と成人それぞれに発熱外来の専用待合室、診察室を設けることができたのは幸いでした。在宅診療を行っている超高齢の患者さんも数名罹患されラゲブリオの処方や入院手配を迅速に行いました。外来にかかりつけの患者さんも次々と罹患され、COVID-19の発生届の提出にも追われました。重篤な状態に陥った患者さんはいらっしゃいませんでしたが、ADLが低下した方々が多い印象です。訪問先の各施設でもクラスターが発生し訪問診察に赴くことができず電話再診対応となったことも多かったです。スタッフもご本人、ご家族が罹患され隔離期間中マンパワー不足となる事もありました。

在宅診療は近年、130～140名前後の方々に対し月1～2回訪問していましたが、2022年11月頃より自宅介護が困難となり施設入所されたり、経済的理由で中止になったり、お亡くなりになる方が多くなりました。また、2023年になり入院される方も非常に多くなっています。90歳以上の超高齢の方が多く介護度も高いことが原因と思われます。そのため訪問診察を行っている患者さんが2023年3月には120人前後と減少しました。

2023年度に向けて <内科>

当クリニックは小児科、内科、訪問診察、通所リハビリテーションなどを行っています。今年はCOVID-19感染症も5月より5類に引き下げられますが、高齢者、乳幼児の多い当院は今後も感染対策が必須です。ワクチン接種も積極的に行う予定です。

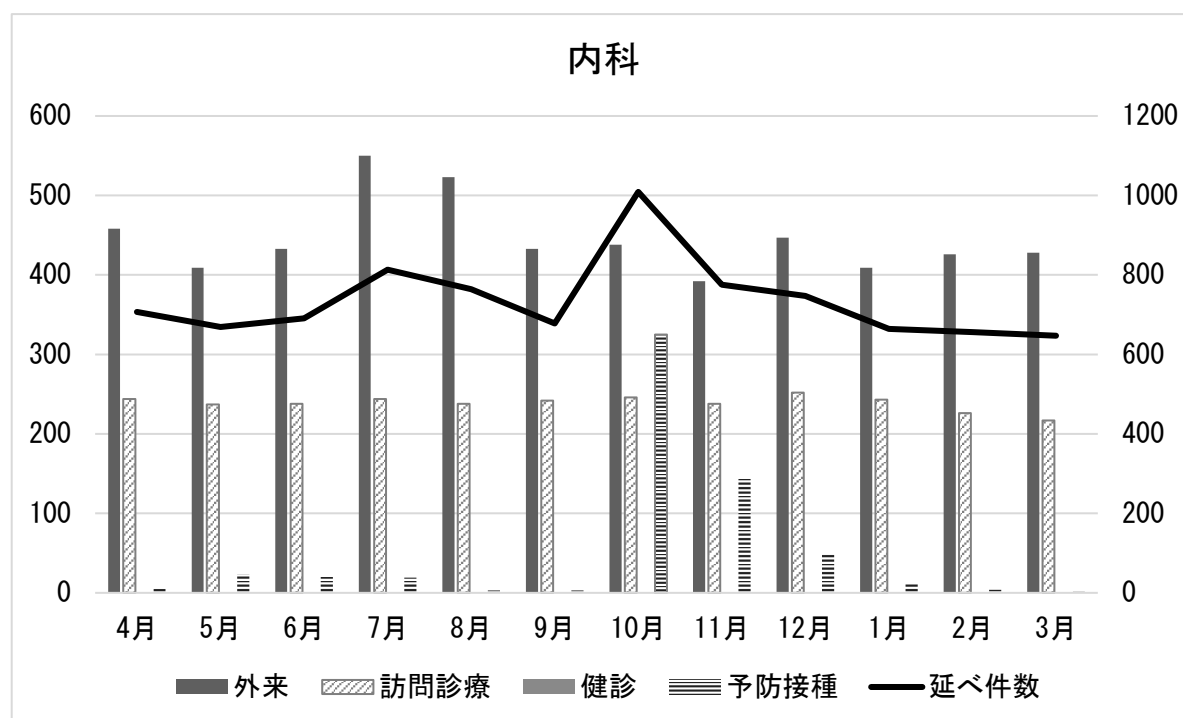
コロナ禍で滞っていた在宅診療中の患者さんの検査や家族会も進めていきたいと思います。禁煙

外来、アレルギー性鼻炎に対する免疫舌下療法、睡眠時無呼吸症候群の治療、肺がん検診も継続して行います。在宅医療も栄光病院以外の医療機関からの紹介患者さんを伸ばしたいと思っています。

年間統計＜内科＞

2022 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	458	409	433	550	523	433
訪問診療(件)	244	237	238	244	238	242
健診(人)	0	0	0	0	0	0
予防接種(件)	5	23	20	19	3	3
延べ件数(件)	707	669	691	813	764	678

2022 年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	438	392	447	409	426	428	5346	446
訪問診療(件)	246	238	252	243	226	217	2865	239
健診(人)	0	0	0	0	0	0	0	0
予防接種(件)	325	145	48	12	4	2	609	51
延べ件数(件)	1009	775	747	664	656	647	8820	735



2022年度を振り返って <小児科>

新型コロナウイルスは、1～3月の第7波、7～9月の第8波と、2022年度もまた想像を絶する感染者数となりました。加えて第8波に重なり3年ぶりにインフルエンザも大流行し、スタッフ一同、十分な休息も取れない過酷な日々が続きました。そんな中、ひとりひとりの自覚と努力と工夫により、なんとか乗り越えることができました。

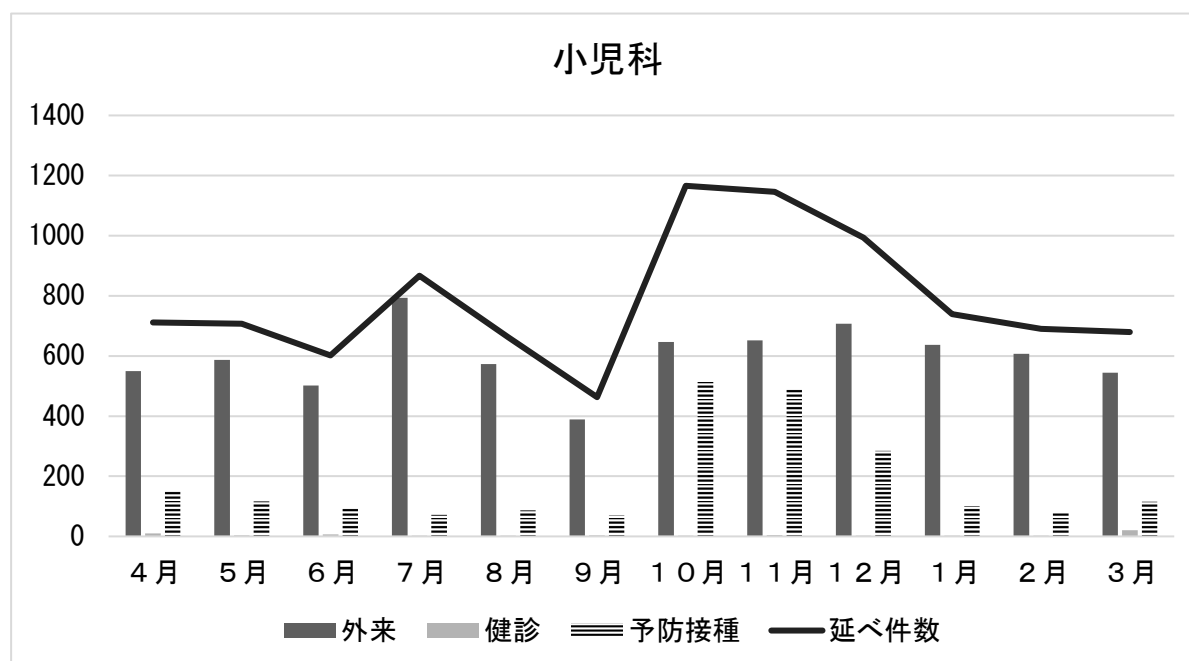
2023年度に向けて <小児科>

新型コロナウイルスは、その毒性も感染力も決して弱くなったわけではないのですが、マスクは任意となり、感染症分類では5類相当となりました。国民が油断している中、また必ず来る以降の波は、これまで以上のさらなる脅威となることが予想されます。スタッフ一同、覚悟を持って臨んでいきたいと考えています。

年間統計<小児科>

2022 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	550	587	502	793	573	389
健診(人)	10	4	7	2	3	4
予防接種(件)	152	116	93	72	87	70
延べ件数(件)	712	707	602	867	663	463

2022 年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	647	652	707	637	607	544	7188	599
健診(人)	2	5	2	2	3	21	65	5
予防接種(件)	517	489	285	100	80	115	2176	181
延べ件数(件)	1166	1146	994	739	690	680	9429	786



職場紹介

1. 職員構成

管理者（主任） 柳沼 由加理
看護師 9名（内 非常勤2名）
訪問リハビリ 4名
クラーク 1名

2. 業務内容

主治医の指示書に基づき、利用者・家族が安心して在宅療養が送れる様に、療養上の目標を設定し計画立案・評価をしながら適切な看護を提供します。また、住み慣れた家庭環境で過ごせるようターミナルケアも行っています。

利用者数

訪問看護利用者延べ人数	1, 023名	月平均85.2名
内介護保険		月平均42.8名
医療保険		月平均43.0名
年間訪問延べ件数	9, 079件	月平均756.5件
年間新規利用者数	75名	（介護保険：14名・医療保険：58名）
年間在宅看取り件数	37件	

2022年度を振り返って

【年間目標】

1. ホスピスの心で仕え質の高い看護の実践
2. 専門職としての意識を持ち自身のスキルアップに努める
3. 業務改善・安定した部署経営の取り組み

【評価】

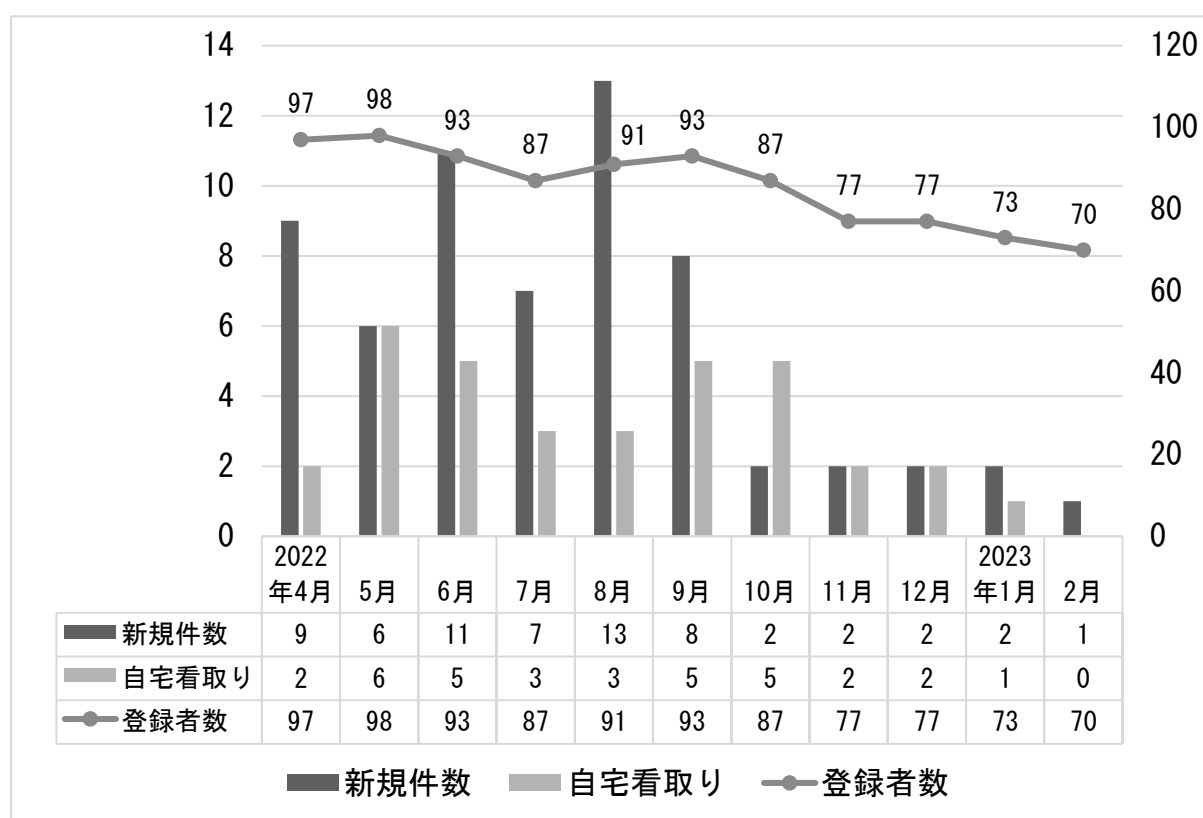
利用者、家族に寄り添い質の高い看護の提供を目指しスタッフは個々のスキルアップの為計画をたて研修を受講しケアに取り組んでいる。ケア会議やケースカンファレンスを実施し、看護の見直しや振り返りを行い質の高い看護の提供に日々努力している。2022年度は利用者満足度調査・自宅で看取りを行った家族へのアンケート調査を行い、日頃の看護の振り返りと利用者や家族からの率直な意見・想いを聴取する事ができた。地域包括ケアシステム構築の為、志免町地域ケア推進会議や、志免町多職種連携会議、糟屋地区訪問看護ステーション連絡会へ参加し地域において多職種を結び、医療依存度の高い高齢者の在宅生活を支える事を目的に地域と共同し働きかけている。

下半期は看護師の退職が続き、オンコール対応可能な看護師が減少した為、訪問件数制限をする事になり収入は減少に繋がった。訪問件数制限に伴い、1件、1件の看護の質に目を向け、医療度の高い利用者は1日2回・2人体制での訪問看護を実施。特に神経難病利用者・家族の意思決定支援には困難さを感じる場面が多くあり、積極的に介入し利用者や家族の想いを確認する重要性を強く感じた。

2023年度に向けて

利用者・家族が安心して生活できるよう、細やかな配慮、丁寧な対応を心がけ信頼関係を築き、頼ってもらえる栄光会訪問看護ステーションを目指していく。スタッフの増員もありオンコール可能なスタッフも増える為、ステーションの体制を整え機能強化型訪問看護管理療養費1の算定に向けて取り組んでいく。訪問リハビリへ言語聴覚士スタッフの導入を検討中、高齢者や神経難病利用者も多く需要は高いと考えている。

年間統計



介護事業本部

本 部 長 下稲葉 主一

副本部長 田ノ上 剛

職場紹介

介護事業部

《所属部署》

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス

介護栄養管理課、介護事業本部事務

2022年度 介護事業部 事業方針

1. サービスの質の向上

- ・ EBMに基づいた医療介護の提供
- ・ ホスピタリティの実践
- ・ ご利用者と職員双方の満足度追求

2. 地域共生を目指した事業展開

- ・ 地方行政との連携強化
- ・ 空きスペースの有効活用
- ・ 介護予防事業の推進

3. 安定した収益の確保

- ・ 加算算定を安定して満たす運営の実践
- ・ 営業活動の更なる展開
- ・ 切れ目のないサービスの提供

4. 働きやすい職場作り

- ・ 教育システムの構築
- ・ 労働環境の整備
- ・ 部署間の協力体制推進

2022年度を振り返って

1) 新型コロナウイルス感染症が拡大し、3年目を迎えました。

様々な影響がありましたが、ご利用者、ご入居者とそのご家族、そしてスタッフの協力により、ここまで乗り越えてきました。

日々の健康管理、感染対策に留意しつつ、毎日のケアに励みました。

段階的な対策緩和に伴い、徐々に面会の再開などできる事から始めています。

2) 地域共生を目指した事業展開として

①志免町委託事業「うきうきルーム」の再開

介護予防はこれから非常に重要な事業であり、コロナ渦により住民の方々の心身機能の低下が危惧され、その必要性は増しています。

②志免西学童保育事業に医療介護施設かめやま新館2階スペースを賃貸する事となりました。

志免町の長年の課題（学童保育待機児童）の解決に寄与する事となりました。

2023年度 介護事業部 事業方針

1. 人事制度を活用し、スタッフのモチベーション向上と離職率低下を目指す
2. スタッフ教育や業務改善を進め、サービスの質を向上させる
3. 地域住民のニーズや予防医学の観点からも事業を見定め、実現化する
4. 全スタッフ一丸となって、収支目標を達成する
5. コロナ前の行事や地域活動を復活させ、コミュニケーションの輪を広げる

2023年度は上記の方針を掲げ、各部署が連携し介護事業部の目標達成を目指します。

また、2024年度介護報酬改定に向けて情報収集を行い、事業方針を確認し準備を進めていきます。

職場紹介

1. 職員構成

主任介護支援専門員 常勤専従：5名 非常勤専従：1名

2. 業務内容

介護相談

要介護認定申請、更新手続き代行

居宅サービス計画(ケアプラン)作成

ケアマネジメント業務全般

病院・サービス事業所・行政との連絡調整

施設入退所支援

介護予防支援等業務の一部委託

2022年度を振り返って

2022年度、新型コロナウイルスの感染状況も徐々に落ち着き、介護を取り巻く状況や制度も介護状況の変化とともに少しずつ変わってきた。

介護を希望する人は年々増加の傾向に変わりなく、地域においても、高齢者が今後も増えていく状況であり、人生の最期を自宅で迎えたいという方も多くなか、医療との連携がより求められ居宅介護支援事業所の役割 必要性がさらに増しており、今後もまだまだケアマネは在宅サービスの要として存続すると思われる。

現在利用者家族は一人一人状態に相違があり、またその方を取り巻く家族や環境など多様性があり独居や高齢者世帯、老々介護、ヤングケアラーやビジネスケアラー、介護離職といった問題も出てきており、地域住民の方との連携、インフォーマルなサービスを活用することも求められている。

昨年度に続き栄光会ケアプランサービスは「特定事業所加算Ⅰ、特定事業所医療介護連携加算」の算定継続ができ、質の高いケアマネジメントを担保しており、引き続き質の高いケアマネジメントを提供するために、研修や勉強会に参加し知識を深めていく。

2023年度に向けて

- ・ 高齢化社会において高まる地域ニーズを的確に把握し、快適な老後を過ごせる地域づくりの拠点となる事業所を作り上げる。
- ・ 如何なる状況においても高齢者の尊厳を重視し「その人らしく」(自由で)(主体的な)生活をサポートできるように、自らの専門性を磨く。
- ・ 健全な人間関係の中で生活を営むことのできる、個々のニーズに合った生活の場を創造する。
- ・ 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できるよう、業務継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施等をすすめていく。

職場紹介

1. 職員構成

看護師： 常勤 5 名 非常勤 1 名
ケアワーカー： 常勤 8 名 非常勤 4 名
支援相談員： 常勤 1 名
介護支援専門員： 常勤 1 名
機能訓練指導員： 非常勤 1 名

2. 業務内容

施設入居者への生活全般や医療に対する主な支援として
食事・入浴・排泄介助・環境整備全般・看護師による疾病管理・医療処置
法人内外からの往診対応・看取り対応

2022年度を振り返って

コロナ禍の中にあって新年度早々に施設内クラスターが発生し、同法人スタッフの応援もいただきながら職員一丸となって乗り切ることができた。

上半期は入居者の減少が続いたが、徐々に回復し高稼働で推移できた。コロナの規制緩和もあり一定のルールの中で居室での面会の再開も可能となり、ご入居者様、ご家族様に於かれましても少しずつ日常を取り戻されていると感じている。

2023年度に向けて

この3年間でご入居者様も楽しみが奪われ、ご家族とも会うことができず、大変なストレスを抱えての生活であったと思われる。

23年度はwithコロナのなかで感染対策を講じながら外出やボランティアの再開など楽しみのある生活を送っていただけるよう尽力したいと考えている。

業績においては、慢性的な人員不足の中であっても業務の改善を行いながら、目標の達成と維持に努めていく。

年間統計

稼働率

2022 年									2023 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
83%	83%	82%	87%	89%	89%	90%	94%	94%	93%	91%	91%

看取りの数

2022 年									2023 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0

平均年齢

2022 年									2023 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
90.8	89.9	89.8	88.5	89.2	89.2	88.8	88.8	88.8	88.9	88.9	88.9

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士	3名（内1名 非常勤）
作業療法士	3名
看護師	1名
介護福祉士	6名（内1名 非常勤）
ヘルパー	3名（内1名 非常勤）
相談員	1名
事務員	1名
送迎非常勤	1名

2. 業務内容

リハビリ（評価・計画・見直し）
ご家族へ介護のアドバイス
健康観察 社会参加の支援 等

2022年度を振り返って

昨年度も、運営に関して新型コロナウイルスの影響を受けることがありましたが、スタッフや利用者様、ご家族様の理解も進み、また、これまでの経験や対策、エビデンスをもとに安全な営業を継続する事が出来ました。

関連施設でのクラスター発生時は、営業規模変更を伴う応援体制が必要となりましたが、優先順位を明確にし、規模縮小に際しても切れ目ないリハビリを提供できる新たな営業体制を作り上げる事ができました。

2023年度に向けて

一時減少していた担当者会議や家庭を訪問する機会も徐々に回復し、現状を維持する事が精一杯だったここ数年の関りから、改めて自立支援、通所リハの役割について見直す時期に来ていると考えます。今後も多くの方にとって、必要な時期に必要なリハビリ、および活動支援が行える運営を模索してまいります。

職場紹介

1. 職員構成

管理者（常勤兼務）	： 1名
サービス提供責任者（常勤専従）	： 1名
介護福祉士（常勤兼務）	： 1名
介護福祉士（非常勤専従）	： 1名
ヘルパー（常勤兼務）	： 1名

2. 業務内容

ご利用者のご自宅に訪問し、生活や身体の介護を行う。

具体的には、料理／掃除／洗濯などの家事全般から、

日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事／入浴／排泄などの
各種身体介助が中心となる。

2022年度を振り返って

コロナウイルス感染予防への対策を継続しつつ、限られた制度の範囲内で、ご家族やケアマネジャーと連携しながら、いかにご利用者のニーズに応えるか、試行錯誤の連続であった。

加えて、突発的なスタッフの欠員や、長年に渡りサービスをご利用頂いた方々が相次いでお亡くなりになるなど、これまでの流れが一変した年でもあった。

また、訪問介護事業は全国的に厳しい運営状況が続いており、実際、近隣のいくつかの事業所も閉鎖となっているのが現状である。

一方で、ご利用者から、感謝やお礼のお言葉を頂く機会はとても多く、それがスタッフ全員の強力なモチベーションとなっている状況下において、今後も地域住民のニードへ応えつつ、安定的な運営基盤を確立させる為の取り組みを、事業所間の連携や行政との協力関係等も視野にいれつつ、確立していくことが急務だと考える。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1名

委託（日清医療食品株式会社） 調理師 2名 栄養士 1名

2. 業務内容

献立作成・発注・施設入所者 利用者様の食事提供、栄養管理・クリニック栄養指導・訪問栄養指導

2022年度を振り返って

入所者・利用者様に栄養のバランスを考慮し、より家庭的な味を心がけ、安心安全な食事の提供を目標に取り組んできました。

コロナ禍で、外出が難しい入所者様には、季節を感じていただけるような食事を心がけました。桜の時期には、桜ちらし寿司や桜もち、夏の暑い時期はかき氷・そうめん、冬は大豆から味噌を作る等、食を通して癒し癒される時が過ごせたと感じています。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で低栄養による身体の重症化を防ぎ、個々の食事形態や嚥食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等、早期に身体状況の変化に気づき改善策に取り組んでいます。

2023年度に向けて

コロナも少しずつ減少し、以前の様なイベントが出来るようになればと考えています。

又日々の生活の中で、野菜を包丁で切り浅漬けを作ったり、揚げたての天ぷらや大好評のたこ焼きパーティーを行う事で、食への楽しみが増えると良いと思っています。

より家庭的な雰囲気味わっていただける様に努めていきます。

通所リハビリ利用者様にはリハビリの状況を把握し、フレイル・サルコペニア予防のため、その方にあった栄養量の提供・補助食品の提案を行う。一人一人スクリーニングを行う事で体重の変化、身体状況をすばやく把握する事で健康寿命をのばし、自分らしい生活が送れるお手伝いを出来ればと思います。

外来クリニックにおいては生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解していただき具体的な献立の提案を行う。タニタ体組成計を用い、見える化による目標を設定し達成を目指します。

地域包括における栄養士の役割として健康教室・うきうきルーム・料理教室開催時には、最新の栄養情報を伝え食の支援活動を行う事で地域の健康増進、病気の予防、介護予防等の役割をはたしていきたいと思います。

又、子供の栄養不良・過多も近年問題となっています。身体は毎日食べる物で作られます。

世代ごとの問題点もあり、一人で解決するのではなく、今こそ地域の力が必要と感じます。

微力ではありますが、栄光会栄養士の力を発揮していきたいと思っています。

伝道部

職場紹介

1. 職員構成

チャプレン/グリーフカウンセラー 清田直人

2. 業務内容

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

- 1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員への心理／産業カウンセリング、遺族へのグリーフカウンセリング
- 2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰
- 3) 院内キリスト教行事の執行
- 4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行
- 5) NPO法人栄光ホスピスセンター
- 6) 協力牧師会事務局

a) 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」
—栄光会創立の精神—

- i) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「わたしたちの信仰」に基づいてその目的達成につとめる。
- ii) キリスト者スタッフは、まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、他のスタッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

b) 伝道部目標

- i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙
- ii) 院内キリスト教行事の充実
- iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

2022年度を振り返って

年間聖句:「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい」(ローマ人への手紙 12:12)

- i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙

○栄光会の体制が大きく変化していくなかで、改めて栄光会の土台となるキリスト教精神を確認しつつ啓蒙する。

1. 行事

- ・たんぽぽ 毎月発行
- ・よきおとずれ会 院内放送のみで開催
毎週火、木、土曜日 9:00～9:30 栄光の間（野村先生、清田）
- ・聖日礼拝 第4日曜日 10:30～11:30 礼拝堂
新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・イースター集会 日時：2022年4月16日（土）14:00～15:00
院内放送のみで開催
- ・協力牧師会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・第60回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・召天者墓前記念礼拝 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・秋の特別讃美集会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・栄光病院クリスマス会 日時：12月24日（土）14:00～14:50
院内放送のみで開催
- ・年末感謝礼拝 日時：2022年12月30日（金） 8:30～8:50 礼拝堂
- ・年頭感謝礼拝 日時：2023年1月4日（水）8:30～8:50 礼拝堂
- ・第61回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止

2. その他

- 院内葬儀 0件（3月31日現在）
- 院内結婚式 0件（3月31日現在）
- 納骨式 3件（3月31日現在）
- 洗礼式 0件（3月31日現在）

2023年度に向けて

「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。」（ヨハネの手紙 第一 5:14）

ii) 院内キリスト教行事の充実

- 各行事の再開に向け、患者さんが参加しやすい環境作り
- 各病棟スタッフと密に連携をとりながらキリスト教行事を充実させていく

地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部長 下稲葉 主一 部長補佐 鷹尾 剛 / 和田 優里菜

※地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています。

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている。
在宅時代のなか、専門職及び生活支援に関わる地域住民は育っているのか？

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をし続けることができ、その方々の
幸せな人生最期に貢献する事にある。

内容

栄光会と地域人を繋ぎ、ネットワーク化する中で協働できる仕組みをつくる事。

- ①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営
- ②「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局
- ③「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局
- ④大学及び各団体、企業との協働
- ⑤iPadで脳若トレーニング講座の運営

2022年度を振り返って

今年度より介護予防分野に関するプロジェクトチームを構成し、介護予防分野に於いて栄光会としてどんな貢献ができるのかについて協議を重ねてきた。一方、地域協働活動については全町的な動きへと進み始めている。『行動変容』生み出す貢献へとステップする段階に一段進んだ年度です。

①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し各種講座や運動を行う。
2022年度は9月より開催開始となり10町内会を担当。合計25回の開催となった。

②「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局

2022年度も、新型コロナウイルス感染拡大により足並みが揃わず、3年連続活動休止状態である。

③「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局

当活動を通じて、全町的な人的ネットワークの構築が出来ている。以下は、代表的な活動事例。

- ・中学生～40代等の世代との関りが、志免中学校との協働で結成している「支え合い新聞部」を通じて出来てきた。
- ・「公益財団法人さわやか福祉財団」との協働により、多面的に繋がる人的ネットワークへと進化している。
- ・「NPO法人いるか」との連携協定を通じ、志免町の小学校区に1ヶ所の『多機能型子ども食堂』づくりのサポートや『ボランティアプラットホーム』づくりを、行政等とも連携して行えるよう進化している。
- ・アナログ・デジタルのハイブリットによる活動展開。

④大学及び各団体、企業との協働

- ・福岡工業大学様との協働 ⇒ 篠栗町前期高齢者の体力測定プロジェクト参加。
- ・志免中学校様との協働 ⇒ 支え合い新聞部活動。創刊号発刊。西日本新聞の記事となる。

新聞は、志免町役場1階ロビーに置いて頂いた。

- ◎さわやか福祉財団様との協働 ⇒ いきがい・助け合いサミットin東京における分科会26で活動発表。全国紙「さあ、やろう」2月号に掲載される。

⑤iPadで脳若トレーニング講座の運営

iPadで脳若トレーニング講座の運営を介護予防の一環として実施。通所型と訪問型にて運営。

- ・通所型 ⇒ 11月まで2回／月の水曜・木曜で実施。その後は2回／月の木曜で実施。
⇒ 約4ヶ月間、1回／月で別府3町内会の「いきいきサロン」として開催した。
- ・訪問型 ⇒ 1回／月、志免町社会福祉協議会デイサービス輝きに伺う。

2023年度に向けて

1. 介護予防分野でのモデル事業を実施
2. 志免西・地域協働ネットワークの再開
3. NPO法人志免地域支え合い互助基金で行う活動を通じた人的ネットワークの拡充
4. 脳若トレーニングを更に多くの場所で開催できるように展開する

年度統計

2022年度 志免町委託事業『うきうきルーム』参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
別府2	準備月	新型コロナウイルス感染拡大により、この期間は中止となる				8		6		10		10	34
別府3										17		14	31
南里3						22		16		19		20	77
志免5										8		7	15
志免6							15		10		19		44
石橋台							8				7		15
向ヶ丘													0
王子八幡						15		14		25		23	77
水鉛									10		8		18
御手洗													0
サンリヤン													0
合計		0	0	0	0	45	23	36	20	79	34	74	311

2022年度 栄光会脳若ステーション『iPadで脳若トレーニング』訪問型
(場所:志免町社会福祉協議会 デイサービス輝き)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	17	17	17	18	17	中止	13	13	20	中止	37	32	201

2022年度 栄光会脳若ステーション『iPadで脳若トレーニング』医療介護施設かめやま 木曜日通所型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1回目	6	5	5	3	4	4	5	7	7	7	6	5	64
2回目	休	7	8	4	4	4	5	8	8	6	6	8	68
合計	6	12	13	7	8	8	10	15	15	13	12	13	132

2022年度 栄光会脳若ステーション『iPadで脳若トレーニング』医療介護施設かめやま 水曜日通所型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	2	2	2	2	2	2	2	2	講座を休止中				

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

主任 1名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2022年度を振り返って

2020年度より、コロナ禍の中、ボランティア活動は一部を除き 休止となっています。

2020年2月23日より、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ボランティアのみなさんには屋外での活動である花壇の整備以外、活動の休止をお願いしています。感染の収束を願いながらも、3年以上の月日が経過し、今なお ボランティア活動の全面再開は実現していません。

そのような中、マスクを着用する、病院建物内には入らないといった感染対策を講じた上で活動することを確認し、新型コロナウイルス対策会議の承認を得て、花壇ボランティアの活動は継続されています。今、病院の玄関前の花壇には 可憐な花々が風にそよんでいます。ボランティアさんによる『癒しの花壇』は、きっと 病院を訪れる人々の心を 明るくしてくれていることでしょう。その他にも、患者さんに直接お会いすることはできなくても、折り紙やペーパークラフトの飾り物を自宅で作って送ってくださるボランティアさんがいらっしゃいます。患者さんや病院のことを思いながら、一折り、一折り 作ってくださったことを想うと 心が温かくなります。季節を感じさせてくれる作品が届くと、患者さんのお目に留まる所に飾るようにしています。

2023年4月現在、63名の方がボランティアに登録してくださっています。

活動休止の期間、63名のみなさんにあてて、はがき、メール、電話 等で つながりを絶やさないようにと努めています。ボランティアさんからも励ましのお便りをいただき 感謝しています。

もうすぐ ボランティアさんたちの元気な顔に会えますようにと願っています。

年間のボランティア活動

製作、整備活動

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

季節の装飾—折り紙の壁掛け ・ ペーパークラフトの花

年度実績

玄関前ボランティア花壇の整備

月	新規登録数	延べ活動 回数	延べ活動 時間
4	0	11	9:40
5	0	16	13:55
6	0	16	21:55
7	0	20	18:20
8	0	20	15:15
9	0	15	13:40
10	0	16	19:10
11	0	14	13:20
12	0	8	6:00
1	0	7	5:10
2	0	9	6:05
3	0	10	8:10
計	0 人	162 回	150 時間 40 分

季節の装飾の製作

月	作 品	
4	折り紙の壁飾り	『 チューリップ 』
5	折り紙の壁飾り	『 端午の節句 』
6	折り紙の壁飾り	『 紫陽花 』
7	七夕飾り	
8	折り紙の壁飾り	『 納涼 』
9	折り紙の壁飾り	『 お月見 』
10	折り紙の壁飾り	『 ハロウィン 』
11	折り紙の壁飾り	『 秋の風情 』
12	折り紙の壁飾り	『 クリスマス 』
	ペーパークラフト	『 クリスマスオーナメント 』
1	折り紙の壁飾り	『 お正月 干支 』
2	折り紙の壁飾り	『 節分 』
3	折り紙の壁飾り	『 ひなまつり 』

本部事務局

職場紹介

1. 職員構成（2023／4／1現在）

事務局長	1名
事務局次長	1名
課長	1名
主任・副主任	10名
一般職	7名
【計】	20名

2022年度を振り返って

コロナ禍3年目の年度でした。法人としても新型コロナによる3度のクラスターを経験し、運営面、また経営面で大きな影響を受けることとなりました。本部事務局としても、医療・介護の現場を支えるべく、自部署の業務・役割遂行に励んだ一年でした。

また、2022年度の大きなプロジェクトの一つとして、「病院機能評価3rd G. 更新受審」に向けて、準備を進めて参りました。受審日は、諸事情により来年度へ延期となりましたが、受審準備を通して、業務改善に繋げる機会とし、また無事に更新認可に至るよう引き続き取り組んでいきたいと考えております。

2023年度に向けて

1. 全人的ケアを担うスタッフの一員としての自覚を持ち、医療・看護・介護現場を支える
2. 他部署と積極的に関わり、現場のニーズの把握に努める
3. 部署内の連携を密にし、業務の平準化・効率化を図る

以上を2023年度・本部事務局の部署目標として掲げました。課題は多く、また解決が困難に思えることもありますが、栄光会の理念を忘れることなく胸に携え、本部事務局スタッフと心と力を合わせて、一つ一つの業務に励んでいきたいと思っております。

職場紹介

「“経営の羅針盤”となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
内科	1,739	1,577	1,570	2,480	2,213	1,701
外科	230	283	327	281	206	188
循環器科	181	132	199	157	190	191
呼吸器科	181	167	178	188	143	190
整形外科	127	118	125	106	108	105
リハビリ	153	130	157	153	133	123
健診センター	277	293	492	390	473	373
在宅医療センター・栄光	176	156	152	168	192	201
その他診療科	170	165	207	78	42	38
〈計〉	3,234	3,021	3,407	4,001	3,700	3,110

診療科	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内科	1,516	1,581	1,811	1,465	1,378	1,424	20,455
外科	300	325	280	215	261	312	3,208
循環器科	181	179	171	156	163	214	2,114
呼吸器科	185	212	189	176	197	192	2,198
整形外科	112	101	117	85	94	89	1,287
リハビリ	132	130	108	90	115	124	1,548
健診センター	469	885	500	332	302	391	5,177
在宅医療センター・栄光	178	179	154	158	133	197	2,044
その他診療科	1,088	858	505	340	155	177	3,823
〈計〉	4,161	4,450	3,835	3,017	2,798	3,120	41,854

医業収入

年			2022		2022		2022		2022		2022		2022	
月			4月		5月		6月		7月		8月		9月	
患者数	栄光病院	外来	2,781		2,572		2,763		3,443		3,035		2,536	
		健診センター	277		293		492		390		473		373	
	在宅医療センター栄光		176		156		152		168		192		201	
	訪問看護		897		835		831		620		797		797	
	ファミリークリニック	内科(外来)	463		386		421		529		526		436	
		内科(訪問診療)	244		237		239		244		238		242	
		小児科	712		753		634		907		663		463	
	通所リハ		467		916		962		896		893		827	
病床棟	・ 延患者数 ・ 1日平均	3 A	567	18.9	565	18.2	548	18.3	720	23.2	698	22.5	621	20.7
		3 B	632	21.1	632	20.4	592	19.7	660	21.3	672	21.7	670	22.3
		2 C	538	17.9	504	16.3	467	15.6	615	19.8	586	18.9	612	20.4
		4 A	1,077	35.9	1,174	37.9	1,186	39.5	1,161	37.5	966	31.2	779	26.0
		4 B	750	25.0	769	24.8	762	25.4	751	24.2	722	23.3	599	20.0
		5 A	903	30.1	962	31.0	781	26.0	745	24.0	684	22.1	746	24.9
		全院	4,467	149	4,606	149	4,336	145	4,652	150	4,328	140	4,027	134
	・ 稼働率 ・ 入退院 (転棟含む)	3 A/24	79%	29	76%	35	76%	35	97%	23	94%	23	86%	36
		3 B/24	88%	17	85%	25	82%	21	89%	37	90%	36	93%	35
		2 C/23	78%	34	71%	28	68%	37	86%	34	82%	37	89%	26
		4 A/45	80%	93	84%	61	88%	100	83%	76	69%	41	58%	49
		4 B/28	89%	13	89%	16	91%	11	87%	13	83%	19	71%	11
		5 A/34	89%	17	91%	18	77%	16	71%	16	65%	11	73%	22
		全院	84%	203	83%	183	81%	220	84%	199	78%	167	75%	179
	有老<かめやま> 35室		%	81%	80%		79%		87%		89%		88%	
その他	・ 時間外比率		%	34%	38%		29%		45%		47%		29%	
	・ 死亡退院		人	29	40		25		39		30		43	
	・ 救急車来院回数		回	13	23		30		26		17		14	

年			2022		2022		2022		2023		2023		2023	
月			10月		11月		12月		1月		2月		3月	
患者数	栄光病院	外来	3,514		3,386		3,181		2,527		2,363		2,532	
		健診センター	469		885		500		332		302		391	
	在宅医療センター栄光		178		179		154		158		133		197	
	訪問看護		741		673		739		688		692		769	
	ファミリークリニック	内科(外来)	738		514		495		396		398		432	
		内科(訪問診療)	243		244		252		243		226		217	
		小児科	1,191		1,163		994		764		722		678	
	通所リハ		966		974		861		731		869		1,033	
病床棟	・ 延患者数 ・ 1日平均	3 A	547	17.6	573	19.1	513	16.5	599	19.3	576	20.6	592	19.1
		3 B	703	22.7	681	22.7	676	21.8	578	18.6	598	21.4	634	20.5
		2 C	627	20.2	530	17.7	568	18.3	489	15.8	525	18.8	599	19.3
		4 A	824	26.6	966	32.2	916	29.5	986	31.8	958	34.2	1,058	34.1
		4 B	729	23.5	661	22.0	659	21.3	673	21.7	675	24.1	708	22.8
		5 A	855	27.6	842	28.1	831	26.8	849	27.4	835	29.8	918	29.6
		全院	4,285	138	4,253	142	4,163	134	4,174	135	4,167	149	4,509	145
	・ 稼働率 ・ 入退院 (転棟含む)	3 A/24	74%	45	80%	37	69%	37	81%	24	86%	28	80%	28
		3 B/24	94%	29	95%	20	91%	28	78%	29	89%	27	85%	29
		2 C/23	88%	32	77%	36	80%	31	69%	20	82%	35	84%	29
		4 A/45	59%	64	72%	63	66%	61	71%	59	76%	71	76%	73
		4 B/28	84%	12	79%	14	76%	19	78%	12	86%	10	82%	11
		5 A/34	81%	20	83%	24	79%	18	81%	15	88%	24	87%	21
		全院	78%	202	80%	194	75%	194	76%	159	84%	195	82%	191
	有老<かめやま> 35室		%	90%	93%		94%		92%		90%		91%	
その他	・ 時間外比率		%	33%	42%		50%		48%		37%		32%	
	・ 死亡退院		人	43	41		39		32		33		34	
	・ 救急車来院回数		回	33	16		15		28		11		15	

研修状況

院内・院外研修状況

■ 2023年度 新入職員研修スケジュール

◀ 新型コロナウイルス感染症対策 対応版 ▶

研修場所 2F大会議室

4月1日(土)

- | | | |
|--------|-------|---|
| 8:30~ | 9:00 | 開院記念日・入職式 |
| 9:10~ | 9:40 | 訓辞・「新しい方々を迎えて」 井上理事長 |
| 9:40~ | 10:00 | 法人の概況・職員の心構え 後藤事務局長 |
| 10:00~ | 10:50 | 「新人事制度について」 後藤事務局長・小池事務局次長
人事労務関係留意事項 松尾主任 |
| 11:00~ | 11:40 | 医療安全 鎌倉医療安全管理副室長
感染対策 野田看護師 |
| 11:40~ | 12:20 | 「看護部の紹介」 堤看護部長 |
| 12:20~ | 12:30 | 名札写真撮影 (本部事務局内撮影場所) |
| 13:30~ | 14:10 | 「栄光会における地域協働活動」
～住民が支え合い、安心して暮らせる地域社会を目指して～
下稲葉(主)本部長 |
| 14:10~ | 14:30 | 消防訓練実施要領説明 安川課長 |
| 14:30~ | 15:10 | 消防訓練 安川課長
＜礼拝堂・2Fリハビリテーション課前自動販売機付近＞ |
| 15:20~ | 16:00 | 「栄光ホスピスの『こころ』」 ～関わる全ての人の『幸せ』の
『小さなきっかけ』となる働きを目指して～
下稲葉(順)副理事長・ホスピス長 |
| 16:00~ | 16:40 | 「栄光会フィロソフィ」 清田チャブレン |
| 16:40~ | 17:10 | 人事・労務関係入職時提出書類説明 布川主任 |

4月3日(月)

- | | | |
|-------|------|---------|
| 8:30~ | 9:00 | 永年勤続表彰式 |
|-------|------|---------|

第 1 4 回 T Q M 研究発表会の開催

栄光会第 1 4 回 T Q M 研究発表会を開催した。目的は、栄光会の患者様・利用者様に対するサービス向上、医療・看護・介護のレベルアップ及び勤務モラル向上を期したもの。栄光会全部署が参画し、病院主催により開催。従来通り、発表内容に対する審査と報奨を検討し、各部署創意工夫を凝らした準備と発表を行った。

開催日：2022年10月14日（金） 14：00～16：00 礼拝堂及びWeb併用

発表部署（8部署）下記スケジュール参照

発表時間等 発表時間8分×8部署 挨拶・講評27分 計120分

審査員 折田総院長・井上理事長・青戸副理事長・下稲葉副理事長・吉田副院長
堤看護部長・下稲葉副看護部長・下稲葉本部長・田ノ上副本部長
後藤事務局長・小池事務局次長・坂本施設長 計12名

時 間	部 署	テーマ
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:13	① 5 A 病棟	安全対策の実態と見直しの必要性 ～患者を事故から守り隊～
14:15～14:23	② 通所 リハビリテーション	離職防止にむけた取り組み
14:25～14:33	③ 3 B 病棟	その人らしい生き方を支える関わりについて
14:35～14:43	④ 有料老人ホーム かめやま	新型コロナクラスターを経験して
14:43～15:00	休憩	
15:00～15:08	⑤ リハビリテーション課	誤嚥性肺炎予防スケール開発の試み
15:10～15:18	⑥ 2 C 病棟	ストーマ周囲皮膚障害により苦痛を抱えた 患者との関り ～癌終末期にある患者のストーマケアを考える～
15:20～15:28	⑦ 特別養護老人ホーム こころ	100歳万歳 p r o j e c t ～コロナ禍でも諦めない！ 百寿のお祝いを通して学んだ事～
15:30～15:38	⑧ 4 A 病棟	糖尿病教育入院の指導体制を整えるための取り組み
15:38～16:00	講評	

※なお、審査採点の結果、最優秀賞：特別養護老人ホームこころ

優秀賞：リハビリテーション課、優秀賞：通所リハビリテーション
が表彰された

■ 院内研修会 実施状況

栄光これから研修会

月	日	研修会名	講 師	受講者 数
5	11	『医薬品の取扱いについて』	中島 主任	231
6	1	『感染対策』	下稲葉 副看護部長	297
7	6	『医療安全』	鎌倉 副室長	297
8	3	『認知症ケアについて』	大野 脳神経内科部長	292
9	7	『医療機器の安全管理』 (除細動器の使い方)	日本光電 株式会社	199
10	3	『感染対策』	安藤 内科部長	276
11	2	『医療ガス安全講習』	株式会社 朝日酸素商会	180
2	6	『医療安全』	吉田 副院長	258

新入職員研修

4	1	『感染管理』(新入職員研修)	下稲葉 (道) 副看護部長	28
4	1	『医療安全』、『臨床倫理』	吉田 副院長	25
4	1	『消防訓練』	安川 総務・システム支援課長	31

その他

6/20	『ハラスメント』	293
8/8	『防災講習』	226
10/31	『接遇』	253

■ 看護部 院内研修

看護部 教育計画（院内研修）

実施月	モニター担当	研修テーマ	講師
5月	3A	他者と出会うための倫理～コロナ禍の分断を超えて～	e-ラーニング
6月	3B	これからの栄養サポートチームにおける多職種協働	e-ラーニング
7月	2C	標準予防策(スタンダードプリコーション) ～院内全体で取り組もう～	e-ラーニング
8月	4A	転倒転落予防のためのアセスメントを知ろう	e-ラーニング
9月	4B	感染経路別予防策Up to date 2022 ～ノロウイルス対策も含めて～	e-ラーニング
10月	5A	看護師が知っておくべき耐性菌とマネジメント	e-ラーニング
11月	訪問看護	各部署で決めた または 個人で興味のあるテーマ	e-ラーニング
12月	ファミリークリニック	各部署で決めた または 個人で興味のあるテーマ	e-ラーニング
1月	3A	各部署で決めた または 個人で興味のあるテーマ	e-ラーニング
2月	3B	各部署で決めた または 個人で興味のあるテーマ	e-ラーニング

看護部研修会（隔月第2水曜日 17:15～18:00 礼拝堂）

開催日	モニター担当	テーマ	講師
2022/6/8	3A	栄光会フィロソフィ（1回目）	清田チャブレン
2022/8/10	3B	疼痛コントロールの基本について	湯川認定看護師 假屋認定看護師
2022/10/12	2C	看護必要度	伴看護師 篠崎看護師 倉掛看護師 村田看護師 中島看護師
2022/12/14	4A	困っていませんか？ 外用薬やドレッシング材の選び方・使い方	船津認定看護師 河野有看護師 瀧間看護師
2023/2/8	4B	栄光会フィロソフィ（2回目）	清田チャブレン

職位研修（看護師長・看護主任） 清田チャブレンによるフィロソフィ研修会（8回）

開催日	研修テーマ
2022/6/6	栄光会創立の精神
2022/6/8	栄光会フィロソフィの理解に向けて（看護部研修会）
2022/6/20	キリスト教について ～キリスト教の歴史と教派の相違～
2022/7/4	共通資格等級基準 ～フィロソフィを実践する人材～
2022/9/12	フィロソフィを実践するために
2022/10/24	栄光会フィロソフィを実践するために 「自分を知る」 教育訓練のすすめ
2022/11/21	業務の姿勢を整える（1）
2022/12/6	業務の姿勢を整える（2）

■ 看護部 院外研修参加報告 2022年4月～2023年3月

部署	日付	主催	テーマ	参加数
2 C	5/14	日本褥瘡学会九州・沖縄 地方会	日本褥瘡学会九州・沖縄地方学術集会	1
	7/1	(株) パラマウントベッド	明日から実践！知らないで損する脆弱皮膚・ スキンケア	1
	8/23	(株) コンチネンスジャパン	コンチネンス分野集中講座	1
	10/26	(株) スミスアンドネフュー	明日から生かせるウインドケアオンラインセミナー 基礎編	1
	11/3	(株) パラマウントベッド	明日から実践 見てわかるモーションエイド ～ずれ力を軽減するケア技術と理論の実践～	1
	1/7	(株) パラマウントベッド	明日から実践 I A D の治療と予防	1
3 A	6 月	日本緩和医療学会	教育セミナー（テーマ多分野）	1
	7/20	福岡県看護協会	がん性疼痛	1
	8/30	福岡県看護協会	高齢者のエンドオブライフケア	1
	12 月	日本看護協会	認定看護師対象キャリアアップ研修	1
	1 月	日本緩和医療学会	教育セミナー（テーマ多分野）	1
3 B	4/2 12/4	e-ラーニング	いまさら聞けない褥瘡の適切なアセスメントに 必要な知識	2
	4/2 12/23	e-ラーニング	退院後の「暮らし」を支える訪問看護を知る	2
	5/13	e-ラーニング	みえないニーズをとらえよう～精神的・社会的・ スピリチュアルニーズのとらえかた～	1
	5/17	e-ラーニング	自分も相手も尊重するアサーション	1
	6/10	e-ラーニング	速報 2022 年度診療報酬改定	1
	11/26	e-ラーニング	がん薬物療法の最新知識～専門的な知識をもって 患者を支援する～	1
	12/4	e-ラーニング	非褥瘡三原則	1
	12/5	e-ラーニング	医療従事者に必要なキャリアのつくり方	1

	12/25	eラーニング	事例から学ぶ認知症とせん妄	1
	12/25	eラーニング	認知症患者の日常ケアで生じる倫理的課題	1
4 A	5/8	心電図の学校	ブロックについて	1
	5/14	マルホ（株）	がん皮膚障害の治療・ケアマネジメント	1
	5/14	日本褥瘡学会	九州・沖縄地方会	1
	5/19	MSD/ノボノルディスクファーマ（株）	臨床経験における経口セマグルチドの有効性および安全性	1
	5/27	ノボノルディスクファーマ（株）	時短、簡単、結果を出すには～ゾルトファイ配合注をどう使う？	1
	6月	日総研	今どきのプリセプターシップ指導&教育の具体策	1
	6/18	コンバテックジャパン	ウロストミー基礎編	1
	6/24	福岡県看護協会	リスクマネージャー研修	1
	6/28	日本イーライリリー	「Diabetes & Incretin Seminar～糖尿病患者さんのジレンマを解決するには」	1
	7月	日総研	チームワーク（和）を乱さず、違和感のある人へのかわり方	1
	7/1	心電図の学校	右脚ブロックについて	1
	7/7	徳島大学 先端酵素学会 研究所 糖尿病 臨床研究開発センター	令和4年度メディカルゾーンセミナー	1
	7/9	不明	疼痛管理について	1
	7/10	糖尿病看護実践力開発研究会/ 三和化学	糖尿病神経障害	1
	7/14	松山「足を学ぶ会」 大正製薬株式会社	第9回 松山「足を学ぶ会」	1
	7/15	熊本糖尿病フォーラム 田辺三菱製薬株式会社	第24回 熊本糖尿病フォーラム インスリン発見 101年～これからの100年に向けて～	1
	7/15	福岡県看護協会	看護過程と看護記録	2
	7/26	福岡県看護協会	看護管理者が行うスタッフのストレスマネジメント	1
	8月	日本臨床看護マネジメント学会	22重症度、医療、看護必要度	2

	8 月	日本糖尿病協会	第 9 回日本糖尿病協会年次学術集会	
	8/27・28	日本褥瘡学会	褥瘡マネジメント	1
	9/1	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割	1
	9/1	福岡県看護協会	基礎から学ぶ医療安全	1
	9/14	西埼玉 糖尿病 フットセミナー他	第 8 回 西埼玉 糖尿病フットセミナー	1
	9/1 7/18	日本糖尿病教育看護学会	VUCAの時代に改めて問う セルフ支援	1
	9/18	心電図の学校	心電図について	1
	10/2	石川県糖尿病療養指導士研究会	糖尿病と脂肪肝について	1
	10/6・7	福岡県看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1
	10/7	さがみ糖尿病カンファレンス	開催 100 回記念:糖尿病診療のNEXT STAGEへ	1
	10/7・8	日本糖尿病学会九州	糖尿病ケアのSDGs ～豊かな健康寿命を目指して	1
	10/14	佐賀県糖尿病内分泌懇話会	第 95 回 佐賀県糖尿病内分泌懇話会	1
	10/29	北信糖尿病カンファレンス世話人会	糖尿病治療の地域医療の推進と糖尿病の早期発見・早期治療を目指して	1
	11/5	心電図の学校	心電図検定について	1
	11/8・9	日本看護協会	変化する社会で求められる看護の役割	1
	11/27	広島レモンの会	第 1 回 血糖パターンを活かす！ 1 歩進んだ糖尿病看護セミナー	1
	1/21	さわやか	病棟のチーム力を上げるコミュニケーション向上セミナー	1
	2/4	さわやか	入院時から退院を見据えた在宅療養継続支援向上セミナー	1
	2/15	スミスアンドネフュー	スキンテアと褥瘡予防のためのスキンケア	1
	2/21	スミスアンドネフュー	Design-R2020 で創をモニタリング	
	2/24	さわやか	避けて通れない高齢者の退院支援に役立つセミナー	1
4 B	4/17	認知症の緩和ケアに関する研究会	第 3 回「認知症の緩和ケア」に関する研究会	1

	4/27	武田薬品工業	パーキンソン病とラサギリンの位置づけ WEB講演会 in miya z a k i	1
	5/29	eラーニング	チームの一員としての看護補助者業務の理解	1
	5/29	eラーニング	落ち着いてクレームに対応するためのポイントを学ぼう	1
	6/21	A H A	B L S プロバイダー	1
	6/21	武田薬品工業	パーキンソン病治療薬の位置づけ	1
	7/5	アボットジャパン	「見てわかる実演付褥瘡予防・効果的な摂食嚥下を目指すポジショニング実践セミナー」	1
	7/7	日清オイリオグループ	摂食嚥下障害における食形態の重要性～嚥下調製食の最新情報から食形態調整のあり方を考える～	1
	7/31	アボットジャパン	褥瘡治療と栄養を考える	1
	7/31	エムハंक	慢性期用人工呼吸器（人工呼吸器とNPPV）	1
	7/31	兵庫県臨床工学技士会	第42回 呼吸セミナー 初級コース	1
	8/4	エムハंक	臨床で使えるグラフィックモニターの読み方	1
	8/5	武田薬品工業	パーキンソン病の多職種連携を考える会	1
	8/17	アボットジャパン	「サルコペニアの摂食嚥下障害」高齢者モデルで考える新しいe t i o l o g y	1
	9/2	福岡県看護協会	「人工呼吸器の看護に強くなろう」	1
	10/19	アルケア/メディバンクス株式会社	ポジショニング技術の伝え方	1
	10/20	B O C プロバイダー認定資格講座	誤嚥性肺炎を防ぐ為に今出来る事	
	10/29	福岡県看護協会	地域包括ケアに向けて在宅看護の現場から	1
	10/31	日総研	入退院支援のプロセス理解と意思決定支援	1
5 A	7/20	福岡県看護協会	がん性疼痛の看護ケア 入院から在宅まで	1
	9/6・7	福岡県看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	3
	9/6・7	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割	2
外来	5/5	eラーニング	立ち止まる臨床倫理のススメ（臨床倫理入門）	1

	5/5	e－ラーニング	ワンステップ上の人工呼吸器管理を身に着ける	1
	5/5	e－ラーニング	今更聞けない褥瘡の適切なアセスメントに必要な知識	1
	5/5	e－ラーニング	あなたのコミュニケーション特徴を知ろう	2
	5/11	e－ラーニング	これでもう迷わない急性期におけるせん妄対策パーフェクトガイド	1
	5/19	e－ラーニング	G L R I W e b 講演	1
	5/23	e－ラーニング	磨けコミュカ 医療安全のためのコミュニケーション	1
	5/28	e－ラーニング	S N S時代に知っておきたい医療職の情報伝達心得	1
	5/29	e－ラーニング	退院後の「暮らし」を支える訪問看護	1
	5/29	e－ラーニング	高齢者骨折の看護計画	1
	6/7	福岡県看護協会	コロナ及び新興感染症に備える為の基礎知識	1
	6/7	e－ラーニング	基礎から学ぶワクチン 麻疹風疹から新型コロナウイルス感染症まで	1
	6/26	e－ラーニング	看護師が知っておくべき耐性菌とマネジメント	1
	6/26	福大病院	抗がん剤治療における癌セミナー 脱毛	1
	6/28		糖尿病患者のジレンマ	1
	7/10		糖尿病看護実践能力開発セミナー	1
	7/22	内視鏡技師学会	第81回 九州消化器内視鏡（W e b）	3
	7/30		第39回有明糖尿病対策フォーラム	1
	8/9	e－ラーニング	環境整備～ベッドメイキング、リネン交換など	1
	8/9	e－ラーニング	入浴介助	1
	8/9	e－ラーニング	清潔のお世話～清拭、洗髪	1
	8/9	e－ラーニング	排泄のお世話～排尿、排便のお世話、おむつ交換など	1
	9/5	福岡県看護協会	コロナ及び新興感染症に備える為の基礎知識	1
	9/5	e－ラーニング	基礎から学ぶ褥瘡予防	2
	9/8	e－ラーニング	アラームに慌てない人工呼吸器の基礎をおさえよう	1
	9/8	e－ラーニング	病院における災害シミュレーション	1

	9/8	e－ラーニング	食事のお世話	1
	9/8	e－ラーニング	洗面のお世話	1
	9/8	e－ラーニング	口腔ケア	1
	9/8	e－ラーニング	移動のお世話	1
	9/8	e－ラーニング	療養生活にかかわるマニュアル	1
	9/26	福岡県看護協会	エビデンスに基づいた褥瘡予防とケアが実践できる	1
	10/2	e－ラーニング	看護師が知っておくべき耐性菌とマネジメント	1
	10/14	福岡県看護協会	看護補助者の活用促進に必要な管理者研修	1
	10/21	福岡県看護協会	災害時の看護職の役割を理解できる	1
	10/22	e－ラーニング	インストラクショナルデザイン	1
	10/22	e－ラーニング	診療報酬改定と介護報酬改定	1
	10/24	e－ラーニング	いまさら聞けない褥瘡	1
	11/6	e－ラーニング	外来看護のテクニック	1
	11/7	e－ラーニング	認知症ケアにおける医療安全	1
	11/13	福岡県看護協会	臨床で使える心電図をマスターしよう	1
	11/16	J T C A セミナー	老衰の前兆と診断 ～多職種で診る看るを支援する～	1
	11/20	医療安全	患者誤認による重大事故対策	1
	11/25	ライブ配信	イメグリンの特性	2
	12/8	福岡県看護協会	Q O L を高める心不全看護	1
	12/16	ライフスキキャンジャパン	医療安全からみた看護業務の効率化と院内血糖管理の重要性	1
	1/9	e－ラーニング	ティーチング・コーチング・ファシリテーションの基本	1
	1/9	e－ラーニング	急変対応	1
	1/9	e－ラーニング	多職種連携を基盤としたアドバンス・ケア・プランニング	1
	1/9	e－ラーニング	高齢者の「息苦しさ」をケアする	1
	1/9	e－ラーニング	移行理論とは何か、その真髄	1
	1/9	e－ラーニング	移行理論の実践へ 応用とそのアウトカム	1

訪問 看護	7/1・2	日本緩和医療学会	第27回 日本緩和医療学会	1
	7/20	福岡県看護協会	がん性疼痛の看護ケア	1
	8/27	福岡県看護協会	家族看護	1
	8/27・28	日本看護研究学会	第48回 日本看護研究学会学術集会	1
	9/18	聖路加看護大学	第27回 聖路加看護学術集会	1
	9/29	ウイルグループ ウイル訪問 看護ステーション江戸川	基礎から分かる 訪問看護のBCPと地域連携	1
	10/8・9		第29回 日本ホスピス、在宅、ケア研究会	1
	10/12	福岡県看護協会	NEW 最近の褥瘡ケア	1
	10/28	一般社団法人コミュニティー ヘルス研究機構	BPC シミュレーション訓練	1
	10/29	福岡県訪問看護ステーション 連絡協議会	利用者等からの暴力・ハラスメント防止等及び発生時の対応について	2
	12/1	ケアプロ訪問看護ステーション東京	訪問看護事業所における BCP	1
	12/5	福岡市こども病院地域連携室	令和4年度小児在宅訪問看護研修 小児蘇生	2
	12/23	福岡県難病医療連携協議会	災害時の人工呼吸器使用者への対応	2
	12/28	福岡市こども病院地域連携室	令和4年度小児在宅訪問看護研修 小児在宅患者急変時対応について	2
	2/1	福岡県看護協会	地域包括ケア時代に看護管理者が取り組む地域連携体制を考える	1
	2/3	福岡県高齢者地域包括ケア推進課	ACPセミナー	1
	2/18	日本看護協会	がん看護領域の認定看護師対象キャリアアップ研修会	1
	2/25・26	日本がん看護学会	第37回 日本がん看護学会学術集会	1

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、当院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み、患者さんとそのご家族の生活の質を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会」を設立し、セミナーを開催してまいりました。平成17年3月には、栄光ホスピス研究会を発展的に解消し、NPO法人栄光ホスピスセンターを設立。以後も、ホスピス緩和ケアの啓発活動に積極的に取り組んでいます。

	演題 又は テーマ	講師 (敬称略)	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療(ホスピス)に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	37
第4回 89.12.9	ホスピス～全人格的ケア 4つの痛みはどう應えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスケアにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 ～がん患者の心理をめぐって～	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 (医師部会)	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 ～どのように告知するか～ がん告知と精神的援助 ～どのように援助するか～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 ～死の彼方よりの医療～	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの困難は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川サト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライオン代表幹事	(第16回死の臨床研究会 記念講演会)	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について モルヒネによる疼痛コントロールの実際 ～非経口的使用法を中心に～	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって ～精神的援助のあり方を考える～	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「ホスピス・ナースの一日」 事例検討	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川サト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川サト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォrmコンセプトとがん告知 がん告知、その理論と実際 がん告知、その精神的援助 がん告知、看護婦の役割 終口もは剤使用の理論と実際	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長 武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	事例発表	354
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを －コミュニケーションをどのように－ 全人的ホスピスケアの実践	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島美知子 ホスピタリズム中島医院院長		154
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて ホスピスに生きて20年	迎 恵子 テレビ西日本報道部 チーフマネージャー・ディレクター 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおけるブラザリナシグ 症例発表－ブラザリナシグの関わり－	大内 裕子 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう －モルヒネ使用の理論と実際－	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 －全人的理解・全人的ケア－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	症例発表	184
第32回 96. 5. 18	死を生きる －ホスピスケアに従事して－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 河野 博臣 河野胃腸科外科医院院長	栄光病院開院10周年記念	399
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 浜口 至 北九州がんを語る会 代表 阿蘇品スミ子 久留米大学医学部 看護学科助教授 森山 健也 栄光病院協力牧師 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士		325
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピス－看取りを通して－ 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取り－訪問看護の実践から－	海尾 弘 栄光病院在宅看護士長 青戸 雄司 栄光病院内科部長 紅林 みつ子 訪問看護婦		256
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ターミナルにおけるコミュニケーション	山田 由香里 福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦 青木 福代 トータル・カンセリング・スクールセミナー講師	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部 死にゆく人への心のケア 藤江 良郎 栄光病院理事長 森山 健也 栄光病院協力牧師 第二部 家族の悩み・家族への援助 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 池田 典子 患者家族 熊谷真実・松田美由紀 女優	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子 死生学者・作家 高宮 有介 昭和大学病院医師		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	日野原重明 聖路加国際病院・理事長		377
第41回 99. 3. 13	家族への援助－家族に聞く－ 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 協力牧師 広瀬 典子 総婦長 青戸 雄司 内科部長 後藤 隆子 緩和ケア病棟婦長 平井 美幸 医療ソーシャルワーカー 松山やよい 患者家族 佐伯 洋文 患者家族		99
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 朔 元則 九州医療センター外科部長 中村 浩子 患者家族 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士 森山 健也 香椎バプテスト教会牧師		132
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 吉田 晋 栄光病院緩和ケア病棟医師 堺 千代 栄光病院緩和ケア病棟婦長		132
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事 崎田 雅子 ケア訪問看護ステーション訪問看護婦 荒瀬 泰子 福岡市保健福祉局高齢者部長		163

第45回 00.05.13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00.09.01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01.03.10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01.6.16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01.10.27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 Susan Lee 栄光病院ホスピス長		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02.03.02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事長		1950
第51回 02.06.08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03.01.18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのちを支えて」 講演「海外看護留学」 ～オーストラリアの緩和ケアにふれて学んだこと～ 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03.09.13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフケアを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04.01.17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表「積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って」 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリーン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04.06.19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカンゼンスクール主宰		292

第56回 05.03.05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか -ホスピス医として20余年- 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 -癒し癒され、癒されつつ癒す-	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤江 良郎 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NP0法人 設立記念 フォーラム 05.06.18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすもの～癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアを支えるいのち」	千住真理子 ヴァイオリニスト 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木哲夫 金城学院大学学長 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06.03.04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心-ホスピス長として- 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語る-理事長として-	吉田 晋 栄光病院ホスピス医長 麻生 直子 栄光病院MSW 林 邦男 栄光病院理学療法士 原田 公栄 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 石津 暁子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤川富佐子 栄光病院栄養士 徳永 悦子 患者家族 藤江 良郎 栄光病院理事長		218
第58回 06.09.30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み -在宅ホスピスケアの普及に向けて- ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 福岡県保健福祉部 理事兼医監 柏木 哲夫 金城学院大学学長 沼野 尚美 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07.03.10	こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語る～コミュニケーション こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの聲に寄り添って～チャプレンの立場から～	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 吉田 晋 栄光病院ホスピス長代理 赤司 宏子 栄光病院ボランティア 中島 祐子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン		129
第60回 07.10.20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 -栄光病院ホスピスの現場から- やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08.03.08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee 明治大学看護学科シニアレクチャー 下稲葉かおり 明治大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08.10.25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケア～今、一番伝えたいこと～ 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ～ともに感じるひとときを～ グリーフケアを考える ～ちいちゃんの歩みをとおして～ 悲しむ人と共に	武田康男 北九州市立総合療育センター歯科部長 金城亜紀 九州大学病院口腔外科歯科医師 須堯晴美 星の会 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09.03.14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 下稲葉順一 栄光病院ホスピス医長 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09.10.24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ～がん終末期患者を支えるとは～ 「緩和ケア認定看護師への道」 ～よりよい看護をはぐくむために～ 「死について考える」 ～オーストラリア・心のケア教育プログラムに参加して～	山岡憲夫 やまおか在宅クリニック院長 梅野理加 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 部屋和子 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10.03.13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』心をときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 工藤涼子 栄光病院ホスピス看護顧問 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム: 「温かいもてなし」ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区代表リーダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふあみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス病棟看護師 いやしの家施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナシュ大学看護助産師学科 レクチャー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会ったいのちに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者が教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエトリ・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18.11.17	メインテーマ「悲しみとともに生きること」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with: 悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり 明治大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19.3.2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20.1.18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきっかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

※2020年度、2021年度、2022年度はコロナ禍により栄光ホスピスセミナーは実施せず

■ 院外からの研修

令和4（2022）年度

No.	研修期間	（時間帯）	研修種別	所属施設・学校名	人数
1	4/11(月) - 6/3(金)		作業療法学科臨床実習Ⅲ	福岡リハビリテーション専門学校	1名
2	6/1(水) - 6/14(火)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
3	6/13(月) - 8/5(金)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	国際医療福祉大学	1名
4	7/1(金) - 7/14(木)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
5	7/6(水) - 9/10(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
6	7/11(月) - 9/10(土)		作業療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
7	7/12(火) - 7/29(金)		医療事務病院実習	麻生医療福祉専門学校	2名
8	7/19(火) - 9/10(土)		理学療法学科臨床実習Ⅲ	柳川リハビリテーション学院	1名
9	8/8(月) - 9/3(土)		言語聴覚学科臨床実習	麻生リハビリテーション大学校	1名
10	8/18(木) - 8/31(水)	(うち10日間)	医療事務 病院実習Ⅱ	大原保育医療福祉専門学校	1名
11	10/3(月) - 10/17(月)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
12	10/7(金)		言語聴覚学科一日施設見学	麻生リハビリテーション大学校	1名
13	10/13(木)	13:30-16:30	ホスピス研修【WEB】	唐津看護専門学校	37名
14	10/17(月)・19(水) 24(月)・26(水)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
15	10/24(月) - 11/19(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	帝京大学 福岡医療技術学部	1名
16	10/27(木)	13:30-16:30	ホスピス研修【WEB】	佐世保医師会看護専門学校	33名
17	11/1(火) - 11/15(火)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
18	11/18(金)		初期臨床研修(緩和ケア)	白十字病院	1名
19	11/22(火)		初期臨床研修(緩和ケア)	白十字病院	1名
20	11/28(月)		初期臨床研修(緩和ケア)	白十字病院	1名
21	12/1(木) - 12/14(水)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
22	12/1(木)	13:30-16:10	ホスピス研修【WEB】	福岡医療専門学校	56
23	12/12(月)・14(水) 19(月)・22(木)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
24	12/13(火)	9:30-12:30	訪問看護師養成講習会 【入門編】	北九州若杉病院	1名

令和5（2023）年

25	1/5(木) - 2/1(水) (学内実習日を除く19日間)		認定看護師臨地実習	久留米大学認定看護師教育センター	2名
26	2/1(水) - 2/15(水)	(※2/6(月)除く)	卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
27	2/6(月) - 2/25(土)		言語聴覚学科評価実習	麻生リハビリテーション大学校	1名
28	2/13(月) - 2/18(土)		理学療法基礎演習	麻生リハビリテーション大学校	1名
29	3/14(火)・20(月)・24(金)		介護支援専門員実務研修	—	2名

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 23 号

2023 年 6 月 27 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局

総務・システム支援課

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp/>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています

